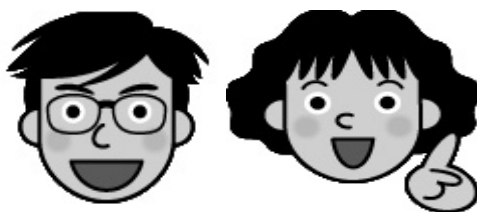


# 言葉の力

## 学校園全体で取り組む事例集

読書をしたり、  
1分間スピーチをしたり、  
毎日の生活の中で  
言葉の力は  
育っていくだね。

国語はもちろん  
社会や理科、  
算数・数学でも  
言葉の力がつくと  
活用力も高まるよ。



岡山県教育庁指導課  
平成20年3月

## はじめに

子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、様々な思いや考えをもつ他者と対話したり、豊かな言語生活を体験したりする機会が乏しくなったために、子どもたちが言葉で伝える内容が貧弱なものとなり、言葉に対する感性や知識、技能などが育ちにくくなっていると言われていています。言葉は、論理や思考など知的活動やコミュニケーション等の基盤であり、言葉の力の育成は今日的な課題となっています。

平成20年1月17日には、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」が出され、教育内容に関する主な改善事項の第一番目に「言語活動の充実」が挙げられています。そこでは、「国語科において、言語の果たす役割に応じた能力、感性・情緒をはぐくむことを重視する」とともに、「各教科等においては、国語科で培った能力を基本に言語活動を充実することの必要性を十分に理解し、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善する必要がある」とされています。

岡山県教育委員会では、平成19年5月に「言葉の力向上講演会・シンポジウム」を開催し、言葉の力育成に向けた気運を高めるとともに、「言葉の力向上委員会」において、学校園における言葉の力向上に向けた取組の在り方について検討を重ねてきました。

そして、この度、言葉の力や学校園における言葉の力育成の全体的な構造を示し、言葉をめぐる環境の充実や就学前教育、小学校・中学校における教科での取組について事例をまとめ、実践事例集を作成しました。各学校園におかれましては、本事例集を参考に学校や子どもたちの実態に合わせて工夫を重ね、言葉の力の育成や授業改善に取り組んでいただければと思います。

最後に、「言葉の力向上委員会」並びに「言葉の力向上委員会作業部会」の委員各位に対し、心よりお礼申し上げます。

平成20年3月

岡山県教育庁指導課長

竹井千庫

# 目 次

## I 理論編

1 言葉の力とは？	2
2 言葉の力がつくとき？	2
3 5つの目標 ～言葉の力を豊かに育成するために～	3
4 具体的にどんな指導をすればいいの？	3
5 留意することは？	4
6 言葉の力育成のための学校における取組（全体像）	5
7 発達段階に応じた言葉の力育成の活動例	6
8 教科の特性を生かした言葉の力育成の活動例	7

## II 実践編

1 言葉の力をめぐる環境の充実	
(1) 表現し合える集団づくり	10
(2) 読書活動	12
(3) 言葉の力を育成する場の設定	16
(4) 教師の話し方、掲示等	18
2 就学前教育の事例	21
3 教科の事例	
(1) 国語	
小学校	28
中学校	40
(2) 外国語	
中学校	46
(3) 社会	
小学校	54
中学校	57
(4) 生活	
小学校	61
(5) 理科	
小学校	63
中学校	66
(6) 算数・数学	
小学校	70
中学校	74

## III 資料

・言葉の力向上講演会・シンポジウム概要	80
・言葉の力向上委員会報告書	84

# I 理論編

言葉の力を育てる基本構造を示しています。

- 1 言葉の力とは？
- 2 言葉の力がつくとき？
- 3 5つの目標  
～言葉の力を豊かに育成するために～
- 4 具体的にどんな指導をすればいいの？
- 5 留意することは？

## 1 言葉の力とは？

理解力や表現力、思考力を育て、よりよい人間関係を築くために、言葉の力が重要です。

言葉の力とは、次の3つと定義します。

- (1) 言葉を読み取る力
- (2) 言葉を活用する力
- (3) 言葉でつなぐ力

言葉の力は、全ての教育活動や生活を通じて、意識的に育てていくことが大切です。



## 2 言葉の力がつくと？

### (1) 言葉を読みとる力 →

- ・豊かな語彙力をもち、文脈に応じて使いこなします。
- ・文章構成や論理展開を踏まえて、内容を理解します。
- ・文章や式、グラフ等の多様な資料を活用し読み取った情報を基に考えます。

### (2) 言葉を活用する力 →

- ・各教科における用語を使って、概念や考えを説明します。
- ・目的や意図、条件などに応じて、自分の考えを表現します。
- ・様々な資料を活用して、自分の考えを表現したり、意見交換したりします。

### (3) 言葉でつなぐ力 →

- ・言葉を使って自己表現や他者理解をし、視野を広め、豊かな人間関係を築きます。
- ・意見の違う人と積極的に議論して、協同的に問題解決します。

### 3 5つの目標 ～言葉の力を豊かに育成するために～

これらの言葉の力を育成するためには、「言葉の知識」を増やすとともに、「教養、価値観、感性」等を豊かに育てることを前提として、次の5つの目標を実現する学習指導を推進することが大切です。

- (1) 語彙を豊かにし、的確に使いこなす力を育てる。
- (2) 理解・評価しながら、聞いたり読んだりする力を育てる。
- (3) 目的や状況に応じて、考えを筋道立てて話したり書いたりする力を育てる。
- (4) 互いに尊重し合いながら、交流する力を育てる。
- (5) 本や新聞など多様なテキストに親しませ、考え方や感じ方を豊かにする。

### 4 具体的にどんな指導をすればいいの？

#### (1) 語彙を豊かにし、的確に使いこなす力を育てる。

- 【例】
- ・ 読書や遊びを通して、語彙を充実させる。
  - ・ 各教科で学習する語彙を整理し、まとめや話し合いに取り入れる。
  - ・ 学習や生活の様々な場面で、辞書を活用させる。



#### (2) 理解・評価しながら、聞いたり読んだりする力を育てる。

- 【例】
- ・ 式、グラフ、地図、文章等の情報の意味を考え、説明させる。
  - ・ 様々な具体的な事象から抽象的な概念を導き出したり、具体的事象に当てはめて説明したりさせる。
  - ・ 「事実と意見の区別」「判断と根拠」「原因と結果」「比較や対照」という観点から、聞いたり読んだりさせる。

#### (3) 目的や状況に応じて、考えを筋道立てて話したり書いたりする力を育てる。

- 【例】
- ・ 学習の様々な場面で、自分なりの意見を書く活動を取り入れる。
  - ・ 記録文、生活文、レポートなどを書く機会を、多様に設定する。
  - ・ 必要な資料等を使いながら客観的に論証する活動を取り入れる。
  - ・ 事実と考えを書き分けることや、書いたものを分析することなどを通じて、自分の考えを吟味させる。

#### (4) 互いに尊重し合いながら、交流する力を育てる。

- 【例】
- ・「聞く力」を育てる指導を重視する。
  - ・ペアや小グループ、学級内での話し合いをする。
  - ・意見の違う人と積極的に議論して、協同的に問題解決をする態度や、意見の対立が生じたとき、その対立を乗り越えて問題解決をする方法を身に付けさせる。

#### (5) 本や新聞など多様なテキストに親しませ、考え方や感じ方を豊かにする。

- 【例】
- ・読み聞かせなど、読書に親しみを感じる工夫をする。
  - ・朝の読書、日常生活での読書など、幅広く継続的な取組を行う。
  - ・1冊の本を読み合って話し合ったり、複数の本を比較しながら読むなど、多様な読書経験ができるようにする。
  - ・新聞等を読んで自分の意見を話したり書いたりする。

## 5 留意することは？

### (1) 発達段階に応じた指導の充実

発達段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理など、認識可能なレベルや実践できる水準が変化してきます。それに応じた内容や方法を工夫します。(P 6 参照)

### (2) 教科を横断した指導の充実

国語科を中核としつつ、5つの目標を必要に応じて組み合わせ、全ての教科等を横断した指導を充実していくことが大切です。

(P 7 参照)

### (3) 言語をめぐる環境の充実

次の視点で整備と充実を図ります。

- 表現し合える仲間づくり
- 読書活動の充実
- 言葉の力を育成する場の設定
- 教師の話し方・掲示等

### (4) 組織的推進体制

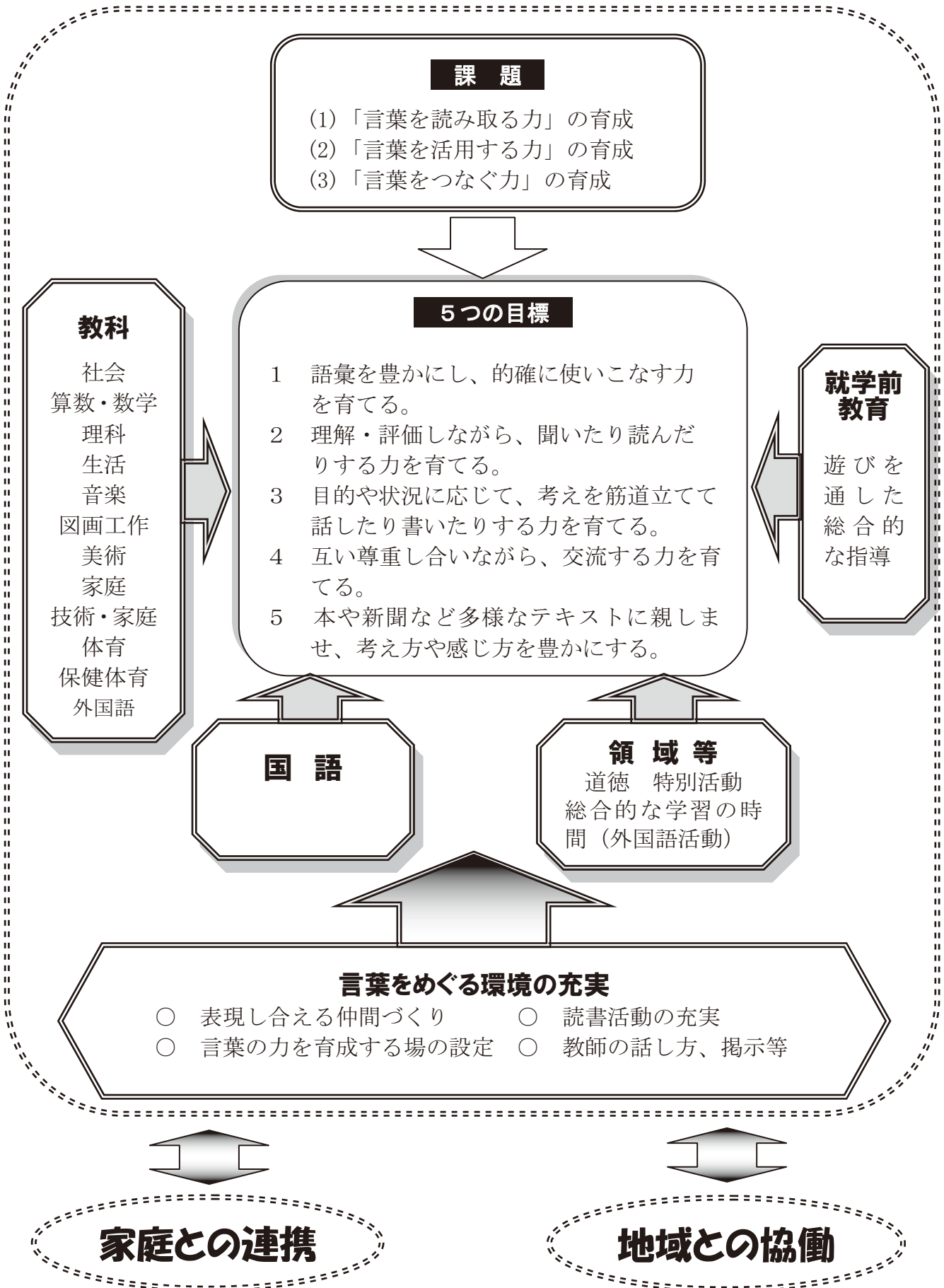
学校園全体で、組織的に取り組むことで、大きな効果が期待できます。

【例】

- ・教育課程編成の重点に位置付ける。
- ・校内研修のテーマに取り上げる。等



## 6 言葉の力育成のための学校における取組(全体像)



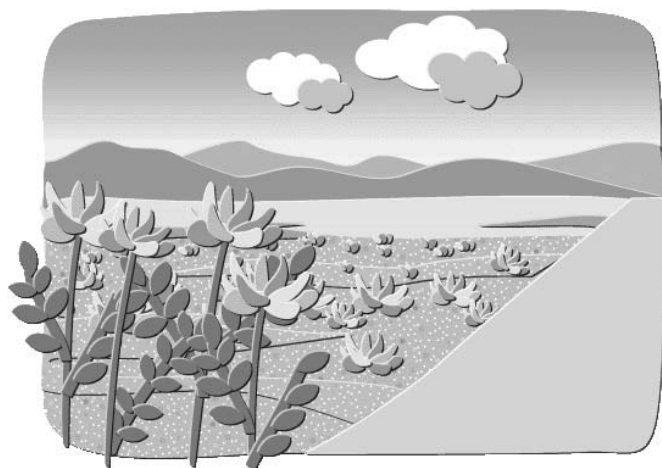


7 発達段階に応じた言葉の力育成の活動例（国語科を中心に）7

発達段階	幼児期	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
発達段階の特徴	言葉を獲得する時期	言葉の世界を広げる時期	言葉の力を確かなものにする時期	言葉の力を豊かなものとする時期	言葉の力を一層確か豊かにする時期
1 語彙を豊かにし、的確に使いこなす力を育てる	幼児教育では、以下のことに配慮しながら遊びを通しての総合的な教育活動を行っていく。 ○ 一つ一つの体験の関連性を図りながら、心動かされる多様な体験を重ねることができるようになる。 ○ 思い、考えを言葉に表し、教師や友達などに伝わる喜びを味わうことができるようになる。	長音、拗音、促音、撥音などの表記や、助詞の「は」「へ」「を」を文中で正しく使って書く活動 ○ 漢字調べを通して、漢字に対する関心を高め、理解を深める活動 ○ 主語と述語との関係に注意して、読んで書き直したりする活動 ○ 敬体で書かれた文章を読んだり、敬体で話したりする活動	表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べ活動 ○ ことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使用する活動 ○ 文と文のつながりが果たす指示語や接続語の役割を理解し、使用する活動 ○ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら、読んだり書いたりする活動	○ 語句の構成、変化などについて理解を深め、また、語句の由来などに興味をもつ活動 ○ 比喩や反復などの表現の工夫に気づく活動 ○ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ活動	○ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨く活動 ○ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、言葉や文章の中の語彙に関心をもつ活動 ○ 抽象的な概念を表す語句や、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにする活動
2 理解・評価しながら、聞いたり読んだりする力を育てる	○ 相手の話を聞き、内容を理解し、言葉による伝え合いを経験することができるようになる。 ○ 友達と遊ぶ中で、好奇心や探求心を育て、思考力の芽生えを培うことができるようになる。 ○ 幼児同士の学び合いが生み出されるようになる。 ○ 絵本や物語、生活の中で、音声の響きやリズムなど、言葉の楽しさや美しさに気付くことができるようになる。 ○ 絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わうことができるようになる。	○ 大事なことを聞き落とさないように興味をもって聞く活動 ○ 科学的なことについて書いた本や文章を読んだり、感想を書く活動 ○ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する活動 ○ 物語の登場人物になって演じることを通して、感じたことを話し合う活動	○ 目的に応じて、中心となる語や文ととの関係を考えて、文章を読む活動 ○ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に、話したり聞いたりする活動 ○ 関心のあることを手がかりに書くこととを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる活動 ○ 作品全体から物語をイメージして読む活動	○ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用して読む活動 ○ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む活動 ○ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する活動 ○ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえて、自分の考えを明確にしながらかんたんに読む活動	○ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介する活動 ○ 調べて分かったこととや考えたことなどに基いて、説明したり発表したり、それらを聞いて意見を述べたりする活動 ○ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる活動 ○ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む活動
3 目的や状況に応じて話し、考えを筋道立てて話したり書いたりする力を育てる	○ 絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わうことができるようになる。 ○ 絵本や物語などとの出会いで感じた様々な思いを、教師や友達と共有することができるようになる。 ○ 教師や友達に自分の言動が認められ自分のよさに気付くことで、一人一人の幼児が自信をもつよう行動できるようになる。	○ 話す事柄を順序立てて話す活動 ○ 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりする活動 ○ 経験したことを記録する文章や、観察したことを記録する文章を書く活動	○ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書く活動 ○ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する活動 ○ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて、話したり書いたりする活動	○ 目的に応じて、自分の立場から解説や意見、報告を書き、理由や根拠を示しながら説明する活動 ○ 自分の課題について調べ、活動報告や意見を書いたり編集したりする活動	○ 図表などを用いた説明や記録の文章を書く活動 ○ 多様な考えができてくる事柄について、立場を決めて意見を書き、活動報告や意見を述べる活動 ○ 関心のある事柄について批評する文章を書く活動
4 互いの尊重し合いながら、交流する力を育てる		○ 尋ねたり応答したり、グループで話し合ったり考えを一つにまとめる活動 ○ 伝えたいことを簡単な手紙に書く活動	○ 学級全体で話し合ったり考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする活動	○ 調べたこととやまとめたことについて、討論や話し合いなどをする活動	○ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行ったり、相手を説得するために意見を述べ合ったりする活動
5 本や新聞など多様なテキストに親しみ、考え方や感じ方を豊かにする		○ 物語の読み聞かせを聞いた後、物語を演じたりする活動 ○ 読んだ本について、好きなところを紹介する活動	○ 記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する活動 ○ 紹介したい本を取り上げて説明する活動	○ 伝記を読み、自分の生き方について考える活動 ○ 本を読んで推薦文を書く活動	○ 自分の読書活動を振り返り、本の選び方や読み方について考える活動

8 教科の特性を生かした言葉の力育成の活動例

5つの目標	外国語	社会	理科	算数・数学
1 語彙を豊かに、的確に使いこなす力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 語彙の提示の仕方と繰り返し練習する方法を工夫し、実際に使ってみる活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 我が国や世界の地理や歴史、法や政治、経済等に関する基本的な概念を活用して説明する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 科学的な言葉や概念を使用している考えたり、説明したりする活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数学的な用語・記号を理解し、数学的表現を使って説明する活動</li> </ul>
2 理解・評価しながら、聞いたり読んだりする力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書かれたものを読んだり、話されたことを聞いたりして、文法の知識を基に、相手の考えや意図を理解する活動</li> <li>○ 話の内容や書き手の意見などに対して感想や賛否を述べたり、その理由を示したりできるよう、書かれた内容や考え方などをとらえる活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章資料、グラフ、図表、地図などから事実を読み取る活動</li> <li>○ 資料から社会的現象をとらえ、様々な立場や視点から考察する活動</li> <li>○ 選択肢の中から適切なものを選び公正に判断する活動</li> <li>○ 人々にインタビューして、工夫や努力を知る活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事象の比較、分類して事象の特徴や性質をとらえる活動</li> <li>○ 観察・実験の結果を整理し、考察する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題解決をする活動</li> </ul>
3 目的や状況に応じて、考えを筋道立てて話したり書いたりする力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スピーチや会話などの実際的な言語の使用場面を設定し、文法を正しく用い、自分の考えや気持ちを適切に表現する力を育成する活動</li> <li>○ 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調べたことや考えたことをまとめ、活用しながら説明する活動</li> <li>○ 読み取ったことを分類し、その関係を考えたり説明したりする活動</li> <li>○ 学習した内容をまとめ、短文やキヤッチコピー等を作り、説明する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想・仮説を立て観察・実験を通して、図表や文章などで結果を整理し、考察を加えてレポートなどにまとめる活動</li> <li>○ 問題意識や見通しをもちながら調べた結果を視点を明確にして比較し、差異点や共通点をとらえ、記録したり発表したりする活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線などを用いて説明する活動</li> <li>○ 面積などの求め方を、具体物、言葉、数、式、図を用いて説明する活動</li> </ul>
4 互いに尊重し合いながら、交流する力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡単な話しかけに対して正しく応答する活動</li> <li>○ 身の回りの出来事などについて、事実関係を伝え合ったり、自分の考えを述べたりする活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 価値判断や未来予測等、議論が必要な場面で、意見交換をする活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予想や仮説・検証方法について、話し合いながら考えを深め合う活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師と児童生徒、あるいは児童生徒同士の対話を取り入れ、互いに自分の考えを数学的に伝え合う活動</li> </ul>
5 本や新聞など多様なテキストに親しませ、考え方や感じ方を豊かにする	<p>&lt;読書活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師等による読み聞かせや、異年齢で読み合う活動</li> <li>○ 学校での朝の読書、日常生活の中での読書など、幅広く継続的な活動</li> <li>○ 1冊の本をしっかりと読み合って議論する活動</li> <li>○ 複数の本を比較して読む活動</li> </ul>	<p>&lt;情報活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図鑑や事典などを必要に応じて選択し、使いこなす活動</li> <li>○ 目的に応じて様々な分野の本を読む活動</li> <li>○ 必要な情報を選び、要約する活動</li> <li>○ 新聞等を読んで自分の意見を話したり書いたりする活動</li> </ul>		



# Ⅱ 実践編

## 1 言葉の力をめぐる 環境の充実

日常生活の中で、言葉の力を育てるという視点から事例をまとめています。

- (1) 表現し合える集団づくり
- (2) 読書活動
- (3) 言葉の力を育成する場の設定
- (4) 教師の話し方、掲示等

# (1) 表現し合える集団づくり

## 聞き上手な子ども

人の話をよく聞く「聞き上手な子ども」になると、子ども同士につながりができ、温かい信頼関係で、結ばれていくことにつながります。

うなずきながら聞いている子、友達の意見を聞いて参考にしている子など、聞き上手な子どもの姿を認め、しっかりほめることが大切です。

また、高学年や中学生では、聞くことの意義や大切さを説明することも有効です。

そういう教師の姿勢から子どもは聞くことの大切さに気付き、発言は得意だけれど聞くことが苦手な子どもも、次第に、友達の話を聞くようになっていきます。

そして、友達の発言をしっかり聞こうとする雰囲気生まれます。

今日の算数で、こぼこぼこな形を勉強したけれど、友達の考え方と自分の考えを聞いてみると、友達のおもしろいところにもなるか、とか、思

## 自分の思いを自分の言葉で

自分の言葉で、思考を整理しながら、語れる子どもに育てていきたいものです。



はじめからうまく話せなくても、口ごもっても、教師は子どもの思いをしっかり受け止め、うなずきながら聞きます。そして、その子どもの考えを要約し、みんなに返し、認めます。板書などに、キーワードを書くのも効果があります。

自分の思いや考えを話すことは、ゆっくりでいい、飾ることもない、一言一言自分の言葉で話そうとする態度が大切である、という価値観を学級の中に育てていきます。

## 話し合うことのよさ

聞き上手なこと、自分の思いを自分の言葉で語ることを基盤に、「話し合うっていいなあ」と実感できる経験を積み重ねていくことが大切です。そのためには、次のようなポイントが考えられます。

### かかわりの場の設定

国語や算数・数学などだけでなく、技能教科においても、子ども同士のかかわりの場を設定する。

ペアや班など多様な小集団を使って、気軽にまじめな雰囲気の中で、教え合ったり話し合ったりできるようにする。

### みんなで考えるよさ

集団思考の楽しさや成長し合ううれしさを実感できる経験を積ませる授業づくりをする。

一人一人の経験に基づいた多様な考えが出てくるような発問や、友達の意見を聞きながら自己内対話をし、考えを深めるような練り上げをする。

### 未知の世界の楽しさ

明確な課題意識や知的好奇心をもって探究し、調べた事実や自分の考えや思いを交流し合う学習を設定する。

小集団や学級集団など、子ども同士のかかわりの中で、知らなかった世界に出会い、交流する楽しさを十分に味わわせる。

## 豊かな遊び

友達同士がしっかりと触れ合える遊びを経験することで、社会性や人間関係を育む力が育ちます。

現代の子どもたちの中には、遊びの経験が少ない子どももいます。友達同士が触れ合える遊びを学級でやってみたり、週に1回、班遊びを取り入れたりするような取組も効果的です。異学年での班遊びを取り入れている学校もあります。教師も無邪気に一緒に遊ぶと、より雰囲気よくなります。

そのような楽しさを存分に味わうことが、人に対する基本的な信頼感につながります。

また、遊びの中で子ども同士でトラブルを解決したり、メンバーに合わせて相談してルールを変えたり、遊び方を工夫したりする経験も大切です。



## 学校行事や学級活動

運動会や文化祭、弁論大会などの学校行事や、集会活動、学級活動等で、話し合ったことが生かされる経験を重ねることが大切です。その際のポイントとして、次のようなことが考えられます。

- 子ども主導の話し合いや取組にしておくこと
- 出された意見が実現していく充実感が味わえるようにすること
- みんなのことを考えた話し合いになるよう必要に応じて助言すること

た動中動  
とは、！そ  
思、男し  
いば女鳴て  
まくがり、  
す。ちつく育  
ののア祭  
一輪ン当  
生にコ日  
のな1の  
宝りル一  
物踊の体  
につ拍感  
なた手と  
っ感の感

・いで考 女では  
・う`え振子話`中  
・気み`りはし学校  
略持ん練付ダ合年校  
・ちな習けンっで生  
・がでしもスて、委活  
高創たりTに、男子最後  
まりりシ決めは、作の  
り上準ヤツまエッ、祭  
まげ備ツもした、り育  
ましてしも、サ、祭  
たいた自。サッ、自  
くり分。自分、の表  
んすたち、分た現  
だるち、に、ち  
と中

## 構成的グループエンカウンター

構成的グループエンカウンターでは、様々な「ふれあい体験」を通して、自己発見をし、行動変容を図っていきます。表現し合える仲間づくりという面でも、効果が期待できます。

### どのように行うの？

- 様々なエクササイズがあるので、学級の状態に合わせてエクササイズを選ぶ。
- 4月、5月、9月などの時期に連続して行うと効果がある。最初の1週間が特に大切。
- 居心地のよい雰囲気を作る。  
ざわついてきた時は、オルゴールなどの穏やかなBGMも効果がある。

### 気をつけることは？

- 必ず、ねらいを伝え、終わった後に「感じたこと、気付いたこと」を共有する「シェアリング」を行う。
- エクササイズを選ぶ時は、レクリエーション系のものから、人間関係づくり系に、そして、協力系に進めていく。
- 安心できる雰囲気の学級では、さらに、自己開示系へと進めるが、無理な場合はやめる。

## (2) 読書活動

### 学校図書館に行こう！

授業の中で、学級全員の子どもが学校図書館に行き、読書をしたり、情報を調べたりすることが、図書館利用の第一歩です。学年始めに図書館利用についてガイダンスをすると、利用しやすくなります。

子どもと一緒に本を借りるなど教師自身が図書館に親しむ態度が、図書館を身近なものとしていきます。

学校司書がいる場合には、授業の中でブックトークをしてもらったり、レファレンスサービス（調べものサポート）をしてもらったりすると、図書館利用の幅が広がります。



### 魅力的な学級文庫



子どもたちの身近な読書環境といえば、学級文庫です。

朝読書、休み時間、給食後等、思わず手に取りたくなるような学級文庫があるといいですね。そこで、そんな学級文庫にするための小さなヒントです。

- 破れた本や壊れた本を修理・廃棄する。  
(背表紙にカラフルな製本テープを貼るだけでも見違えるようになる)
- 新しい本を選定するポイント
  - ・子どもの興味・関心から
  - ・学習との関連で
  - ・教養、価値観、感性等を育てる観点から
- 教師が学級文庫を読んで、話題にする。
- 家庭や地域で不要になった本を寄贈してもらう。
- 他の学級の学級文庫と定期的に交換する。
- 図書系の活動を活性化する。  
(学級文庫だより、感想の紹介等)

### いつも身近に本を

図書館で借りた本、家庭からもってきた本等、身近にいつも本がある環境の中で、子どもたちは本好きになります。

作業学習が早く終わった後などの少ない時間であっても、本を読むよう教師が声をかけ、読書の習慣をつけることも大切です。

また、辞書を1冊、いつも身近に置いておき、国語だけでなく、様々な教科で活用すると、自然に語彙が広がります。言葉遊びのようなゲームに使うのも効果的です。



## お話シャワー

小学校 低学年

朝の時間や給食時間の始めなどに、学級で毎日、時間を決めて(10分程度)読み聞かせを行います。

<ポイント>

- ・絵本の絵を見せながら、温かい雰囲気で行う。
- ・子どものリクエストに応じたり、学習や行事に関連した本も適宜取り入れる。
- ・学級懇談会で、保護者や子どもの好きな本をあげてもらい、取り入れてみる。
- ・次第に、字だけの本や、比較的長いお話の本も加えていく。
- ・読んだ本の題を記録して掲示する。
- ・年度の終わりに、読んだ本でおもしろかったことなどを話し合う。
- ・話し合った後、「マイ・ベスト」を選ぶ。



## ともだち読書

小学校 異学年



大きい学年が小さい学年に、また、小さい学年も大きい学年に絵本を読んであげる、交流読書です。

読み合っているうちに、大きい学年の児童が小さい学年の児童に読みやすいように本の位置を気づかうなど、ほのぼのとした時間の中で読書が楽しめます。

<進め方>

- ① 事前に誰とペアとなるか知らせておく。
- ② その日までに、相手のことを考えながら、読んであげたい絵本を選んでおく。
- ③ 体育館など思い思いの場所で、絵本を読み合う。(時間を決めておき、その合図で交替する)

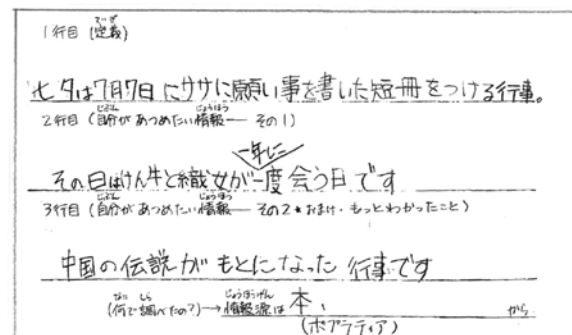
## 3行に変身!

小学校 中学年

百科事典等で調べた情報を3行に要約する活動は、情報活用能力を育てる上で有効だと考えられます。

<進め方>

- ① 『百科事典』の特徴を伝え、要約のポイントを説明する。
- ② 『百科事典』の一項目を例にして学級全体で3行にまとめることを体験する。
- ③ 学級で同じ項目を、3行に要約する作業を各自で行う。
- ④ 教師が、いろいろな観点で3行に要約した例を紹介し、それぞれの考える重要度によってまとめ方は変わるが、共通した概念である定義は一致していることに気付かせる。



参考文献: 『調べ学習の基礎』 赤木かんこ著・ポプラ社



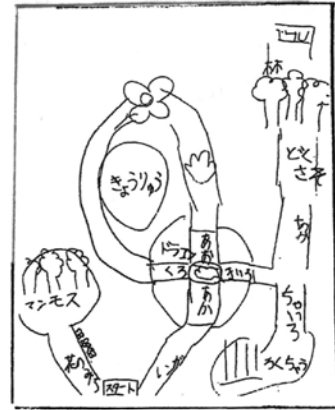
## 地図ができた！

小学校 中学年

絵本の読み聞かせを楽しみながら、正確に聞き取り、地図に表します。

<進め方>

- ① 『新・おっかなどうぶつえんちず』（西内久典文・なかのひろたか絵 福音館書店）の作中人物が地図を書く前のページまで読み聞かせる。
- ② 「さあ、みんなも自分で描いてみよう」と白紙の紙を渡し、時間を決めて各自地図を作成する。
- ③ 作成した地図を持って集まり、本の後半を聞きながら、自分が作成した地図と比べてみる。
- ④ 担任から、児童の地図例（独自の地図記号、発想のおもしろい地図など）を紹介してもらう。  
\* 答えは一つでなく、書き手によって様々な地図になることを知ることで、多様な読みができるおもしろさを味わうことができる。



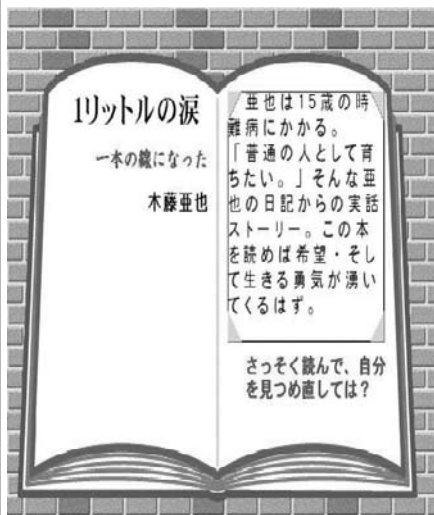
## 本の200字紹介

小学校 高学年

自分のお勧めの本を要約し、紹介文を発信します。

<進め方>

- ① 事前に紹介したい本を借りたり選んだりしておくよう指示しておく。
- ② 200字以内で、他の人がその本を読みたくなるような紹介文を作成する。
- ③ 紹介文を、コンピュータを使ってレイアウト作業を行い、図書館にその本とともに掲示してもらう。
- ④ 展示された紹介文と本を、他学年の児童が借りる時の参考にしてもらう。また、学級内で読み合い、感想を述べ合ったりする。お昼の放送などで、全校に紹介するとより一層関心が高まる。



## ミニミニ読書会

小学校 高学年

大勢の中では声に出しにくくても、小グループなら話せることがあります。ふだんの読書を基にして、様々な読み方や考え方に触れる機会を、繰り返し体験します。読書や本に対する興味がわくとともに、多様なものの見方や考え方に触れることができます。

<進め方>

- ① 共通の本を読んでいる土台がある時がチャンス。（集団読書、学級や図書の間での読み聞かせ等）
- ② クラスを小グループに分け、雑談の延長のような雰囲気大切にしながら、本を基にした、短時間のフリートークを行う。  
\* 担任や司書、保護者等が入ってもおもしろい。その時は、大人は、誰でも気軽に話せる雰囲気や様々な意見が出るようなサポートをする。大人の思いも、素直に語る。
- ③ 話し合った後、簡単な感想を一人一人がまとめることもできる。  
\* その際は、ぜひ、参加した大人もまとめた。

## お話キャラバン

中学校 委員会

図書委員を中心に、学区の小学校や公民館の行事で絵本や紙芝居を読みます。異年齢とのかかわりで、幼い子どもの満足感や生徒の成長が期待できます。

<進め方>

- ① 作品選定  
生徒達がおもしろいと感じ、小さい子どもに喜んでもらえそうな、大型絵本や紙芝居を選ぶ。
- ② 役割決定（会の進行、配役等）
- ③ 生徒全員がそろっての練習は難しいので、台本を渡し、各自で練習する。  
言葉が聞いている人に届くように演技方を工夫しながら練習する。
- ④ 通し練習
- ⑤ 最終練習、打合せ
- ⑥ 本番



## 特集展～興味をつかんで～

中学校 委員会

児童生徒の興味や関心をつかんで、図書委員会で特集展を開きます。  
時期を逃さず行うことで、図書への関心が深まります。

<進め方>

- ① 話題になっていることをつかむ。
- ② 関連資料の収集、選択をする。
- ③ アピールする展示や発信方法を検討し実行する。

<例>

日本語に関する書籍が多く出版されたり、「中学生の日本語の使い方は・・・」と話題になったりしているときに、ふだん間違っただまま使っている日本語や間違えやすい日本語をテーマごとに取り上げ、模造紙にまとめて展示する。



## 中学生にもアニメーション

中学校 全学年

読書に親しむアニメーションを中学生にも実施します。

<読書のアニメーションとは>

スペインのサルトとカバレロによって始められた子どものための読書活動。ゲームや遊びを取り入れて、「本の読み手」としての成長を促すことを目指す。

<例>「サラリーマン川柳を使って」

毎年4月に、サラリーマン川柳ベスト100が発表される。その年の流行や社会情勢がおもしろおかしく詠まれる川柳を利用して実施する。

- ① 全員で一つの川柳に隠してある言葉を考える。
- ② 各班に一句ずつを渡し、話し合っけて空欄の言葉を埋めて発表する。  
「一点で 二転三転 志望校  
「腑に落ちない ペットと俺の 生活差」など

### (3) 言葉の力を育成する場の設定

#### 授業での学習規律

##### 聞くこと

- 話す人を見て、反応しながら聞く。
- 最後まで聞く。
- 温かい気持ちで聞く。
- 自分の考えと比較して聞く。
- 聞きながら、質問、意見、感想をもつ。
- 必要に応じてメモを取りながら聞く。

##### 話すこと

- 学級の一人一人に話している気持ちで話す。
- 全体に聞こえる大きさ、速度で話す。
- 「話型」(P 19 参照)等を活用して話し合う。
- 思いや考えを話す習慣を身に付ける。  
(例) 語尾が「～ではないでしょうか」「～と考えたのですが」という表現を使う。

##### グループ学習

- 話し合うこと・順序を確認する。
- 助け合い協同して学習する。
- 分からないことを聞き合う。
- 役割分担を明確にする。
- どの子にも、リーダーやそれを支えるアシストとしての経験を積ませる。

##### ノート活用

- ノート活用の基礎  
丁寧を書く、マス目の空け方等
- 理解をするために  
アンダーライン、箇条書き、番号を付ける、図で表す等
- 思考を深めるために  
根拠をもとに自分の考えを書く。

ニュース発表のワークシート例

#### 1分間スピーチ

ニュース発表 名前  
月 日 曜

小見出し

ニュースの概要

自分の考え・感想

朝の会で、毎日1分間スピーチを交替で行います。

学校生活や家庭生活など、あらゆる場面で、気付いたこと、疑問に思ったこと、感動したことを感じ取る心のアンテナをはる言葉かけをします。

- ・登校途中の自然から
- ・新聞やテレビのニュースから
- ・係、当番、委員会から
- ・授業の中で

スピーチに対して、疑問や感想など、対話になるようにすると、コミュニケーション力が育ちます。

高学年や中学生では、ニュース発表もおもしろい取組になります。

#### 言葉の集会を楽しもう

学級集会や学年集会で、楽しみながら言葉の力を付ける取組もできます。

##### 劇づくり

<進め方>

- ① グループで、物語や小説を読みます。
- ② 対話形式の寸劇のシナリオを考え、作成します。
- ③ クラスや学年などで、劇の発表をします。観客となる子どもは聞きます。

##### 作品コンテスト

<進め方>

- ① 短歌・川柳・詩などを一人一人作ります。
- ② グループで発表し、いいところを話し合います。
- ③ よかったものをクラスや学年で発表します。

## 学習形態

話し合いをする時の形態は、場の設定として重要です。  
話し合いやすい形態の例として、次のようなものがあります。

### コの字型

○ 四角形の形で向き合う形態

#### <利点>

- ・顔を相互に向け合っている  
ので、話す相手を意識しや  
すい。
- ・学習場面では、真ん中の空  
間部分を効果的に使うこと  
もできる。

#### <留意点>

- ・角の席の子どもは、話し合  
いに参加しにくいので配慮  
が必要である。

### グループ型

○ 4人程度のグループの形態

#### <利点>

- ・身近に位置しているため、  
気楽に話し合える。
- ・一人一人の発言回数が多く  
なる。
- ・人間関係を学ぶ面でもよい  
効果が期待できる。

#### <留意点>

- ・必要に応じて、子どもの能  
力や人間関係を考慮したグ  
ループ編成をする。

### 円陣型

○ 丸い形で向き合う形態

#### <利点>

- ・全員の表情が全員から等  
しく見え、相互に顔を見  
ながら意見交換できる。
- ・聞き手は、発言者の表情  
や身ぶりからも聞き取る  
ことができる。

#### <留意点>

- ・二重の円陣の後ろの列の  
子どもは、参加しにくい  
ので配慮が必要である。

## 日記指導・学級通信

学校や家庭での心に残る行事やできごとなどにつ  
いて、日記を書かせ、教師のコメントを付けて返します。

量や内容は問いません。豊かな授業内容、学校生活  
を保障することが内容の充実につながります。

日記を学級通信に載せて朝の会などで読み聞かせを  
し、相互に認め合ったり感想を話し合ったりします。

読み合うことで、次のような効果があります。

- ① ふだん目立たない子どものよさを知るなど、  
一人一人の思いや考えを知る。
- ② 多様なものの見方や考え方、道徳性などに触  
れる。
- ③ 友達の様々な表現方法や内容に影響を受け、  
自分の表現方法や内容に取り入れる。

### 学級通信の例

うお ろ作 たうに  
家父わきつ人いコに食○  
のさたまて間へをとべ○  
人んしいがんも思て君  
にみもた。二ならつほの  
なた、な千んってしお  
りいいん年だて、い父  
たいにつてもと、わかさ  
い、か、前思肥ざらん  
で、や、とかい料わ、は  
す。さ○ てらまをざ安、  
し○ もおし作牛全み  
い君 お米たつのなん  
のの どを。てウよな



## 視写・聴写

### 視写

朝の学習などの限られた時間で、原稿用紙  
等を使い、書き写します。

写す内容は、詩や新聞のコラム、国語の教  
科書の物語文、説明文など、分かりやすい文  
章や美しい文章に触れることができるよう  
にします。実態に応じた量に分けて行います。

### 聴写

明日の予定について、教師が話す内容を子  
どもが聞き取り、連絡帳に書くようにします。

教師が、書き取りやすく分かりやすい話し  
方をするのが大切です。

## (4) 教師の話し方、掲示等

### 教師の話し方・聞き方

教師の話し方・聞き方は、子どもたちの一番のモデルです！

～ 丁寧で受容的な雰囲気をもとに、こんな工夫を… ～

#### <話し方>

##### 発声・発音

**大きさ** ～相手に伝わる大きさ  
場所にあった大きさ

**高さ** ～相手が聞きやすい高さ  
も

**発音の明瞭さ**  
～口を大きく開けて

##### 豊かな表現力

**強 弱** ～強調するところを強く  
声を落として引き付ける

**緩 急** ～大事なところはゆっくり

**間** ～文章のまとまりで  
強調したいところで

##### 分かりやすく

**内 容** ～必要以上に詳しく言わない  
具体例を入れる

**順 序** ～初めに全体像や結論を言う  
小見出しを付ける  
順序を考えて話す

**長 さ** ～一文一文を短く話す

##### 心に届く話し方

**価値ある題材**  
～教師が主題を明確にもつ

**話し方** ～すぐ本題に入る、  
説明をしてから描写をする

**相手意識**～一人一人と視線を合わせ  
ながら

##### 共通語、敬語

- ・相手、場面等に合わせて適切に使う
- ・公的な場面では共通語を使う
- ・日常生活で敬語を使う



#### <聞き方>

##### 「聞く」基本

- ・体を向けたりうなずいたりするなど、  
受容的に聞いていることが相手に伝  
わるような聞き方をする
- ・どんな発言も真剣に聞く
- ・どのように考えて答えを生み出した  
のか、その過程をじっくりと聞く

##### 論理を「聴く」

- ・話がいくつに分けられるか考える
- ・論証の型をもとに、まとまりを再構成  
しながら聴く  
(発端－展開－結末－評価)  
(三段論法) (帰納) (演繹)
- ・その発言は、本時のどこに位置付けら  
れるかを意識して聴く





## 2 就学前教育

言葉の力向上に向けた環境構成や教師の援助、言葉遊びなどの事例を紹介しています。

\* 事例の中では、言葉の力育成のポイントを**ポイント** ★として示しています。参考にしてください。



## 話すこと、聞くことが楽しくなる環境を工夫する事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

## マイク

- 行事や学級での話し合いなどみんなの前で話す時、話したくなる気持ちが高まったり、楽しい気分を味わえたりすように、マイクの模型を用意する。

## コーナー

- 指人形やペープサートのコーナーを作り、生活の中でそれらを使いながらイメージをふくらませておしゃべりを楽しんだり、自分なりの言葉で友達とやりとりをして遊んだりできるようにする。

## 共通の話し合いに必要な絵

- 前日話題になった、当番活動で困ったことについて、話の内容を整理したり、共通のイメージをもったりして話し合いに参加できるようにうさぎ小屋の見取り図を用意する。みんながイメージを確認しながら、意欲をもって発言できるようにする。

「ここに、ウサギのウンチがいっぱいあってたいへんだった。」

「こっちから（絵を指さしながら）はいたらうまいくんじゃない？」

\*この他に、電話機やテレビの枠なども効果的です。



## 絵本に親しめるように、環境の工夫をする事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

## 保育室

- 保育室の絵本棚に置く本を選ぶ。
- 絵本棚の近くにゴザを置き、絵本コーナーを作ることができるようにしておく。
- 今日読む本を、絵本立てに立て、幼児が意識できるようにする。

## コーナー

- 次のような場所に、図鑑や絵本などを置き、いつでも手に取ることができるようなコーナーを作る。
  - ・飼育容器の横に、生き物にかかわる本を。
  - ・秋の自然物やどろだんごなど、展示物や掲示物のそばに本を。

## 読書の幅を広げる

- 読書の幅を広げる観点から本を選び、目に付くところにそれらの本を置いたり、読み聞かせをしたりする。

<例>

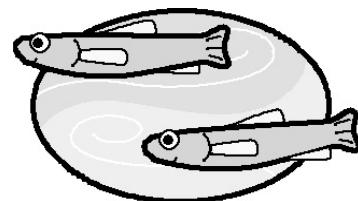
- ・シリーズになっている本
- ・少しずつ読み進める物語の本等

## ポイント

★一人一人の幼児と絵本との出会いを充実したものにしていくために、絵本が幼児の目に触れやすい場に置かれていることや、落ち着いてじっくり見ることができる環境に努める。

★絵本選びのポイント

- ・季節や自然を感じられるもの
- ・豊かな情操に結びつくもの
- ・保育内容とかかわりの深いもの
- ・幼児が興味・関心をもっているもの



## 語彙を豊かにしたり、言葉のおもしろさに気付いたりする事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

- 生活の中で身近な言葉にたくさん触れ、興味をもつことによって語彙が増えたり、言葉のおもしろさに気付いたりすることをねらう。

## 言葉集め

- 「あいうえお」ごとに、頭に付く言葉を集める遊びである。最後に「ん」がついてもよいし、動詞や形容詞でもよい。

## しりとり

- 「しりとり」は、単語の最後の音を認識して、次の単語の頭の音につなぐ、やや高度な言葉遊びになるため、学級の子どもの実態を把握して行う時期を考えたり、最後の音が認識できるように教師が援助したりする。
- 始めは学級全体で教師が助言しながら行う。次第に5～6人のグループで行い、単語を言う機会を増やして遊びの楽しさがしっかり味わえるようにする。

## 伝言遊び

- 簡単な単語の伝言から始め、「言葉が伝わる喜び」「ささやき合って伝える喜び」が十分感じられるようにする。
- 次第に「主語、述語のある文章」「形容詞が加わった文章」の伝言に高め、言葉の伝わり方を楽しむ。

## ポイント

- ★意図的に取り上げて、言葉のやりとりをする時間を確保する。
- ★話を伝えやすいように、遊びに合った場の工夫をする。
- ★幼稚園の活動の様子を、家庭に伝え、保護者とも楽しめるようにする。

## 指を使ってお話をすることで、簡単な会話を楽しむ事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

- ① 半円机に集まる。
- ② 指のお話を聞く。  
指のお話に参加する。

## 指の使い方



先生（親指）

先生のおうち  
(中に先生がいる)

## お話のあらすじ

T：きょうはどこに遊びに行こうかなあ  
 C：こっち、こっち  
 T：あ、ここにおうちがある。  
 誰のおうちかなあ、トントントン  
 C：（親指を立てる）  
 T：私は〇〇先生。あなたはだあれ？  
 C：（自分を名乗る）  
 T：「〇〇ちゃんのおうちだったのね。  
 これからお隣のおうちに遊びに行くんだけど  
 〇〇ちゃんも一緒に行く？」

このようなやりとりを一人一人としていく。途中、「おうちで何をしていたの？」「おやつを食べた？」などと話しかけ、簡単な会話を楽しむ。全員とやりとりをしたら、「また遊ぼうね」と親指を手の中にかくす。

## ポイント

- ★幼児が落ちついて言葉のやりとりができるように、みんなの顔が見える低い机を使用する。
- ★言葉にならない表現も受け止め、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ★言葉にしにくいことがあれば、対話しながら教師が言葉で表していき、やりとりを楽しむ中で言葉を知っていけるようにする。

## 友達と楽しくコミュニケーションを図れる遊びを取り入れる事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

- ① 教師の話聞いて、遊びの流れを理解する。
- ② 繰り返しの言葉を自分の言葉で伝えようとする。
- ③ 友達の話聞いて、言葉を繰り返し、言葉のやりとりを楽しむ。

## 遊び方

井戸におおかみが入る。井戸から少し離れた周囲には、距離をおいて幼児が座っており、おおかみは誰か一人の名前を呼び、助けを求める。

「○○ちゃん、おおかみが井戸に落ちたから、一緒に助けて」「いいよ」という内容のやりとりをしながら、大きなかぶの方法で一人ずつ助けてくれる人を呼び、次々に増えていく。次に誰を呼ぶか、考えたり相談したりする。

参加者みんなが揃わないと、おおかみは助からない。そして、みんなが揃い「うんとこしょ、どっこいしょ」を2回繰り返すと、おおかみが井戸から出てくる。

出てきたとたん、意地悪おおかみに変わり、みんなを追いかける。はじめに捕まった幼児が次のおおかみになる。

## ポイント

★学級を分けて10人程度で行うことで、発言しやすく繰り返しの遊びが楽しめるようにする。

★場を広く使い、幼児同士の距離を取ることで、聞こえるように声を出そうとする。

★次に誰を呼ぶか考えたり友達と相談したりする機会をつくることで、自分の思いを言葉にしながらか遊びを楽しめるようにする。

★間があっても、教師もワクワクする感じを幼児とともに楽しむ。

## 一人一人の特性に応じて、思いを言葉に表現できるように援助する事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

自分の思いを表現することが苦手なA児が素直に表現した事例

ウサギが三羽生まれ、みんなでかわいがっていた。クラス活動でウサギの絵をかくことになった。

A児は黙々と真剣な表情でかいている。

A：先生、できた。(小さな声で)

T：Aくんかわいいウサギがたくさんかけたね。

A：ウサギの友達な、たくさんかいた

T：みんな友達なんだね。

A：にんじん大好きじゃけん、みんなのにんじんかいた

T：そっか、大好きなにんじんがあって嬉しいだらうね。

A：あんな、みんな、にんじん食べてるとこ

T：とってもすてきだから、みんなに、見せていい？

その後、自分の絵をめぐって友達の中で話題が盛り上がり、自分から嬉しそうに発言するA児の姿が見られた。

## ポイント

★A児が大好きなウサギを題材に取り上げることで、自分の思いがたくさん詰まった絵に仕上げることができた。

このことが自信になり、思いを言葉に表現したり友達に伝えたりしようとする姿につながった。

また、友達と共通の話題ができ、友達との会話をゆっくり楽しむことができた。



## 考えたり試したりしながら友達と協力して遊ぶ中で、言葉を積極的にかわす事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

砂場に、川を作ることに興味を持ち始める。  
川に水を流したい、長く水が流れるようにしたい  
という思いをもつが、うまくいかない。そこで、70cm  
の長さのトイを6本用意する。

5月 トイだ！水を流してみたい！

かごを下に置いて、トイをななめにしよう！

今日はこんなにしてみよう！

トイをつないだり、高低差をつけたりし  
て遊びが広がる。

自分の思ったことを言い合いながら、置  
き方や傾け方をいろいろ試し、水を流すこ  
とを楽しむ。

9月 トイって、こんなこともできるよ！

二方向から水を流して一つの穴に合流さ  
せたいという願いを実現するために、アイ  
デアを出し合う。

## ポイント

★挑戦や新しい気付きのある遊  
びができるような環境を構成  
し、友達と一緒に試したり繰  
り返しやってみる遊びをしつ  
かり体験できるようにする。

・幼児の様子を見ながら、使  
えるトイの数を増やしたり  
台を用意したりする。

★幼児が友達に思いや考えをを  
伝えたり、受け止めてもらっ  
たりする経験が豊かにできる  
ように援助する。

## 偶発的に起こったことを、言葉を使った体験につなぐ事例

## 取組の内容・資料・留意事項等

5月 桜の木の近くで虫に刺された

「この虫、なんだらう。」

「先がバイオリンみたいだからバイオリン虫だ。」

学級で話し合う

「ちがうよ。ヨコヅナサシガメムシだよ。図  
鑑で見つけたよ。」

「みんなが刺されないように、紙に書いて桜  
に木に貼っておこう。」

ポスターを作る

「字が分からんから、先生一緒に書いて。」

「ポスターを見せながら、お知らせに行こう。」  
(さらに深い関心を寄せている。)

虫博士の先生の話聞く

「どうして、Aくんは刺されたん？」

「ヨコヅナサシガメムシは、どこから来たん？」

「こんなにいっぱい、仲間がおるんじゃ」  
(みんなが食い入るように聞いている。)

ヨコヅナサシガメムシ新聞を作る

「虫博士に教えてもらったことを知らせたいな」

## ポイント

★幼児の発見やつぶやきを逃さ  
ずとらえ、受け止めたり、広  
げたりしていく。

★幼児が知っていることや調べ  
たこと、疑問に思っているこ  
とを学級全体のこととして取  
り上げ、話し合う場を設ける。

★幼児のもっと知りたいという  
欲求をとらえて、博物館の学  
芸員（虫博士）の話聞く機  
会を設ける。

★書きたい気持ちは強いが、ど  
う書けばよいか分からないと  
きは、幼児の言葉を簡条書き  
や図にして、幼児は書けると  
ころから参加できるようにす  
る。



### 3 教科の事例

国語、外国語、社会、生活、理科、算数・数学の言葉の力育成に向けた事例を紹介しています。

\* 事例の中では、言葉の力育成のポイントを**ポイント** ★として示しています。参考にしてください。

詩の世界を味わい、日本語のリズムや響きを感じる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 4月、国語教科書の見開き等にある詩を読み、感想を発表したり音読を聞き合ったりする。
- ② 暗唱という言葉の意味を知り、挑戦してみる。
- ③ 毎月新しい詩と出合い、暗唱していくことで、たくさんの詩と仲よくなろうという学習課題をつかむ。また、暗唱への取り組み方を知り、意欲をもつ。

ポイント

★一斉に音読したり、役割を分担して読んだり、身ぶりをつけて音読をしたりするなど、声に出して読むことの楽しさを味わえるようにする。

★二人組で聞き合い、合格サインを書いてもらったり、みんなの前で暗唱する場をつくり拍手をもらうなどして、楽しみながら挑戦できるようにする。

★「今月の詩」は、月の初めに紹介して、みんなで読み合い、読み方や語句の意味を確認する。

★取り組み方を書いた文章や合格サインの台紙を、家庭学習用の音読カードに貼っておくなどして、一年間取り組めるようにする。

「今月の詩を暗唱しよう」の取り組み方

- 1 今月の詩が決まったら、友達や家の人に聞いてもらって練習しましょう。
- 2 暗唱できたら、先生に聞いてもらいましょう。  
聞いてもらうときは、次のように言いましょう。  
「〇〇先生、今暗唱を聞いてくださる時間がありますか。」  
「聞いてください。」  
終わったら、  
「ありがとうございました。」  
とあいさつをしましょう。
- 3 合格したら、校長先生に聞いてもらい、合格のサインをもらいましょう。

★聞く時は、覚えていることだけを評価するのではなく、声の大きさや間の取り方など、詩の世界を感じて音読をしている様子をしっかりと認めるようにする。

合格サインの台紙

今月の詩（例）

- 4月 「はるですよ」 与田 準一
- 5月 「たんぼぼ」 川崎 洋
- 6月 「かつば」 谷川 俊太郎
- 7月 「おれはかまきり」 工藤 直子
- 9月 「雲」 山村 暮鳥
- 10月 「大漁」 金子 みすゞ
- 11月 「キリン」 まど・みちお
- 12月 「かたつむり」 三越 左千夫
- 1月 「がんばれまーち」 阪田 寛夫
- 2月 「序詩」 室生 犀星
- 3月 「うめの花」 宮沢 章二



校長先生にほめられてうれしいな。  
また読みたいな。

★発達段階に合ったもの、リズム感があって覚えやすいもの、生命の強さ・すばらしさ、生き方などのテーマ性があるものを選ぶようにする。

目的に応じて書くとともに、友達と言葉を伝え合う喜びを感じる事例

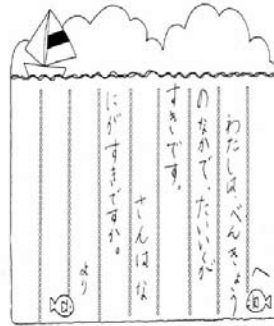
学習活動・資料・留意事項等

① 先生から手紙をもらい、もらった時や読んだときの気持ちを発表し合い、「友達とお手紙交換をしよう」という学習課題をつかむ。

先生より  
えに よがいて ひろ  
ても こうりたつ 休みき  
ね。こんずがねぼ みく  
つどね。と。う かんへ  
をみてさ をんへ  
おんもか しに  
しな じ上て、

② 先生の手紙を参考作品として、全体で手紙を書くときのポイントを話し合い、友達に手紙を書く。

手紙を書くときのポイント  
○相手のことを考えた言葉遣いをする。  
○相手の名前と自分の名前を忘れずに書く。



ポイント

★全員が手紙をもらえるように、交換する相手は決めておく。

④	③	②	①	
は へ を を 正 し く	、 、 「 」 を 正 し く	を ら っ た か ん ま い	て い ね い な ま を 書 て	チ エ ッ ク ポ イ ン ト
				自 分
				友 達
				先 生

読みかえしチェックシート

★手紙を読み返す時は、チェックカードを使うことで、見直しの観点が必要に付くようにする。  
★教室内に常時置いておき、いつでも使えるようにしておく。

③ マイポストを作って教室に設置し、手紙を入れる。

★空き箱に色紙を貼り、ポストの名前と自分の名前を書く。  
★壁面に並べたり、椅子の後ろにつけたりする。



④ 国語の時間に一斉にマイポストから手紙を取り出して読む。全員で参考作品を読み合い、返事のポイントを話し合って返事を書く。

手紙の返事のポイント  
○質問されていることに答える。  
○手紙を読んで思ったことを伝える。  
○字の間違いがいいか見直す。

★手紙をもらったときのうれしい気持ちを発表し合うことで、手紙を出し合う良さを実感できるようにする。



⑤ 次のような工夫をしながらお手紙交換を続ける。

☆順番にペアを変えながら、学級の友達全員とお手紙交換をする。

☆もらってうれしかった手紙の発表会や文集作りをする。

☆道徳や人権週間などと関連させて、ありがとうカードの交換をする。

☆手紙の用紙を選べるようにしたり、月ごとに変えたりする。



かるた作りやかるた遊びを通して、言葉のリズムを感じる事例

学習活動・資料・留意事項等

ポイント

① かるたで遊ぶ。

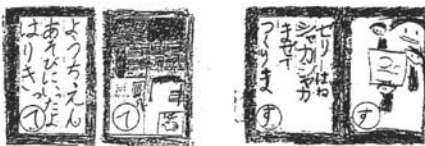
★事前に左下のような「かるた」を作っておき、そのかるたを提示し、かるた作りに興味をもたせる。

② 言葉を集めて読み札を作る。

- ・生活科の活動を振り返る。  
(单元例) ともだちいっぱい  
やさいをそだてよう  
わくわくなつあそび  
あきとあそぼう

★これまでの生活科の活動の中で一番楽しかったことを、いっしょに学習してきた友達に伝えるためにかるたを作ることを知らせる。

- ・題材を集め、読み札を作る。



★児童が書きたいことを読み札にするので、五十音すべての読み札はそろわなくてもよいことにする。また、字の重なりがあってもよいことにする。

★一般的なかるたとは異なり、最後の文字を絵札に書くようにする。必然的に最後まで聞く態度を育てることになる。

- ・リズムのよい読み札にする。

★①で提示したかるたを用いてリズムよく読めるひみつをみんなで見つけ、言葉のリズムに気をつけながら自分の作った読み札を見直すように助言する。

③ かるた大会をする。

<ルール>

- ・グループに分かれて実施するため、読み札は1枚、絵札はグループ数用意する。
- ・取った人は、読み手になる。
- ・読み札の最後がよくわかるように終わりに「はい」をつけて読む。

★全員が読み手と取り手の立場を経験できるよう、グループ分けやルール作りに配慮する。

★リズムよく読んだり、最後まで落ち着いて聞くことができたりしている児童を称揚する。

取り手のグループ  
1

読み手のグループ

取り手のグループ  
4

取り手のグループ  
2

取り手のグループ  
3

★かるた大会が楽しかったわけをみんなで考え、話すこと・聞くことへの意識を高める。

漢字調べを通して、漢字に対する関心を高め、理解を深める事例

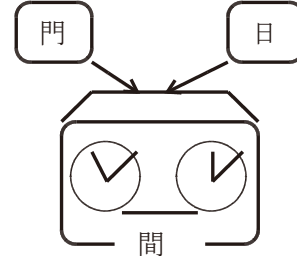
学習活動・資料・留意事項等

★中心教材「カンジーはかせの大はつめい」（光村図書2年上）

① 教師自作の教材により、漢字の合体について知る。

**ポイント**

★漢字の組み合わせに興味をもてるように、右図のような仕組みを提示し、説明する。



② 例題をする。

(例題1)

- ・「門」と「耳」を合わせるとどんな漢字ができるでしょう。→「聞」
- ・「力」と「田」を合わせるとどんな漢字ができるでしょう。→「男」

(例題2)

- ・「生」とどんな漢字を合わせると「星」ができるでしょう。→「日」
- ・「糸」とどんな漢字を合わせると「絵」ができるでしょう。→「会」

③ 小学生新聞（漢字にふりがながついている）の一面から、2つの漢字を組み合わせでできた漢字を見つけ、記事の中に○を書き込む。

★漢字を組み合わせで別の漢字ができることが、より具体的に分かるように漢字カードを使って出題する。

★既習漢字を組み合わせた未習漢字は、逆の思考をすると扱えることを理解させる。

★初めて見る記事の中から漢字を見付けることができるように、小学生新聞の一面を二人で使い、大きな字や裏面などから探してよいことを伝える。

★組み合わせる漢字を確認したいときには、教科書の付録の漢字表を参照させる。

④ 丸で囲んだ記事の中の漢字を基に、組み合わせを考えてワークシートに記入する。

★未習漢字も取り上げてよいことにするが、組み合わせる一方の漢字を推察する問題にさせ、誤って分解しないように机間指導をする。

⑤ 掲示用のカードに記入し、発表し合う。

(発表例) ・「矢」と「口」を合わせると何になるでしょう。→「知」です。  
 ・「少」ないと何か分からない漢字を合わせると、「省」になります。  
 何の漢字を合わせたのでしょうか。 →「目」です。

★漢字と漢字を組み合わせると違う漢字がたくさんできたことを称揚し、学習意欲を高めるようにする。

(児童の感想例)

- ・いろいろな漢字があるんだな。
- ・まだ習っていない漢字の読み方がわかったよ。
- ・組み合わせでこんな漢字ができるなんて驚いたよ。
- ・漢字っておもしろいね。もっと勉強してみたいよ。

場面の移り変わりを叙述を基に想像しながら読む事例

学習活動・資料・留意事項等

★中心教材「モチモチの木」  
(光村図書3年下)

- ① 物語を通読し、物語全体から心を感じたことを「〇〇は△△だな。」という形で書く。
- ② 感想を話し合い、課題をつかむ。  
・豆太の弱虫なところを確かめよう。  
・豆太のすばらしいところを確かめよう。
- ③ 「弱虫」という視点から、全文を自分の力で読む。  
・「弱虫」と感じるところに青ハートマークをつけてサイドラインを引き、理由や解釈を書き込む。
- ④ 見つけた「弱虫」なところについてみんなで話し合う。
- ⑤ 「すばらしい」という視点から、全文を自分の力で読む。  
・「すばらしい」と感じるところに赤ハートマークをつけてサイドラインを引き、理由や解釈を書き込む。
- ⑥ 見つけた「すばらしい」ところについてみんなで話し合う。

**ポイント**

★物語全体から新鮮で多様な感想をもつことができるように、無理にまとめさせないようにする。

★たくさんの感想をもてたことを称揚する。  
★黒板に板書した感想を概観させ、物語全体に関係する感想について話し合わせる。その感想が本当かどうか確かめようと投げかけることで、読みの課題をつかませる。

★全文を意識して読むことができるよう、全文を画用紙大一枚にまとめたワークシートを用意する。物語全体から見付けさせることで「変化」などに気付かせることができる。

★児童一人一人がもった多様な読みを交流させ、高め合わせる。  
★児童は、豆太の言動や、モチモチの木の状況やじさまとの関係などを解釈しながら読むので、児童の解釈や気付きを適宜板書に位置付ける。

★多様な読みを話し合わせ、高める。  
★児童は、豆太の言動や描写の分析や弱虫な豆太との比較などから課題を確かめる。そうした児童の読みを適宜板書に位置付け、その読み方にも気付かせる。

★価値ある読み方を取り上げ、再度読み直すことで、言葉の力の定着を図る。

★感想を大きく2種類に整理した後、まず、豆太の「弱虫なところ」を取り上げ、次に「すばらしいところ」を取り上げることで、場面が進むごとに変化する豆太の言動を叙述に確かめさせ、物語全体の描き方によって読みが形作られていることを大切に指導する。

国語辞典に親しみ、積極的に活用しようとする態度を育てる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 各自国語辞典を開き、感想や気付いたことを出し合う。
- ② 「国語辞典名人になろう」という学習課題をつかむ。

ポイント

★自由にページをめくり感想を言い合うことで、国語辞典に親しみをもつことができるようにする。

《名人への道》  
 ステップ1 国語辞典のひみつをさぐる。  
 ステップ2 国語辞典の中の言葉をすばやみで見つける。  
 ステップ3 国語の時間はいつも国語辞典置く。

★名人への道を示し、学習の見通しをもつことができるようにする。

- ③ グループで国語辞典のひみつをさぐり、発表会をする。

発表会の内容（例）

- ・「円陣」と「エンジン」、どっちが先？
- ・サーカスののばす音は？
- ・「やよ（よう音）」「っ（そく音）」は？
- ・一つの言葉にたくさんの意味があるときは？
- ・例ってなんだろう？

★発表会を通して、国語辞典の特徴や使い方が理解できるように、発表の内容や方法を助言する。クイズ形式で進めてもよい。

- ④ 国語辞典の言葉をすばやく見つける練習をする。

〈ワークシート例〉

じろおていどい  
 ゆうびれそーち  
 くどたびしなが  
 すくだむツん  
 して  
 ・おいんもほに  
 ・ぼにどが  
 ・ろさよから  
 ・くしかう  
 かりかい  
 のやんゆな  
 □こくかかすご  
 こくぶぐり

新記録にチャレンジ！  
 ☆三分で何個調べられるかな。

こんなにいっぱい調べたよ！



★朝の会や授業の初めなどを使って、ゲームを取り入れた練習をする。

★見つけたページに付箋を貼ることで、たくさん調べていこうとする意欲につなげたり、必要な時に教師が評価したりすることができる。

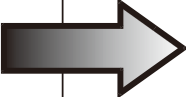
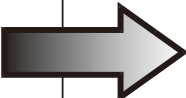
★国語辞典に親しみ、使い方になれるように、国語の時間はいつも国語辞典を用意するように伝える。

★すぐに辞書を調べる習慣が定着するまでは、「調べてごらん。」と声をかけたり時間をとったりして、長期的に指導する。

お気に入りの場所について情報を収集し、分かりやすく紹介する事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① グループの中で学校や家の近くにあるお気に入りの場所を各自説明し合う。
- ② 紹介する場所の取材の内容や方法・発表方法等を話し合い、取材計画ノートを作る。  
《取材の内容や方法》

<p>1 どんな遊具があるか 2 全体はどうなっているか 3 来ている人たちの様子 4 こんなことをすると楽しいな</p>		<p>取材したいこと</p>	<p>しょうかいしたいわけ</p>	<p>持って行くもの</p>	<p>集合場所</p>	<p>取材する日時</p>	<p>しょうかいする場所</p>	<p>〈取材計画ノート例〉</p>
<p>&lt;取材例&gt; 1 ジャングルジム ぶらんこ すべりだい・・・ 2 運動場が二つある 3 ジャンボすべりだいが人気だった。 4 ジャンボすべりだいをすると楽しいよ。</p>		<p>方法 スケッチ 写真 インタビュー その他</p>	<p>おもしろい遊具がたくさんある</p>	<p>取材ノート、デジカメ</p>	<p>〇〇山公園</p>	<p>六月十五日</p>	<p>〇〇山公園</p>	

《発表方法》

- ・司会者、レポーター、解説者に役割分担して、分かりやすく発表する。
  - ・公園全体のスケッチを見せながら、全体がどうなっているか説明する。
  - ・写真（遊具、来ている人たちの様子）を使って、指さしながら説明する。
- ③ 放課後や休日に、取材計画ノートに基づいた取材を行う。

- ④ グループで役割分担を決め、発表の仕方の工夫について考えながら台本を作る。

<p>〈発表の役割分担〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者役…話を順序よく進める。</li> <li>・レポーター役…調べたことをわかりやすく知らせる。</li> <li>・解説者役…意見や感想を付け加える。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ⑤ 発表に必要な資料（スケッチ、写真等）を作る。

- ⑥ グループで発表の練習をする。

- ⑦ 2つのグループでペアになり、交替で発表のリハーサルを行い助言し合う。

<p>〈リハーサル用チェックカード〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容は分かりやすいか。</li> <li>・資料をうまく使って説明しているか。</li> <li>・聞いている人が十分に聞き取れる声の大きさであるか。</li> <li>・聞き取りやすい速さで話しているか。</li> <li>・聞いている人の方を向いて話しているか。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ⑧ 下級生を招待して発表会を開く。

表やグラフを利用し、段落の組み立てを考えて報告文を書く事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 参考作品『生活を見つめて』（光村図書4年下）を読んで、報告文を書くという学習課題をつかむ。
- ② 調べる観点を決めてデータを集め、表やグラフに整理する。
- ③ 表やグラフから分かること（事実）をもとに考えを書く。
- ④ 参考作品『生活を見つめて』を使って、報告文の構成を理解する。

ポイント

★既習の説明文や記録文との違いについて話し合い、報告文の特徴をつかみ、書く意欲に結びつける。

★子どもの生活に関する調査報告資料をいくつか提示して、自分の生活にかかわる内容に目が向くようにする。（資料例「子ども地球白書」（朔北社）「モノグラフ・小学生ナウ」（ベネッセ 未来教育センター）等）

<報告文の書き方のポイント>

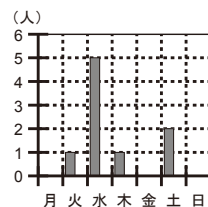
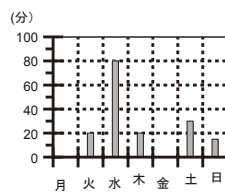
- 段落の初めは「そこで」「その結果」「このことから」が使われている。
- 分かったことは「～が分かりました。」、考えたことは「～と思います。」という文末になっている。
- グラフなどを入れると分かりやすい。
- 生活をよりよくするための提案があるとよい。

★報告文のポイントは、他教科等でも生かせるように、「報告文の書き方」として掲示しておいたり個々に配布したりする。



- ⑤ 調べたことを「調べたこと」「調べた方法」「調べて分かったこと」「考えたこと、思ったこと」の段落に分けて書く。

にに曜だ日れでいは  
し外日とよはいるたこの  
た遊に思り、なけくこの  
いびはい早水いどさ  
とをなまく曜こ、ん  
思しるす、のがの友ら、  
いてべ、く（習下分）達、  
す。体学略い校か日とわ  
を校）事時りは外た  
動の月も間まあ遊し  
か休曜ながしまびは  
すみ日い他たりを水  
よ時やか。遊し曜  
う間金ら曜そんで日



数ん一 ど遊 調べたいも  
もで番そうぶそべるのわ  
、い多のか時こそと外た  
同まく結果に間でこれい遊し わたしの外遊  
じせて、い違たに、この、昔の遊  
結果、い、うし、自と時に間、比  
果で月遊てうし、しま分に間に、  
でし曜ぶまのは、は興が比  
した日時とか、曜た。味少べ  
た。と間め、曜た。うをなて  
遊金はま遊日 うなもく今  
ぶ曜水したぶに なもの  
人日曜た。人よ のちなの  
のは日数っ かまつ子  
人遊が はて をしてど

- ⑥ 書いた報告文を読んで、友達と相互評価をする。

★次の観点で相互評価をするように助言する。

- ・学習した言葉を使って段落をつないでいるか
- ・文末表現は正しいか
- ・事実と考えの結びつきが適切か

登場人物の立場や生き方を、比較しながら読む事例

学習活動・資料・留意事項等

★中心教材「海の命」（光村図書6年下）

- ① あらすじをつかんで3人の漁師について心に残ったことを感想に書く。
- ② 感想を話し合う。
  - ・3人の海へのかかわり方や生きざまを話し合うことにより、その違いに着目させる。

〈父〉大物をしとめても自慢しなかった。  
 〈与吉じいさ〉必要な魚しかとらなかった。  
 〈太一〉追い求めていたクエと争わなかった。

- ③ 与吉じいさ・父・太一は海とどれくらいなかよしかを読む。
  - ・文脈から課題に沿った事柄を抜き出す。
  - ・言動や考え（登場人物の生き様）に対しての感想を持つ。
  - ・共通話題に対する自分の考えを書く。
  - ・自分の立場を明確にして、自分の考えを話す。
  - ・友達のを聞いて、自分の考えと比べる。
  - ・比べて再構成した自分の考えを話す。

★3人の漁師の生き方や考え方を表現に即して追究することにより、根拠が明確になり、他の意見との比較検討がしやすい。  
 ★様々な友達の意見を聞き、自分の考えと比べさせることで、太一がクエと争わなかった理由をより深く考えることができるようにする。

- ④ 太一の成長を読む。

★母の様子や会話とその時の太一の姿とを関連させて読むことで、太一の成長が分かることにも気付かせる。

ポイント

- ★言葉とかかわった根拠を挙げて意見を交流することを通して、「海の命」「海と調和した生き方」について理解し、自分の考えをもつ。
- ★前時に書いた児童の考えをプリントにまとめて数例紹介し、考えをもつ際の参考にできるようにする。

〈児童の発言〉

- ・「太一ここはおまえの海だ」から、海のプロで専門家である与吉が認めているくらいだから100%なかよしだと思います。
- ・100%なかよしだと思います。「生涯だれにも話さなかった」から言うと人に取られてしまうので、言わなかったと思うからです。
- ・75%から100%に変わったと思います。「大魚は自分に殺されたがっている」では与吉じいさの教えを守っていないけど、「大魚はこの海の命だと思えた」で、ふっと与吉じいさの教えを思い出し、気持ちが変わったんだと思います。
- \*登場人物の立場や生き方を比較し、考えを持ちやすくするために0%、25%、50%、75%、100%の5段階で表した。

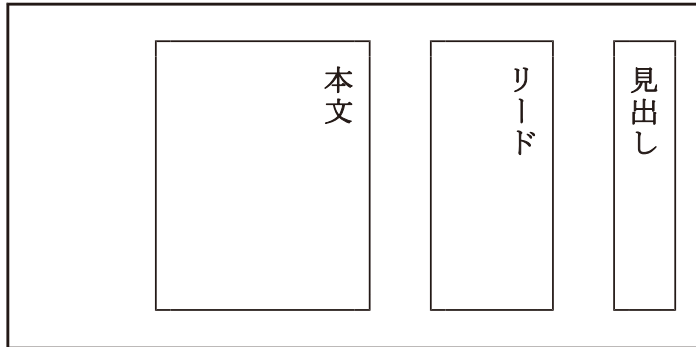
て太一は海と共生き  
 しての太一も漁師と間き、親として  
 ういをんと大かただか一元太  
 人にげうにるはかだ愛での情や子  
 つれも太てと太満思をさど  
 のやちはたなが足。いいがのみ  
 ださにおかく心り母でがいはん  
 とし愛母ら母配てがいはん  
 思い情さだををいおる太な  
 なら人物太なて魚命にたエをた太  
 し太の、一い。はの行のの受与一  
 はもで先。海の。自命大くでこけ吉は  
 のつきやの命のも大ににこのをぎい番  
 命てて海の中きにいくな師わ巨の話  
 をいきのにてしっくがな大生に  
 大るた生はいな。海取かなきな  
 切か人き、けく。のりっく方っ

〈児童のノート〉

取材をした内容について、分かりやすく工夫して、記事を書く事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 新聞記事を見て、記事の構成について話し合う。



**ポイント**

★ スポーツや身近な地域など、子どもの実態を踏まえて、興味や関心をもちやすい新聞記事を用意しておく。

★ 新聞の見出し、リード、本文を色分けして囲ませ、新聞の構成を視覚的につかめるようにする。

- ② 見出し、リード、本文の働きについて話し合う。

見出し…伝えたいことを短い言葉で表現している。  
 リード…あらましを簡潔にまとめている。  
 本文 …詳しい内容がわかりやすく書いてある。

★ 見出しやリードがなかった場合を考えさせ、新聞記事の構成による分かりやすさをつかませる。

- ③ 本文が分かりやすい内容になっているのはどうしてか、新聞記事を読み考える。

- ・ 自分で新聞記事を読み、そのひみつを見つける。
- ・ グループの中で自分の意見を出し合い、まとめる。

《新聞記事のひみつ》

- (1) 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」「どうした」が簡潔に書かれている。
- (2) 「それはなぜか」という理由が書かれている。
- (3) 以前あった似たことや例が書かれている。
- (4) 様子が分かる写真がある。

★ 付箋紙に自分が見つけた秘密を思いつくままにメモをさせ、それをもとにグループで話し合わせると、自分の意見が言いやすい。

★ 《新聞記事のひみつ》の中で、(1)を共通のめあてとし、その他の中から自分のめあてを一つ選び、めあてをもって学習を進めることができるようにする。

- ④ 学校生活や地域での出来事について記事を書くために取材をする。

- ・ 取材先を選択し、「新聞記事のひみつ」を踏まえて取材する。

★ 共通のめあてと自分のめあてを念頭に置いて、取材に行くことを助言する。

- ⑤ 新聞記事を書く。

- ・ リードを書く。
- ・ 本文と見出しを書く。
- ・ 記事の下書きを推敲する

★ 次の視点から自分で推敲したり、友達からアドバイスをもらったりさせる。  
 見出し→読み手を引き付けるか。  
 リード→簡潔で分かりやすいか。  
 本文 →初めて読んだ人に様子がよく分かるか。

- ⑥ 新聞を読み合う。



目的や意図に応じて、考えたことや伝えたいことを的確に話す事例

学習活動・資料・留意事項等

① 討論会の進め方を知る。

< 討論会の進め方の概要 (例) >

- (1) テーマを決める。
- (2) 役割を決める。  
(司会者、記録係、賛成側、反対側、自由討論)
- (3) 討論を始める。  
・ 初めの主張 (賛成側、反対側)  
    \* 相談タイム  
・ 質問 (賛成側、反対側)  
    \* 相談タイム  
・ 最後の主張 (賛成側、反対側)
- (4) 自由討論
- (5) 討論を振り返る。

② 教材文等を読んで、説得力のある主張をするにどうすればよいかを、学級で話し合う。

③ テーマと役割を決める。

- ④ 討論の準備をする。
- ・ テーマについて、個人で根拠として考えられることを書く。
  - ・ 個人で考えたものを基にグループで話し合い、主張の根拠をまとめる。
  - ・ グループで論の組み立てを考える。
  - ・ 質問を考える。

⑤ 討論会を開く。

ポイント

★ 討論会の進め方の概要を知るとともに、教材文等を使って具体的な進め方について理解できるようにする。その際、教材文のどの部分が「初めの主張」「質問」「最後の主張」にあたるのか考えさせながら、全体像をつかむことができるようにする。

★ 教材文から、次のような説得力のある主張のポイントをまとめる。

○ 初めに主張、次に根拠



○ 説得力のある根拠

- ・ 根拠：事実、体験、具体例等
- ・ 複数の根拠

○ 論の構成

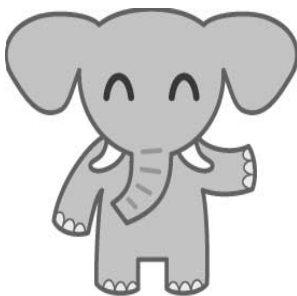
効果的な根拠の構成

○ 質問の仕方

相手側の論の組み立てを予想

★ 根拠としては、インタビューや、写真等の視覚的な資料を使うことなども考えられる。

★ 質問や最後の主張では、相手の主張や質問に対する答えをよく聞き、それを踏まえて発言するよう助言する。



・ 天敵におそれない。  
・ エサが必ずもらえる。  
・ 病気やけがをしても治してもらえる。  
・ 寒さや暑さを調節できる。

・ 家族と離されてかわいそう。  
・ 自由に命をのびたい。  
・ お金を命のやり取りするのはいらない。

テーマ  
動物園にいる動物はしあわせである。  
(肯定側の根拠)  
(否定側の根拠)

〈 討論会のテーマ例 〉  
・ おこづかいの額は毎月決まった額をも  
らうのがよい。  
・ 宿題をしないのはよい。  
・ 動物園に遊ぶのがよい。  
・ 小学校の制服はより制の方がよい。  
・ 動物園の制服はより制の方がよい。

新聞記事を比べて、批判的に読む事例

学習活動・資料・留意事項等 ☆ 2005年夏の全国高等学校野球選手権大会の報道記事

① 本時の学習を知る。

**ポイント**

A紙 2005年8月14日山陽新聞朝刊

★前時の学習を振り返り、A紙の報道文は5W1Hを伝えるだけでなく、見出しや本文の書きぶりに関西高校を応援する表現があったことを想起させる。

★B紙の報道文を提示し、5W1Hは同じであるが書きぶりが違うことに目を向けさせ、本時のめあてをつかむことができるようにする。

B紙を前時のA紙と比べて、違いのある表現を見つけよう。

② めあてについての自分の考えをもつ。

③ 考えを話し合う。

児童の発言例

- ・ A紙は逆転されたことを悔やむような見出しだったが、B紙は逆転したことをたたえているようだ。
- ・ B紙は、「がけっぷち」という表現を記事の中にも使って、ぎりぎりのところでがんばってすごかったという感情が表れている。

★児童が着目した表現を見出しと本文に分けて対比できるように板書し、それぞれの学校を応援する立場で書かれていることに気づくことができるようにする。

★見出しや本文に使われている言語表現に着目させることにより、送り手がそれぞれの学校を応援する強い思いを伝えようとしていることに気付くことができるようにする。

★書きぶりに多くの違いがあることに気付いてきたところで、「どうしてこうも書きぶりが違うのかな。」と投げかけ、A紙は岡山の地方紙、B紙は京都の地方紙であることを知らせ、送り手は読み手の興味や関心、心情に照らして書きぶりや取り上げる内容を工夫して伝えようとしていること、同じ事実であっても書く立場によって読み手に与える印象は様々であることから、なるべく多くの情報を集め、偏りのない判断をすることの大切さに気付くことができるようにする。

④ 本時の学習のまとめをする。

★話し合いをもとに、本時の学習で深まった自分の考えやどんなところに着目したから送り手の意図に気付くことができたのかをまとめるようにする。



6点差まさかの逆転負け

関西魔の8回

★同じ高校野球大会を扱ったA紙とB紙を次の視点から見て、違いを感じる部分にサイドラインを引かせる。  
・見出しの表現 (主語、述語)  
・本文の表現  
それらの表現の理由を考え自分の考えが書けるように支援する。

B紙 2005年8月14日京都新聞朝刊

京都外大西がけっぷち執念



直球に的快打連発 葛の詩

相手意識や目的意識をもってキャッチフレーズを考え、紹介する事例

学習活動・資料・留意事項等

<学習計画>

- ① よく耳にするCMのキャッチフレーズを教師が紹介し<資料1>、自分が実際に商品を買うときに着目する点を考える。
- ② 実際にあれば便利だと思えるような架空の商品についてセールスポイントをいくつか挙げ、その中のひとつをキャッチフレーズとして盛り込み、話す順序を工夫して原稿を考える。
- ③ 話すときに気を付けること（間の取り方、声の強弱、話す速さ、聞いただけでは分らない言葉、発音のしにくい言葉等）を確認し<資料2>、練習する。
- ④ 商品を絵に描いたもの等を見せながら、商品を紹介し合う。
- ⑤ 発表を聞いて相互評価、自己評価を行う。

★その商品のよさを、言葉で伝えるという目的意識をもたせる。

★聞く人に印象強く伝わるような話し方を工夫させる。  
★なるべく原稿を見ないで発表させる。

<資料1>

☆CMの用語例

聞く人に訴える言葉とは？

1. 告知・呼びかけ	「～に注目」「～発見」「～に挑戦」
2. 新鮮さ	「NEW」「ついに登場」「お待たせ」「誕生」
3. 比較	「～級」「1ランク上」「スーパー」「ウルトラ」「史上～」
4. 感嘆	「驚きの～」「衝撃の～」「なんと」「びっくり」
5. 緊迫感	「チャンス到来」「今なら」「見逃せない」
6. 気持ちをあおる	「今、注目の～」「好評の～」「絶賛」「～必見」「ブーム」
7. 希少価値	「とっておき」「ひと味ちがう」「幻の～」
∴	∴

<資料2>

☆話すときに気を付けること

1 聞いただけでは意味が伝わりにくい言葉

書き言葉では漢字で区別できる言葉も、話し言葉では、同じ音だと意味が通じないことがあるので気を付けてよう。同じ音のある言葉は、アクセントで区別することができる。

例 「かき」を食べる。∴「柿」「牡蠣」  
「しりつ」の学校に行く。∴「市立」「私立」

【アクセントの練習をしてみよう】

- ① 雨が降る 棒を振る
- ② 人生の秋が来たのか、飽きがきた
- ③ 反りの悪い櫓
- ④ 隅に積んだ炭
- ⑤ 錫でできた鈴

2 発音のしにくい言葉

同じような音が繰り返されたり、「にや」「にゅ」「によ」「ひゃ」「ひゅ」「ひよ」などの拗音が含まれたりする場合、発音しにくい言葉となる。発音しにくい言葉については、特に練習しておこう。

【発音の練習をしてみよう】

- ① 新春シャンソン 歌手新春シャンソンショー
- ② バスガス爆発 バスガス爆発 バスガス爆発
- ③ かえるびよこびよこ みびよこびよこ あわせてびよこびよこ むびよこびよこ
- ④ 生麦 生米 生卵
- ⑤ お綾や 母親におあやまりなさい

3 間の取り方、声の強弱、スピード

はつきりとした発音で読めるようになったら、次は間の取り方や、声の強弱、スピードなどに気をつけて読んでみよう。聞き手にインパクトを与える話し方を工夫してみよう。また、絵やカードを効果的に使うなどすると、より印象が強くなる。どのようにそれを使えばよいかも考えてみよう。

インタビューをして、友達の長所を伝えるための記事を書く事例

学習活動・留意事項等

<学習計画>

- ① 新聞記事の人物紹介欄を分析し、写真・文章・見出しの効果を理解させる。
- ② 紹介記事を書くための内容を考え、友人にインタビューをする。

★相手が話したくないことやプライバシーに関する内容は、避けることを確認する。

- ③ インタビューの内容から、友人の長所を伝えるための情報を選択し、雛形を参考にして記事を書く。

★友人の長所や魅力を、会ったことがない人にも伝えることを考えて、情報を選択させる。

★初めに分析した記事の他に、生徒作品などを雛形にするとよい。

★内容にあった見出しを考えさせる。

- ④ 友人の写真を撮り、位置や大きさを考えて配置し、記事を完成させる。
- ⑤ 完成した紹介記事を相互評価する。

資料等

☆人物紹介欄の分析のポイント (例)

- 写真…○どの位置に配置されているか。  
○大きさはどうか。  
○何が写し込まれているか。  
○どのように撮られているか。  
・サイズ (遠景・中景・近景)  
・アングル (見上げる・目の高さ・見下ろす)  
・ポジション (カメラの位置は高い・目の高さ・低い)
- 文章…○その人のどのような面が取り上げられているか。  
○その人がどう説明されているか。  
・5W1H (いつ・どこで・誰が・なぜ・何を・どのように)  
・どの部分で「声」が活用されているか。  
・内の視点と外の視点がある。
- 見出し…○その人の特徴をどうとらえるか。

☆相互評価のポイント (例)

- いろいろな角度から相手の長所を取り上げて紹介しているか。
- 内容に合った見出しをつけているか。
- ある程度の字数で、文字や表記に間違いがなく、段落を意識して記述しているか。


生徒作品

英語教師を目指す  
友達想いの女の子

さん (13)

初対面の人の多くがかわいいと思う様な女の子。それが、さんの第一印象だ。一九九四年 月 日生まれのおおつは座、血液型はA型。趣味はメールで毎日四人ほど話している。好きな教科は学活。女の子と話し合いたい。結構はママ、姉との四人家族。ママは言葉は「友情」。友達もとても大切に思っているのが分かる。放課後は小学校の頃の友達と遊んでいて今でも交流が深い。休日もその友達と遊びに行ったり電話したりするそうだ。中学校にきて良かったと思えることは？とたずねると「たくさんの友達ができたこと」とすぐに答えてくれた。そんな、さんの将来の夢、それは英語の教師。昔、英語を習っていた時の先生がとても優しく、「私もこんな先生になりたい」と思っていたのがきっかけ。英語の教師になるためにこれから頑張りたいことは、「英語の授業中、先生の言ったことをしっかり聞いて復習をキチンとやる」と言ってくれた。友達想いの、さんなら、先生になれるだろう。

「中学校になっても勉強はたくさんしたけれど、英語の勉強やその他の科目は、頑張りたい」と思っています。最後に力強く話してくれた時の表情がとても真剣に見えました。



群読を通して文章の内容や表現を味わい古典に親しむ態度を育てる事例

学習活動・資料・留意事項等

＜学習計画＞

(中心教材「扇の的」光村図書2年)

- ① 学習への見通しをもつ。
  - ・群読を理解させるために、「扇の的」以外の部分のビデオ、CDを視聴する。
- ② 作品の音読練習をする。
- ③ 作品を4つの場面に分ける。
- ④ 群読プランを作成する。
  - ・4～5人程度のグループを作り、場面を選択する。
- ⑤ グループごとに練習する。
  - ・群読プランができあがったら練習に取り組み、プランの見直しをする。
- ⑥ グループごとに群読を発表する。
  - ・工夫した点を発表してから群読をする。
- ⑦ 自己評価と相互評価をする。
  - ・グループごとの群読を聞き、感想を述べ合い、評価プリントに記入する。
- ⑧ 学級全員で群読をする。
  - ・各グループの群読プランを整理して一つの群読を行うことで、内容の理解を深める。

＜留意事項等＞

- ★ 範読と追い読み、列ごとに読むなど多様な読みを繰り返すことで、古文独特の表現やリズム感に慣れさせる。
- ★ 群読を通して、作品をどのように読み取ったのか、読み取ったことを伝えるためにどう表現するのかを考え、プランを作成するよう助言する。
- ★ 緊迫感やスピード感、対句表現、擬音語、擬態語などを、だれがどのように読めば表現できるかを考えさせる。
- ★ 同じ場面を2つのグループが選択するようにすると、共通点や相違点を比較することで、場面の読みを深めやすい。
- ★ 与一の置かれた状況や心情、表現の特徴を、場面ごとにとらえさせる。
  - (第1場面) 厳しい状況に立たされた与一。対句表現が使われている。
  - (第2場面) あらゆる神に祈る与一の必死の思い。
  - (第3場面) 擬音語や擬態語による生き生きとした臨場感。対句表現。
  - (第4場面) 扇を射切ったことへの称賛、余韻、余情、源平両軍の感嘆ぶり。

☆自分の探検しよう!  
 ③②① 他群読探検しよう!  
 他群読の探検スリドや音響等に気を付けて、伝えたいことを表現できた  
 A A A  
 . . .  
 B B B  
 . . .  
 C C C  
 . . .  
 D D D

第四場面		第三場面		第二場面		第一場面	
班	発表する班のアピール・メモ	班	発表する班のアピール・メモ	班	発表する班のアピール・メモ	班	発表する班のアピール・メモ
場面から読み取ったこと	読み取ったことを伝える工夫	場面から読み取ったこと	読み取ったことを伝える工夫	場面から読み取ったこと	読み取ったことを伝える工夫	場面から読み取ったこと	読み取ったことを伝える工夫
	感想		感想		感想		感想

◎ 場面から読み取ったことを、群読で表現できたかな?

根拠を吟味しながら、説得力のある意見文を書く事例

学習活動・留意事項・資料等

<学習計画>

- ① 三角ロジックの3要素の関係を理解し、練習問題に取り組む。
- ② 三角ロジックを使って適切な根拠を考えるための練習問題（資料）に取り組み、適切かどうかを全員で検討する。
- ③ 三角ロジックの学習を基に、「新年の挨拶年賀状がよいか、メールがよいか」というテーマで書く意見文の構想を考える。
- ④ 構想を基に意見文を書く。
- ⑤ 相互評価を行い、見直しをして意見文を完成させる。

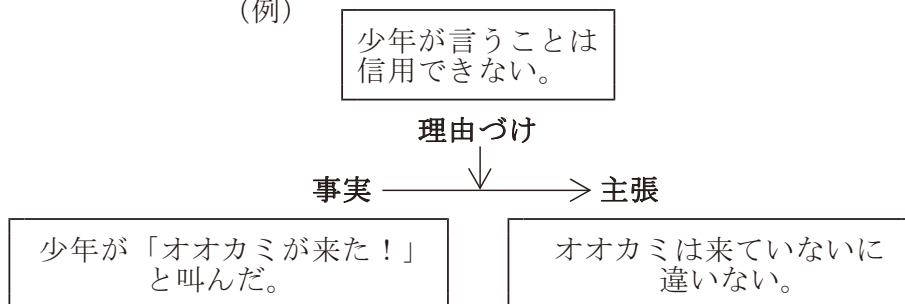
★「理由付け」の理解が難しい場合は、次の点を押さえる。

- ・「理由付け」は、「事実と主張」をつなぐ橋渡しの役をする。
- ・「理由付け」は、評価や価値を表す言葉を考えるとよい。

<資料>

☆三角ロジックとは、自分の言いたいこと（主張）の説得力を高める方法です。「主張」「事実」「理由付け」という3つの要素を用いて、自分の主張を証明します。

(例)



☆「事実」と「理由付け」を合わせて、「**根拠**」ということにします。

★「**根拠**」とは何かを定義づけることで、根拠の中身が吟味しやすくなる。

(資料)

☆ 練習問題の例

○次の3つの文は、それぞれ「主張」「事実」「理由付け」のどれでしょうか。

- (1) A. 山田さんは泣いている。(解答:「事実」)  
 B. 人は悲しいことがあると泣く。(解答:「理由付け」)  
 C. 山田さんは悲しいことがあったに違いない。(解答:「主張」)
- (2) A. ナマズがあばれるのは地震の前ぶれだと言われている。(解答:「理由付け」)  
 B. たぶん地震が起こるだろう。(解答:「主張」)  
 C. ナマズがあばれた。(解答:「事実」)

○次のA・Bは、「主張」「事実」「理由づけ」のどれでしょうか。また、足りない要素(C)を書き足しましょう。

- A. 彼は単語を覚えようとしているのだろう。(解答:「主張」)
- B. 単語カードは単語を覚えるときに使うものだ。(解答:「理由付け」)
- C. (解答:彼は単語カードを使っている。)

批判的に読む方法(「事実の吟味」、「論理の吟味」)を使って読む事例

学習活動・資料・留意事項等

<学習計画> (中心教材「モアイは語る～地球の未来～」光村図書2年)

- ① 題名読みをして読みの構えを作り、疑問や感想をもつ。
- ② 本文の要約をして論の展開を確認する。
- ③ 批判的に読む方法を習得するために、「事実の吟味」「論理の吟味」の練習問題<資料1>に取り組む。
- ④ 批判的に読む方法を使って、本文を正確に読む。  
<資料2>
- ⑤ 自分の読みを基に、筆者への手紙を書く。

★「事実と意見の区別」や「論理の飛躍」等に注目させる。

<資料1>

学習計画③の練習問題

○次の説明で、不十分なところはどこでしょうか。

1 路線バスが故障して止まっている自家用車に追突した。

(解答例)・路線バスが故障して追突したのか、故障して止まっている自家用車に路線バスが追突したのか、はっきりしない。

★クイズ形式で授業を進め、興味をもたせる。

2 6月には日本全体が梅雨に入る。

(解答例)・北海道には梅雨の時期はない。

3 世の中には誠実な人が多い。佐藤さんは熱心に運転手として働いている。だから、佐藤さんは誠実だ。

(解答例)・世の中の人みんなが誠実だと言っているわけではないから、佐藤さんが「誠実だ」とは限らない。2つめの文と3つめの文との関係もおかしい。

4

彼は、朝寝坊をして学校に遅刻することが多い。彼は昨日朝寝坊をして、学校に遅刻してきた。そして、今日もまた遅刻した。ということは、彼は2日連続して朝寝坊したということだ。

(解答例)・彼が今日遅刻したのは、朝寝坊が原因かどうかははっきりしていない。

<資料2>

学習計画④の具体例

★「イースター島＝地球」という筆者の論に対する疑問や反論を考えよう。

- (例) ○ 筆者は地球の人口が80億を超えると人々は飢餓に直面すると述べているが、そうなる前に人々は何か対策をとると思う。例えば、中国のように、一人っ子政策を世界に取り入れれば、人口が増えるのを防げると思う。
- 「地球の農耕地は21億ヘクタールが限界である。」と書いてあるが、海を埋め立てて農耕地を作ることではできないのではないか。昔のイースター島と今の地球では技術が違う。
- イースター島と地球では大きさの規模が違う。小さなイースター島では人口も少ないので1回の飢餓ですぐ滅びてしまったが、地球にはたくさんの方がおり知恵もあるので滅亡するとは限らない。
- 「森を破壊し尽くしたら」と書いてあるが、この文章では「森」についてしか書かれていないので、木以外の資源が豊富にあっても、森を破壊し尽くすと飢餓に陥ってしまうということになってしまう。

「対立・葛藤を呼ぶ問い」を中心に、互いの読みを交換する事例

学習活動・資料・留意事項等

<学習活動> (中心教材「挨拶一原爆の写真によせて」光村図書3年)

① 詩を通読し、心引かれた1行を抜き出してその理由を書く。また、各自がこの詩から読み取ったことを書く。

○「心引かれた1行」について予想される反応

- ・「すでに此の世にないもの」
- ・「私はりつぜんとするのだ」
- ・「何か近づいてきはしないか」
- ・「やすらかに 美しく 油断していた。」

対立・葛藤を呼ぶ問い

② 「やすらかに美しく油断しているのは誰か」を考える。

○予想される反応

- ・「その時広島にいた人」



- ・「あなた」や「私」

★作者が読者である我々に、「現状の危機的状況を認識せよ」と訴えていることに気づかせる。

③ 「やすらかに 美しく 油断していた。」の行が読者の心を捕らえる理由を考え、討議によって深める。

○予想される反応

- ・この文だけ過去形で書かれているから。
- ・この文だけ句点がついているから。
- ・「やすらかに」「美しく」という言葉は優しい感じの言葉で、その後には断定したように「油断していた」と続けると心に響く感じがする。
- ・「何か近づいてきはしないか」などの行と関連して、私たちが油断している今、良からぬものがまたも近づいて来るのではないかという、私たちに危険を訴えるものだから。
- ・「午前八時一五分は毎朝やってくる」という表現が、過去と現在をつないで読者に迫っている。

★互いの読みを交換することで、自分の読みについて「発見のある授業」をねらう。

④ まとめの感想を書く。

友達の読みを聞くこと  
によって自分の考えを  
深めた部分



だだにくはえと現て、〇ン過し、広い出ち現美 たやす たその  
と、いる遠さい在く〇〇と去てわ島て、にし今と友るしこの写真今  
思切る午いせうをる午さ響形、たにとく第着く日思ともかと残真から  
つ実私後過ら意結〇前んく、しいいる五目油のう結のしを酷は、六十  
たにに八去れ見んと八か感断油、たう、連し断授。びで、思さ、私も  
。危突十な。らいう十出がのし重、現す第学い、の直遠。恐怖感  
を、つ分、かは、現分る。現いつ、らかに進とすは、過な今去  
訴、けを毎らよ、がは、心、きな、そ、通めいらな今去  
えて、朝、り、毎、〇、たてあ、に、共、めいらな今去  
く、今やこ深、過朝、にとたたそ、通めいらな今去  
る、このく、去、づい、〇、の美しうかかの、  
の、このて詩考、とつ、シうそや時してう表に、つ私対

≪生徒の感想例≫



日本語と英語の音声の違いを比較することで、単語への興味を高める事例

<活動例 A> 個人で作成

配当 2 時間

第 1 次	新聞の TV 欄を班に配付して、それぞれの放送局の番組から英語だと思っ カタカナ語をワークシートに抜き出させる。抜き出した語の中から、英語 が基になっている語を取り上げ、英語と日本語の発音の違いに気付かせる。 フォニックスで文字と音のルールを学習させる。
第 2 次	英和辞書と和英辞書の使い方を指導して、音とつづりの関係を辞書で確認 させる。食べ物、乗り物、スポーツ、動植物、生物など、ジャンル別に絵 (イラスト)を描いて、オリジナル絵辞書を作成する。

<活動例 B> グループで作成

第 2 次	八切り画用紙を配付して、班ごとにジャンルを分担して作成させる。班の 作品を模造紙に貼って、学級オリジナル絵辞書を完成する。
-------	------------------------------------------------------------------

第 1 次 【導入シート例】

新聞の TV 欄を添付する

英語はどれでしょう?  
・デジカメ...etc

【26文字フォニックス表】

a	b	c	d	e	f	g
エア	ブ	ク	ド	ウ	ツ	エ
h	i	j	k	l	m	n
ハ	イ	ジュ	クル	ム	ン	
o	p	q	r	s	t	u
オ	プ	ク	ワ	ウル	スト	ウ
v	w	x	y	z		
ヴ	ウ	ヲ	クス	イヤ	ズ	

第 2 次  
<作成アドバイス>

- イラストには必ず色をつけよう。
- 発音は先生に確認しよう。
- 各ジャンルで6個以上は調べてみよう。



<音のルール>

- ① 表の音で文字を読めば単語が発音できる。
- ② 最後が-eで終わる単語のその前の母音は、アルファベット読みになる。

「オリジナル絵辞書」生徒作品

英単語の世界 身の回りのものを英語で書いてみよう! 20歳以上調べよう

① イラスト(色をつけて)を書いたり、新聞広告などを切って貼ったりして、その下に英単語を書いてみよう。

Class No. Name

【まとめ活動】

完成作品を友達に見せて、調べた英単語を互いに紹介する。

ストーリーの展開を理解し、読み手を意識した文章を作成する事例

【準備物】連続した4枚の絵、記入シート

配当 1 時間

<活動例 A>

導入	4コマ漫画を取り上げて、ストーリーの面白さについて考える動機付けを行う。次に4枚の内から2枚の絵を提示して、物語の構成を考えさせる。
展開	自由な発想で読み手を意識しながら英文を書かせる。状況を効果的に伝える英単語を考えさせ、絵コンテを入れて自作の物語を作成させる。
まとめ	作品を班やクラスで発表させる。お互いの作品を見て、相互評価させる。

<活動例 B>

展開	漫画のせりふを空白にして、せりふを自由に考えさせる。
----	----------------------------

○参考： web 4コマ漫画「Weekly Webcomic Katao」



\* 活動例 B ④の台詞を考えよう。

【活動Aワークシート例】

**新入文学賞は誰でしょう？**  
4コマ漫画を作ってみよう

① 少年が庭掃除 をしている絵	和訳：日本語の台詞 を書いておこう。
② 祖父と木の葉を 燃やしている絵	【発想例】 ③祖父と二人だけで焼 き芋を作って食べよう としている。-----
③	④急に雨が降ってき て、洗濯物を取り込み に出て来た母親に見つ かりしかられる。-----
④	

◆ 書き方アドバイス

- 英単語のみでもOK
- ウィットに富んだもので  
みんなをあっと言わせよう！

評価：生徒の独創性を高く賞賛する。

< 実施アドバイス >

1時間の授業で活動例AとBを組み合わせて実施すると、盛り上がる。

〔ALTに積極的に参加してもらい、英単語の使い方や異文化間の発想の違いをティームティーチングの授業で指導することができる。〕

音声や映像から会話の内容、会話の一部から全体を作成・推測する事例

【準備物】 ラジオ・テレビ英語放送番組、教科書準拠テープ、聞き取りシート  
 <活動例 A> 音声のみ 配当 1 時間

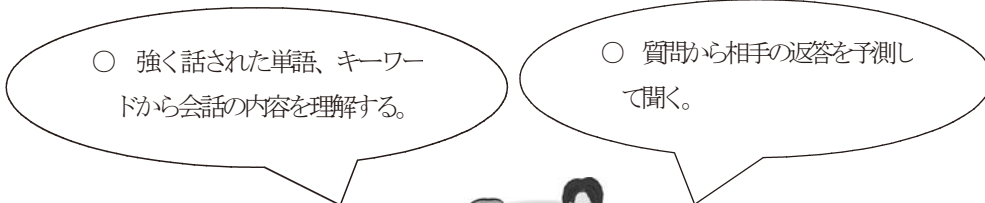
導入	1 回目 会話の内容の一部を聞いて、会話場面や内容について推測させる。
展開	2 回目 片方の人物の発話から相手の返答を考えさせる。
まとめ	3 回目 全体の会話を通して聞かせ、会話の内容を確認させる。

< 活動例 B > 映像と音声

導入	音声を消し会話場면을映像で見せて、映像から二人の会話を推測させる。
展開	片方の人物の発話から全体の会話を作成させる。
まとめ	全体の会話を映像と音声とともに聞かせ、内容を確認させる。

【発展】 活動 A、B ともに最後はペアによるロール・プレイをさせて、会話を場面と一緒に覚えて使う練習を行うことが望ましい。

< 聞き方アドバイス >

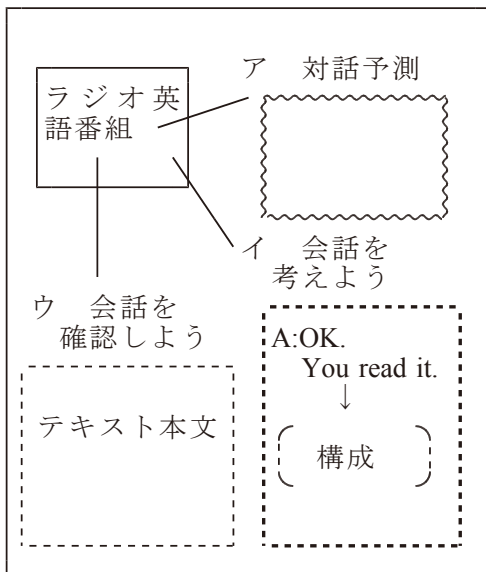


**ポイント 1**  
 ◇ 視覚情報(映像)を使用する場合は生徒の生活体験に基づいたものが好ましい。

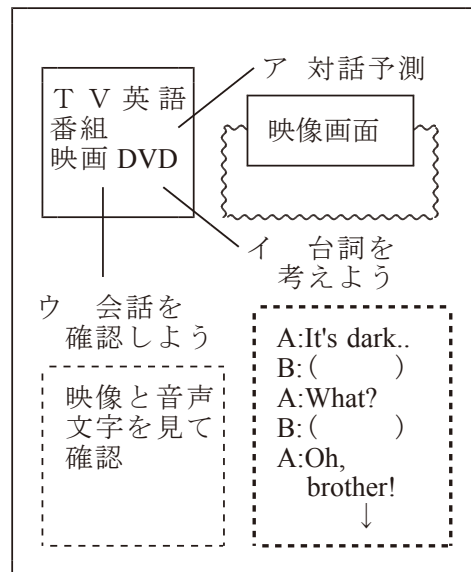


**ポイント 2**  
 ◆ 番組は実用的な語を用いているため未習語が含まれることがあるが、場面から推測させることが大切である。

ワークシート例①



ワークシート例②





相手を意識して、show & tellの形式でスピーチをする事例

【準備物】スピーチ原稿シート、審査表 <活動例> 配当3時間

第1次	モデルスピーチを視聴させて、スピーチの仕方について学習させる。スピーチ原稿の書き方を説明し、下書きをさせる。
第2次	完成した下書きを点検する。スピーチ原稿を暗唱させて、原稿を見ないで表情豊かに話す練習をさせる。
第3次	スピーチを発表させる。発表者は質問を交えながら話すように指導する。聞き方の指導を行い、聞き手は発表者に積極的に質問をするように指導する。審査シートを配付し、良かった点や工夫している点を相互評価させる。

○備考：発表は録画をして評価や次年度のスピーチ指導に役立てる。モデルスピーチが先輩のものであると活動の動機付けに有効である。

【スピーチ実施要項】

Let's enjoy speeches!  
「私の宝物」

今回は「Show and Tell」（実物を見せて会話する）の形式で行います。あなたの大切なもの、お気に入りのものを実際にみんなに披露して、スピーチしましょう。自分ができる最大限の努力をして、最高のスピーチで、みんなをうならせましょう。

○ スピーチをする際のものつポイントを確認しておきましょう。  
○ 必ず10文以上の英文で原稿を見ないで話そう。

① eye-contact 必ず覚えて、みんなの目を見て語りかけること。  
② 声の大きさ 大きな声で、はっきり、分かりやすい英語で話すこと。  
③ 顔の表情 表情豊かに話すこと。笑顔が大切です。  
④ 音調 英語らしい発音とリズム、抑揚をつけて話すこと。  
⑤ gesture ジェスチャーをつけて表現力豊かに話すこと。

○ 聞いている人への質問を必ず入れる。内容は興味深いものにする。  
○ 習っていない単語を使用する場合は、カードに日本語を書いてみんなに意味が伝わるように工夫すること。

【原稿書き】 まず、自分の宝物の中から何について話すか決めよう。自分が大切にしているものが宝物です。

- なぜそれが自分の宝物なのか述べよう。
- いつ、どこで買った、誰からもらったなど宝物にまつわる具体的なエピソードを話そう。
- 今どこにあるか、あるいはどうしているか述べよう。
- 家族や友人が、あなたの宝物についてどう思っているか述べよう。
- 聴衆への質問を考えよう。

【評価規準】

- 音調 英語らしい発音、イントネーション（抑揚）、英語のリズム
- 内容 聞いてわかる。話しの量、聴衆への質問。
- 話し方 効果的な自然なジェスチャー、表情の豊かさ。話すスピード、原稿を見ないで、覚えて話す。

※ ①～⑤を総合的に審査して、A・B・Cの3段階で評価します。

◆授業で実施予定 ※開始は指示します。

※ 欠席者は、後日 放課後実施します。必ず自分の責任で先生の所に来ること。  
スピーチは「意見の能力」評価対象です。

<話し方アドバイス>

- 聞いている人への質問を必ず入れよう。
- みんなが知っている単語で話そう。習っていない単語を使用する場合は、カードに日本語を書いてみんなに見せよう。
- 原稿を見ないで必ず覚えて話そう。

- eye-contact
  - 声の大きさ
  - 顔の表情
  - 音調
  - ジェスチャー



【審査用紙】

TITLE: MY TREASURE (私の宝物)

Hello, friends! This is my treasure. (実物を見せる)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

☆ That's all. Thank you for listening. (拍手) Any questions?

COMMENT: ◎先生の評価

Class No. Name

Speech "MY TREASURE(私の宝物)" 審査表

順	氏名	宝物	理由	話すスピード 発音・抑揚	ジェスチャー 顔の表情	聴衆 A/B/C	評価 A/B/C
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							

○ 各自正美して、聞いている人にわかるように話そう。

結果 覚えて、明確な発音、適切な態度で自然に話すことができる。  
【自己評価】 相手にわかるように話すことができた。(A/B/C)  
表情豊かに話、相手に話して聞かされた。(A/B/C)  
覚えて、適切な発音で話すことができた。(A/B/C)

◆ あなたが選ぶベストスピーチ

< 戻る > 戻る > 戻る > 戻る >

自作の翻訳と他の翻訳を比較することで、英語表現への興味を高める事例

【準備】 英訳付きの『雪国』、辞書、Web 自動翻訳機能で作成した翻訳文  
 <活動例> 配当 1 時間

導入	小説『雪国』の日本語の冒頭を配付し、一文ずつ英文に翻訳させる。辞書の効果的な引き方を指導し、英文の表現方法に触れさせる。
展開	それぞれの翻訳文を一文ずつ発表させる。Web 自動翻訳機能で翻訳した英文を同時に紹介し、自分の英訳と比較させる。
まとめ	翻訳本の英文を配付して、語彙のイメージや使い方などの、日本語と英語の違いを発見させる。英文法、語順、語彙の使い方をまとめる。

自分の翻訳文

プロの翻訳文

**翻訳に挑戦！ You are a translator.**


次は川端康成の小説「雪国」の冒頭部分です。この名文を英語になおしてみよう。

1. . . . . ①  
 . . . . . ②  
 . . . . . ③  
 . . . . . ④  
 . . . . . ⑤

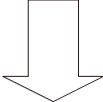
<自分の翻訳英文>

① .....  
 ② .....  
 ③ .....  
 ④ .....  
 ⑤ .....

英語に訳しにくかった言葉、表現を抜き出してみよう。



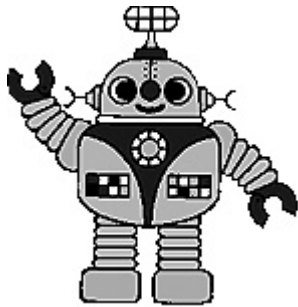
- 主語を補う。
- 客観的に表す。
- 適する英単語を使用する。



*The snow country was separated from the rest of the world by a long tunnel. The train entered the snow country. Despite the dark night sky, the land glistened white with snow. The train slowed to a stop in front of a signal*

◆ 単語は英英辞書で調べてみよう。  
 Web 翻訳機能を使用して変換すると

コンピュータ自動翻訳文



When the train came out of a long tunnel at the border, it was a snowy country. The bottom of the night whitened. The train stopped in the signal box. The daughter dropped the glass window in front of Shimamura standing from the seat on the side for. The cold of the snow flowed

◆ 日本語から英語への機械的な言葉の変換で奇妙な英文になっている。

筆者の考えを論点を整理してまとめ、論理的に自分の考えを伝える事例

<活動例>

配当 2 時間

第 1 次	英文を読ませて、命題に関して登場人物が賛成であるか、反対であるかを理由をつけて要約させる。教師は命題に関する資料を配付して、情報をクラス全体で共有し考えるヒントを与える。 クラスを何班かに分けて、賛成側と反対側に二分する。各班で命題に関する賛成・反対理由を考え、発表できるように準備をさせる。
第 2 次	賛成側と反対側に分かれて討論会を行う。班対抗で自分たちの考えを論理的に相手側に伝え、賛成理由や反対理由を主張させる。

- 命題例 ○ 英語の授業は学校で必要であるか必要でないか。  
○ 旅行は団体旅行と個人旅行のどちらが良いか。  
○ 住むなら田舎と都会のどちらが良いか。

第 1 次

「あなたは車派それとも電車派」

James: Which do you like better, traveling by car or by train?

Akira: I like traveling by car better.  
Because we can see around from one sight spot to another. How about you, Yumi?

Yumi: Me too. When we travel by car, we can stop at any time, anywhere.

James: I like traveling by train better, because we can travel faster than cars. We don't have to worry about traffic jam. And gas price has risen nowadays.

ワークシート例

英語ミニ討論

### あなたは車派それとも電車派

英語は論理的に考える

【活動①】テキストを読んで3人の意見をまとめよう。

人物	「旅行に行くなら 車 それとも 電車」
ジェームズ James	理由 .....
英 Akira	理由 .....
由美 Yumi	理由 .....

【活動②】 英語ミニ討論会  
あなたの班は \_\_\_\_\_ 派です。

車派もしくは電車派の立場で、それぞれの主張理由をできるだけたくさん考えましょう。



<英語討論表現集>

◆ 討論で使用する表現集を配付する。

- ① Why do you think so? Because ~.
- ② I think ~. I don't think ~. I agree with you.
- ③ That may be true, but ~.
- ④ For example 例をあげて言うなど

第 2 次 英語ミニ討論会

合計 5分

- 意見発表 各 1分  
質疑 各 1分 \* 質問がポイント  
再主張 各 30秒

発表の 2 班以外はどちらの主張が良かったか審査する。

○ 審査基準

1. 協力して意見発表できる。
2. 例をあげて理由が説明できる。
3. 相手に質問したり、相手からの質問に的確に答えることができる。

<英語討論の仕方アドバイス>

- ・自分の主張を最初に言う。
- ・理由を必ず述べる。
- ・理由の証拠となる資料を出す。



自分の意見を、メッセージとして効果的に発信する事例


<活動例>

配当 3 時間

第 1 次	まず、各班に新聞 1 日分（数社の新聞）と模造紙 1 枚を配付する。次に、記事を切り抜き、内容別に分類して模造紙に貼らせる。続いて、班ごとに発表させ、現代社会が抱える諸問題についての知識を全体に共有させる。各生徒にワークシートを配付して、自分が取りあげるテーマを決めさせ、それについての自分の意見を日本語で書かせる。
第 2 次	第 1 次でまとめた自分の意見を、メッセージとして他者に伝える場合の効果的な方法を考えさせる。ここで、メッセージとともにシンボルマークが描かれたポスターなどを例として紹介する。各自で発信する形態（手紙・ポスター・詩など）を決めさせて、メッセージを英語で書かせる。
第 3 次	クラスで作品発表会を行い、現代社会が抱える諸問題への自分の意見をメッセージとして効果的に発信する方法について、相互に学び合わせる。優秀作品は教室に掲示する。

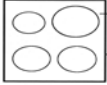
第 1 次 ワークシート

< 作成アドバイス >

**Mission 「地球を救おう」** 

現在、私たちの身の回りには環境をはじめ、さまざまな問題が地球規模で起きています。私たちが地球に住む一人としてこの問題を取り上げ、解決に向けてメッセージを英語で世界に発信してみましょう。

【活動①】 新聞各社の記事から、起きている問題を切り抜いて模造紙に貼ってみよう。  
◆ ポイント 問題を分類して貼ってみる。分類したものにテーマをつけよう。

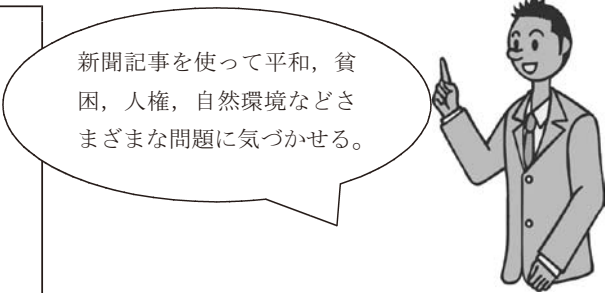
平和・戦争 生命尊重		自然環境 地球温暖化
人権・福祉		貧困 食料不足

模造紙

【活動②】 各班が記事を貼った模造紙を発表して、現代社会の問題を共通認識しよう。何が大きく世界でとりあげられているか知ろう。

【活動③】 各班の発表を聞いて、個人のテーマを決めよう。問題に関する自分の意見を日本語で書いてみよう。

自分のテーマ	
意見	



- 問題意識を高めて、日本語で自分の意見を書かせる。
- 各自のテーマにそったメッセージを考えさせる。

第 2 次 ポスター作品例



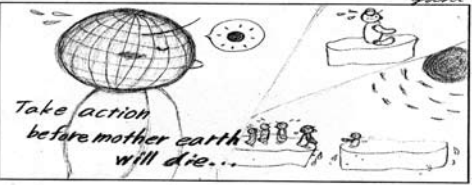
第 3 次 生徒作品 手紙「地球温暖化」

Okayama Daigaku Fuzoku Junior High School  
Address : 13-80, 2 chome, Higashiyama, Okayama, JAPAN 〒703-8281  
— A letter to the President of the United States of America —

Dear George Bush,

Hello, I'm Yuki. I'm 14 year old and a girl. We study many environment problems. And I heard that the U.S.A. is #1 in CO2 emissions. CO2 is cause of Global Warming. And antarctic ice is melting, so penguins and other bears are losing their house. I'm very worried about that. So I think we should stop emissions of CO2. For example, stop the cars and use the trains or busses, do carpool, grow trees or so many things we can do. And you can't do, too. If you and me and all the people take action, I think that makes a very big power. My power is no match for your power. So we need your word. Please give us your power. Thank you very much.

*Yuki*



Take action before mother earth will die...



<b>社会 「 わたしたちの市の様子 」</b>	<b>学年</b>	<b>小 3 年</b>
<b>理由をキーワードにまとめ、説明する事例</b>		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>〔 水島地区に工場が多い理由を示すキーワード 〕</p> <p>(例) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高粱川の出口</span></p> <p style="padding-left: 20px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">埋め立てた広い土地</span></p> <p style="padding-left: 20px;"><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大きな港</span></p> <p>〔 児童が考えた水島地区に工場が多い理由 〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p style="font-size: small;">広い土地があり、大きな港があって交通の便がよいので、水島地区には工場がたくさんある。</p> </div> </div>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 水島地区について知っていることを発表する。</li> <li>② 水島地区の写真を見て、気付いたことを写真に書き込む。</li> <li>③ 写真を見て気付いたことを話し合う。</li> <li>④ 水島地区で工場が多いわけについて話し合う。</li> <li>⑤ 水島地区に工場が多い理由を表すキーワードを考える。</li> <li>⑥ キーワードを使って、水島地区に工場が多い理由を説明する。</li> </ol>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>ポイント</b></p> <p>★キーワードは、具体的な事実をカードに表し、板書でKJ法等を活用しながらまとめ、抽象化していく思考の過程が児童に分かるようにする。</p> <p>★「ノートに書く活動」を取り入れ、一人一人がキーワードを使うという条件に合わせてまとめる経験ができるようにする。</p> </div>		

<b>社会 「 ももを作る人々の仕事 」</b>	<b>学年</b>	<b>小 3 年</b>
<b>目的や視点を明確にして、インタビューをする事例</b>		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>児童によるインタビュー</p> <p>(例) わたしは、山の斜面は日当たりがよくて、桃を作るのにいいから、この地域で桃作りが盛んになったと思いますが、どうですか。</p> </div>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 桃や桃作りについて知っていることを発表する。</li> <li>② 桃作りの盛んなところを調べる。</li> <li>③ 単元を通しての学習問題「桃作りが盛んな秘密を見つけよう。」を作る。</li> <li>④ 桃作り農家を見学する計画を立てる。調べたいことや調べ方を計画ノートに書く。</li> <li>⑤ 桃作り農家の見学をする。</li> </ol> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">* 児童が要点をとらえて聞き取れるよう、結論から述べて、理由を説明してもらうなど、事前に見学先と打合せをしておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑥ 桃作りが盛んな秘密をまとめる。</li> </ol>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>ポイント</b></p> <p>★質問をする時には、自分の考え（予想）も付け加えて質問を考えるように助言する。</p> <p>★説明やインタビューの答えを聞く時には、箇条書きでメモすることを知らせる。</p> </div>		

調べた内容を活用して、おすすめの地域の紹介文を考える事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① くだもの作りの盛んな地域について調べる。
- ② 伝統工業の盛んな地域について調べる。
- ③ 酪農の盛んな地域について調べる。
- ④ 漁業の盛んな地域について調べる。
- ⑤ 他県に住んでいる友達に岡山県で紹介したい地域を一つ決め、理由をつけて発表する。

始めの児童の発表（例）

わたしは、備前市を紹介したいです。

理由を付けた児童の発表

わたしは、備前市を紹介したいです。  
その理由は、1000年も伝統がある備前焼が盛んに作られている地域だからです。  
秋の備前焼祭りの時には、たくさんのお客さんでにぎわいます。  
・・・略・・・

**ポイント**

★自分が紹介したい地域（結論）と、その理由や根拠とに分けて表現できるように、ワークシートや板書の工夫をする。

★理由として、調べたことの中で、特に紹介したい内容を入れることで、説得力のある発表になることを知らせる。

新聞の情報を観点を決めて読み取り、まとめる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 北海道や沖縄の地方新聞（主に地方欄）を使って、北海道や沖縄についての記事を集める。  
\*気候の特色が出やすい時期の新聞を選ぶようにする。
- ② 新聞記事の内容をつかむために、付箋に5W1Hで内容をまとめ、新聞記事に貼る。
- ③ 集めた記事を右の観点を分類して地図に貼り付ける。  
\*視覚的に分析がしやすいように、観点別に付箋の色を変える。
- ④ 完成した地図をもとに、地域の特徴について、ポスターセッションで発表する。

集めた記事を分類する観点

（例）気候

気候に合わせた産業

気候に合わせた家づくり

気候に合わせた観光や祭り

**ポイント**

★岡山県の気候や様子と比較することで、特徴となる情報をつかめるようにする。

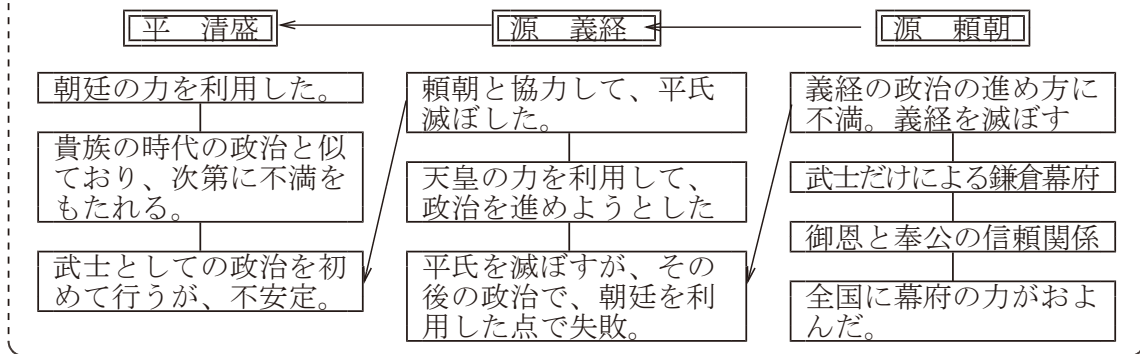
★記事の内容だけでなく、写真やグラフ等の資料にも着目させる。

読み取ったことを分類し、順序や関係を考え、説明する事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 平清盛、源義経、源頼朝が行ったことについて調べる。
- ② 調べて分かったことを付箋にまとめる。
- ③ 付箋を使って、関係図をまとめる。
- ④ 関係図を使って、武士が力を強めていった理由について説明する。

児童が作成した関係図（例）



**ポイント**

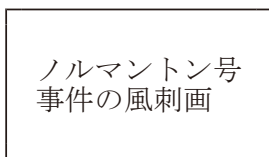
★関係図を作るには、まず、順序に着目させ、その後、因果関係の矢印を引いていくようにする。

★武士が力を強めた理由を、関係図からどのように考えるか、グループで協議させる。

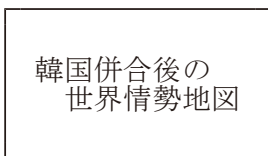
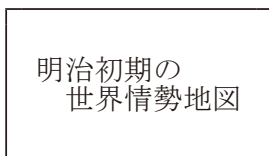
絵画資料や地図から事実を読み取り、関連付けて考える事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① ノルマントン号事件の風刺画を見て分かることを話し合う。



- ② 二枚の地図を見て、分かることを話し合う。



- ③ ①と②の資料から単元の学習課題を考える。

(例) 日本の国際的な立場が大きく変わったらしい。なぜだろう。

**ポイント**

★資料を読み取る時は、次のことをまず確認することを知らせる。

- ・題名
- ・年代
- ・出典

★板書で書き分けるなどして、資料から分かる「事実」と「考え（感想、疑問等）」を区別して読み取ることができるようになる。

★「①から分かる事実と考え」と「②から分かる事実と考え」を関連付けて考えるために、必要に応じて、それぞれの資料の年代に着目し、矛盾点に気付くようにする。

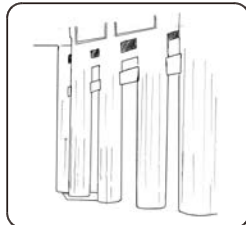
絵画資料や地図を使って類推したことを、根拠を示して説明する事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 「パルテノン神殿の柱と法隆寺中門の柱」「トルファンの樹下美人図と鳥毛立女屏風」「朝鮮の弥勒菩薩像と広隆寺弥勒菩薩像」を見て、気付いたことをまとめる。
- ② それぞれの資料がどこの国のものかを地図上にまとめ、文化が伝わってきた道筋を類推して説明する。



パルテノン神殿



法隆寺中門



朝鮮の弥勒菩薩像



広隆寺弥勒菩薩像



トルファンの樹下美人図



鳥毛立女屏風

**ポイント**

- ★資料のどんな点に主に着目して読みとればよいか、考えさせる。  
(この場合は共通点)
- ★類推したことを、根拠を示して説明する方法を助言する。

資料や聞き取り調査で分かったことを課題別に分類し、総合的にまとめる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 新旧の地形図を比較する。



1971年  
6万分の1  
岡山市都市  
計画資料図集



2006年  
5万分の1  
国土地理院

- \* 地形図は、できるだけ学区のものがよい。
  - \* 航空写真等があると変化がとらえやすい。
  - \* 聞き取った内容を付箋に書き、地図に貼ると分かりやすい。
- ② 課題に沿って、聞き取り調査をする。
    - ・住宅が増え始めた時期やそのきっかけ等。
  - ③ 分かったことを課題別にまとめ、変化を発表する。
  - ④ 他の生徒の調査結果を聞き、身近な地域の変化を総合的にノートにまとめる。

**ポイント**

- ★聞き取り調査は、課題に対する予想を立て、自分の考えと比べながら行うよう助言する。
- ★友達の発表の必要な部分をノートにメモし、自分が調べたことと対比、類比しながら、総合的に地域の変化をまとめるようにする。

<b>社会 「 都道府県の調査 」</b>	<b>学年</b>	<b>中 1 年</b>
<b>学習した内容を効果的な表現方法で要約する事例</b>		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>		
<p>① 岡山県について様々な視点から調べる。</p> <p>② 2人組で岡山県の紹介をするCMを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介する視点を決める。</li> <li>・ 30秒間のCMを考える。</li> </ul> <p>③ CMの発表会をする。</p>	<p>発表例</p> <p>&lt;紹介する視点&gt; 岡山県が全国に誇れる生産物を集める。</p> <p>&lt;CM&gt;</p> <p>A: 岡山県ってどんな県?</p> <p>B: 「晴れの国 岡山」って言われているのは知っとるじゃろ?</p> <p>A: うん、知っとるよ。でも、他には何かねん?</p> <p>B: 晴れの日が多いけえー、マスカット、ピオーネに白桃が日本一なんじゃがあ。それになあ、実は、スイートピーやデンドロビウムの花なんかも多いんじゃあ。</p> <p>A: そうなん。</p> <p>B: 児島地区で古くから作られている男女学生服の生産も日本一で、全国の学生の10人に6人は岡山県で作った学生服を着ることになるんよ。</p> <p>A: へえ〜、岡山県ってすごいんじゃなあ。</p>	
<p><b>ポイント</b></p> <p>★CMは、掛け合いや実物を使うなどの例を挙げ、幾つかの視点について効果的に伝えられる表現の工夫ができるようにする。</p> <p>★聞いている生徒には、温かい気持ちで、評価しながら発表を聞き、感想を言うよう助言する。 (内容、表現の仕方等)</p>		

<b>社会 「 自然災害 」</b>	<b>学年</b>	<b>中 2 年</b>																																				
<b>情報を地図上に表現することで、事実がとらえやすくなる事例</b>																																						
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>																																						
<p>① 1970年以降、世界で起きた自然災害を世界地図にまとめる。</p> <p>② 世界地図からどんな災害がどんな地域に多いのかをまとめる。</p>																																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">年</th> <th style="width: 40%;">災害が起きた国</th> <th style="width: 50%;">災害の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1970</td><td>ペルー</td><td>地震</td></tr> <tr><td>1970</td><td>バングラデシュ</td><td>サイクロン</td></tr> <tr><td>1971</td><td>インド</td><td>サイクロン</td></tr> <tr><td>1976</td><td>中国</td><td>地震</td></tr> <tr><td>1976</td><td>グアテマラ</td><td>地震</td></tr> <tr><td>1977</td><td>インド</td><td>サイクロン</td></tr> <tr><td>1978</td><td>イラン</td><td>地震</td></tr> <tr><td>1982</td><td>メキシコ</td><td>火山噴火</td></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>1995</td><td>日本</td><td>地震</td></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> </tbody> </table> <p>(「防災白書」ほか)</p>	年	災害が起きた国	災害の種類	1970	ペルー	地震	1970	バングラデシュ	サイクロン	1971	インド	サイクロン	1976	中国	地震	1976	グアテマラ	地震	1977	インド	サイクロン	1978	イラン	地震	1982	メキシコ	火山噴火	⋮	⋮	⋮	1995	日本	地震	⋮	⋮	⋮		
年	災害が起きた国	災害の種類																																				
1970	ペルー	地震																																				
1970	バングラデシュ	サイクロン																																				
1971	インド	サイクロン																																				
1976	中国	地震																																				
1976	グアテマラ	地震																																				
1977	インド	サイクロン																																				
1978	イラン	地震																																				
1982	メキシコ	火山噴火																																				
⋮	⋮	⋮																																				
1995	日本	地震																																				
⋮	⋮	⋮																																				
<p><b>ポイント</b></p> <p>★表の情報を地図上に表現することで、空間的な広がりから事実がとらえやすくなるよさを実感させる。</p>	<p>まとめ (例)</p> <p>地震(●)・火山(▲)→環太平洋造山帯のまわりで多い。</p> <p>暴風雨(×) →南アジアなどで多い。</p>																																					

<b>社会 「 日清・日露戦争 」</b>	<b>学年</b>	<b>中 2 年</b>
<b>複数の絵画資料について視点を明確にして読み取り、相 点を考察する事例</b>		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>		
<p>ビゴー作の風刺画「漁夫の利」「火中の栗」はそれぞれ日清戦争の直前・日露戦争の直前の国際関係を風刺したものである。これらの絵画資料を使って、日本の立場がどう変わってきているのかを説明する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>ビゴー作 「漁夫の利」の風刺画</p> </div>	
<p>① 個人で考える。</p> <p>② 2人1組になって、互いの考えを述べ合う。</p> <p>③ 2人の意見をカードに書き、黒板に貼る。</p> <p>④ 友達のカードを見て、自分の考えを修正する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>ビゴー作 「火中の栗」の風刺画</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ポイント</b></p> <p>★絵画資料を読み取る視点を明確にする。 (例) ・方法：作成された時期、国名・状況 ・内容：国際状況、日本の立場</p> <p>★それぞれ資料から読み取ったことをすぐに文章にまとめるのではなく、日本と他国との関係を、図にまとめてから文章にするとまとめやすい。</p> </div>		

<b>社会 「 人権と共生社会 」</b>	<b>学年</b>	<b>中 3 年</b>
<b>学習した内容を活用し、自分の意見を具体的な理由をあげて説明する事例</b>		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男女雇用機会均等法と男女共同参画社会基本法の学習後に、それらを活用する学習活動として、設定する。</li> <li>・ 次のA・Bの「社員募集」の広告は、どちらが現在の社会にふさわしいと考えるか、既習事項を参考に、理由をあげて自分の考えを書く。</li> </ul>		
<p><b>&lt;A&gt; 社 員 募 集</b></p> <p>◎営業(男子大卒以上) ◎事務職(女子高卒以上) 年齢・男子45歳まで、女子35歳まで 給与・営業は固定給18万円以上 (ほかに資格手当あり) ・事務職(女子)は 固定給14万円以上 勤務地 本社 株式会社〇〇</p>	<p><b>&lt;B&gt; 社 員 募 集</b></p> <p>◎営業(大卒以上) ◎事務職(高卒以上) 年齢・45歳まで 給与・営業は固定給18万円以上 (ほかに資格手当あり) ・事務職は固定給14万円以上 勤務地 本社 株式会社〇〇</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ポイント</b></p> <p>★まず、現代社会にふさわしくない部分に印をつけて、その一つ一つに自分で考えて理由をつけるようにする。</p> <p>★男女雇用機会均等法と男女参画社会基本法に照らして、具体的な問題点を明確に示して理由を書くよう助言する。</p> </div>		

質疑応答を受けることで、様々な角度から自分の考えを練る事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 日本各地のユニークな条例を調べる。
  - ・水木しげる記念館条例(鳥取県・境港市)
  - ・雪となかよく暮らす条例(秋田県・横手市)
  - ・ハブ対策条例(沖縄県・伊江村)など
- ② 条例はまちづくりのために制定されることを理解する。
- ③ あなたが住んでいる市町村で、高齢者や障害がある人にやさしいまちづくりをするために、条例を制定しようとしたら、次の3つの案ができた。どれが一番必要だと思うか、また、その理由も書く。
  - A 視覚障害者誘導用ブロックの上は駐輪禁止条例
  - B 高齢者や障害がある人にはいつもやさしくしよう条例
  - C 高齢者や障害がある人には水道料金を半額にしよう条例
- ④ 互いの考えを交流し合い、質疑応答をする。  
\*選ばなかった理由を交流し合うことも考えられる。
- ⑤ 質疑応答を受けて、再度自分の考えをまとめる。

**ポイント**

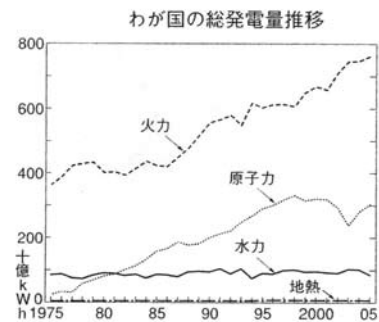
- ★その条例が制定されると、どのような効果が得られ、どのような問題が出てくるのかという因果関係を考えさせるようにする。
- ★出てきた質問を整理し、表にまとめていくと生徒は考えやすくなる。
- ★再度、考えをまとめる際のポイント
  - ・根拠の比較
  - ・様々な立場からのものの見方・考え方

自分の立場を明確にして、意見交換を行う事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① グラフから日本では、原子力発電の占める割合が高くなってきていることに気付く。
- ② 原子力発電のメリット・デメリットをそれぞれの立場(国・地元)から考える。
- ③ 現在の自分はどの立場に近いかを互いに意見交換をする。

	国の立場	地元の立場
メリット		
デメリット		



『2007/08 日本国勢図会』より作成

**ポイント**

- ★まず、それぞれの立場で考え、できるだけ多くのメリット・デメリットを表の中に記入するようにする。
- ★意見交換の後、自分では気が付かなかったメリット・デメリットを、色を変えて記入するようにすると、自分の考え方の偏りがよく分かる。

## 見つけたものやその役割を考えながら、クイズにして表現する事例

## 学習活動・資料・留意事項等

- ① 学校の中で、今までに行ったことのある場所や知っている人について話し合う。
- ② グループで探検してみたい場所を話し合っ  
て決める。
- ③ 学校内を探検する。
- ④ 「みつけたよカード」を学校の地図にはり、  
分かったことや思ったことを発表する。
- ⑤ 自分が行かなかったり、疑問に思ったりし  
たところへ行き、確かめる。
- ⑥ 一番気に入ったところについてのクイズを  
考える。
- ⑦ クイズ大会をする。

## 児童が考えたクイズ

ノートや鉛筆が買えるよ。  
どこかな？

大きなしゃもじがあったよ。  
どこかな？

がいこつがあつてびっくりし  
たよ。どこかな？

## ポイント

★見つけたものやことを言葉で  
友達に伝えるクイズを作れる  
ようにする。

★学校の地図に各教室の写真を  
はっておき、探検したことを  
思い出しやすくする。

## 新しく知ったことや思ったことや考えたことを手紙に表現する事例

## 学習活動・資料・留意事項等

野菜作りや昔遊びなどを、高齢者等とともに  
行い、知恵や温かさに触れる体験活動を行った  
後に実施する。

- ① いっしょに行った活動を振り返り、楽しか  
ったことを話し合う。

\*必要に応じて、活動の写真やその時使った  
道具を提示する。

\*素直な喜びや気付いたことを話し合う中で、  
手紙に書いて表現したいという思いを高め  
る。

- ② お世話になったおじいさん・おばあさん  
にお礼の手紙を書く。

\*絵や文字を使って表現できるようにする。

- ③ 書いたお礼の手紙をクラスの友達に紹介す  
る。



## ポイント

★友達の気付きを全員で共有で  
できるように、質問や感想を話  
し合いながら、振り返る。

★一番心に残っていることを尋  
ね、そのことと自分の思った  
ことを伝え、お礼の気持ちを  
表せるようにする。



友達のアドバイスから、必要な情報を取り出す事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 生き物探しをする。
- ② 生き物と遊ぶ。
- ③ 生き物のすみかづくりをする。
- ④ つくったすみかで工夫したところを他のグループに自慢したり、見せ合ったりする。
- ⑤ 他のグループからのアドバイスを参考にして、すみかの手直しをする。
- ⑥ 生き物を自然に戻す。



**ポイント**

- ★互いに聞き合うことの大切さを知らせる。
- ★アドバイスについて、どう考えたか発表する機会をつくる。

児童の発表例

わたしたちは、ザリガニを三匹飼っています。すみかで工夫したところは、下に小石や砂を入れたところです。

児童のアドバイス例

- ・ザリガニのかくれがもあればいいね。
- ・入れ物が、もっと大きい方がいいと思うよ。

教えてくれてありがとう。植木鉢を使って、ザリガニのかくれがをつくってみるね。

聞き取ったことから、写真や絵を使いながら「自分の物語」を作る事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 小さかった頃の写真や使っていたものを集めたり、その頃の自分の様子について家族にインタビューをしたりする。

\*家庭に次の視点で協力を依頼する。

- ・児童が自分で見付けることができるようにする。
- ・写真や使っていたものを見せながら、当時の児童の様子や児童に対する思いなどについて話をする。

- ② 小さかった頃を思い出しながら「自分の物語」をつくる。

\*自分の成長が分かる写真やものを用意しておく。

- ③ 友達の物語と読みくらべ、感じたことを話し合う。



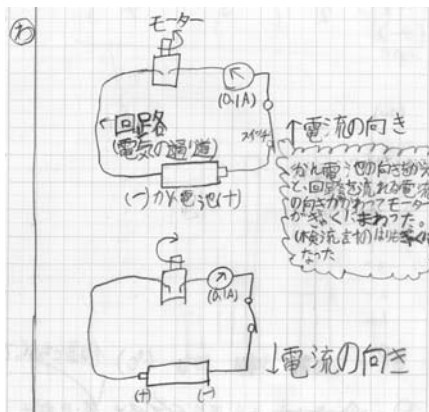
**ポイント**

- ★成長してできるようになったことを尋ね、気付いたことを言葉に表すことができるようにする。
- ★「写真や絵」と「文章での説明」で、それぞれの成長の時期の様子が伝わるように助言する。

学習したことを、科学的用語を使ってまとめたり説明したりする事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 回路に簡易検流計をつないで、電流の向きと、モーターの回る向きとの関係を調べる。
- ② 調べたことから、分かることを自分の言葉でまとめる。
- ③ 分かったことを科学的用語を使って説明する。



**ポイント**

- ★ 実験の方法や結果を図で整理し、具体的に話し合うことができるようにする。
- ★ 現象や現象の変化を思い浮かべながら、自分の言葉でまとめることができるようにする。
- ★ 次の科学的用語を知らせ、それらを正しく使って説明できるようにする。
  - ・ 電流
  - ・ 回路
  - ・ 直列つなぎ
  - ・ 並列つなぎ

観察カードや写真を使って情報を交換し、季節の特徴や変化をとらえる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 4月に、1年間継続して観察する植物を決める。
- ② 植物の観察の後、植物や周りの生き物をデジタルカメラで記録したり、スケッチをしたりする。
- ③ 掲示板に掲示し、互いに紹介し合う。




**ポイント**

- ★ 撮影した写真や観察の記録は、季節ごとにまとめて掲示しておき、日ごろから話題にできるようにしておく。
- ★ 季節ごとの植物や生き物の特徴が分かるように、簡単なタイトルを付ける。
- ★ 掲示板を使って、それぞれの季節に観察したことを発表する中で、変化をとらえることができるようにする。

**器具の使い方や注意事項を、マニュアルで表現する事例**

**学習活動・資料・留意事項等**

- ① アルコールランプなどの器具の使い方を理解し、実際に自分で操作する。
- ② 器具の操作マニュアルを作成する。  
\* マニュアル作りを通して、器具のつくりや操作の仕方についての理解を深めることができるようにする。  
\* 画用紙、カラーペン等を準備しておく。
- ③ 作ったマニュアルを利用して操作する。  
\* ラミネート加工をして、理科室に常に置いておくようにする。



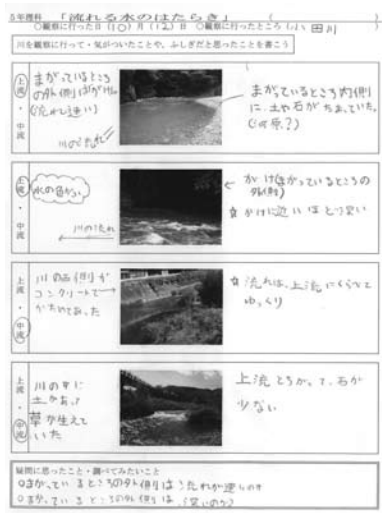
**ポイント**

- ★実際に操作させた上で、自分がした操作の手順をまとめさせる。また、操作する上での注意が必要なことを言葉にして、書き込ませる。
- ★児童が表現の工夫している点を適宜取り上げ、紹介する。
  - ・操作の順序
  - ・大切なことや気を付けることの強調 等

**自分たちの見通しで、実験を計画し、方法や内容について検討し合う事例**

**学習活動・資料・留意事項等**

- ① 実際に川（できれば、上流・中流・下流のうち2か所以上）へ観察に行く。  
\* 川の流れとまわりの様子を観察できるように、観点を示す。  
\* 川を観察するときに、写真を撮影しておく。  
\* 観察した様子を次の観点でまとめる。  
・上流、中流、下流 ・川の流れの様子  
・まわりの様子
- ② 観察して抱いた疑問や気が付いたことを基に、実験を計画する。  
\* 考えた方法の順番を考えさせ、具体的な計画を立てさせる。
- ③ 全体で立てた計画を検討する。



**ポイント**

- ★写真に、川の流れの様子や、川の地形などを言葉で書き込ませ、簡単な資料を作らせておく。
- ★まとめた記録を基に、疑問や気が付いたことを出し合い、実験等を考えるようにする。
- ★考えた実験について、疑問を解決できるか、実施することが可能か、という視点で検討させる。

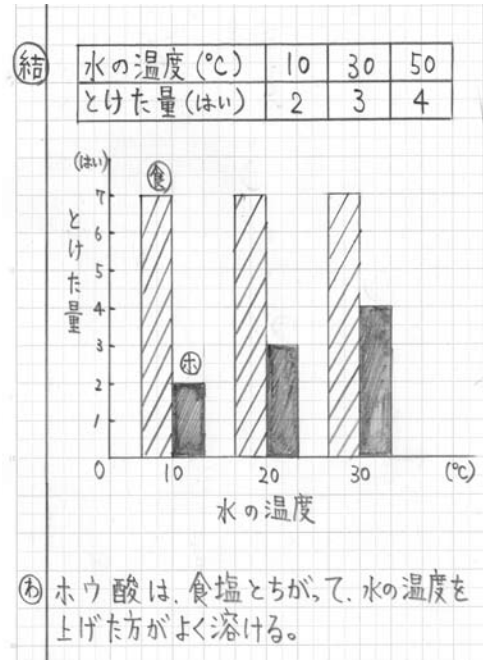
実験の結果を表やグラフに表し、分かることを言葉でまとめる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 水の温度を上げて、食塩やホウ酸の溶ける量を調べる。
- ② 食塩やホウ酸の溶けた量を表に記録する。
- ③ 表に記録した食塩やホウ酸の溶ける量をグラフに表し、考察する。

**ポイント**

- ★ グラフに表す前に、縦軸・横軸の関係や、目盛りのとり方などをはっきりさせる。
- ★ 表やグラフから分かることを考えさせ言葉で書かせたり、話させたりする。
- ★ グラフを基に話し合いをまとめ、グラフに表すよさをとらえることができるようにする。



観察・実験の結果を生活と結び付けてまとめる事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① リトマス紙等を使って身の回りの水溶液を調べる。  
\* 準備した水溶液のほかに、身の回りの水溶液も調べられるように用意しておく。
- ② 調べた水溶液を、酸性、アルカリ性、中性に仲間分けする。
- ③ 水溶液の性質と、生活と結び付けてまとめる。

**ポイント**

- ★ 仲間分けした水溶液に、「性質」と「どのように利用されているか」を書き加えさせ、自分の生活と関連付けて考えることができるようにする。
- ★ トイレ用洗剤など、身近に使われている水溶液の使い方や、はたらきを発表させ、生活の中の水溶液について考えさせる。

6年理科ワークシート(15) 6年( )番(低名: )  
平成 年 月 日( )

「身のまわりの水溶液」  
身のまわりの水溶液を仲間分けして、気がついたことをまとめよう。  
(水溶液について学んだことを、生活と結びつけよう)

	品名	どのように利用されているか	気がついたこと
酸	サンポール	トイレの汚れをとる	トイレの洗剤には塩酸が使われていた。
	酢	調味料	
中	台所用洗剤	皿などを洗う	
	牛乳	飲む	口にするものが多い
アルカリ	カビ取りハイター	お風呂場などのカビを取る	トイレ用の洗剤は、酸性のものかアルカリ性のものか。アルカリ性のものは、掃除に使う危険性がある。
	トイレハイター	トイレの汚れをとる。	

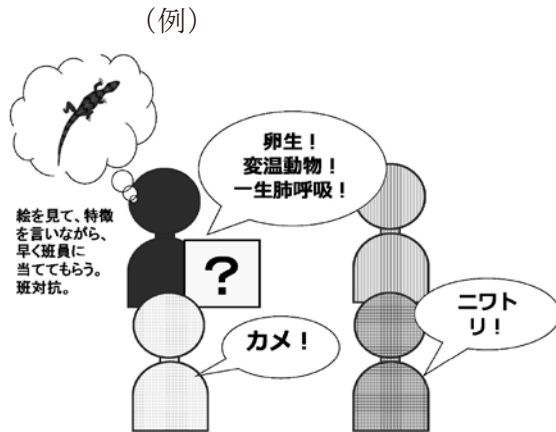
理科 「 大地の変化 」	学年	中 1 年
<b>教科書や資料の内容を理解し、活動を取り入れて分かりやすく説明する事例</b>		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>		
<p>◆ 学習内容の一部を、数人のグループごとに生徒自身が計画して発表したり、説明したりする。</p> <p><b>条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当する学習内容に関するワークシートを作成すること</li> <li>○ 実験や観察、ビデオなどの活動を入れること</li> <li>○ 15分以内にまとめること</li> </ul> <p>*それぞれのグループが発表する日を予告し、準備させておく。</p>		
<p>&lt;例&gt; <b>テーマ</b>： マグマのねばりけと火山の形のちがい  <b>ワークシート</b>…【内容】マグマのねばりけと火山の形、色、噴火のようすなど。          ※便覧を参考に、□の中に適切な言葉を入れる形式にする。  <b>演 示 実 験</b>…注射器に詰めたねばりけの違う石こうをねんどで作った山の頂から流し、山を流れるようすの違いを演示する。  <b>説 明</b>…プロジェクターで火山の写真を提示し特徴を説明したり、インターネット上の動画を活用し、火山の噴火について説明したりする。</p>		
<p><b>ポイント</b></p> <p>★テーマは生徒が理解しやすいものを選び、発表の内容や方法、説明の言葉などについてアドバイスをする。</p> <p>★生徒が説明を考へるときの参考にできるよう、実施可能な観察、実験、使用可能なビデオなどの情報を提供できるようにしておく。</p>		

理科 「 身のまわりの物質 」	学年	中 1 年				
<b>実験の結果をレポートにまとめる事例</b>						
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>						
<p>◆ 気体を発生させ、その性質を調べる実験を行い、結果をレポートにまとめる。</p> <p>&lt;例&gt;</p>						
<p>目的：気体を発生させて、その性質を調べよう。          準備：うすい過酸化水素水、二酸化マンガン、うすい塩酸、石灰石、試験管…          方法：教科書参照          結果：におい、線香の火のようす、石灰水の反応、リトマス紙の反応（表にまとめる。）          考察：1 二酸化マンガンにうすい過酸化水素水を加えたとき、発生した気体は何だと考えられるか。理由も書こう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">考察例</td> <td>気体名（酸素）理由…物が燃えるのを助けるはたらきがあるから。またリトマス紙には反応せず、においはないから。</td> </tr> </table> <p>考察：2 石灰石にうすい塩酸を加えたとき、発生した気体は何だと考えられるか。理由も書こう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">考察例</td> <td>気体名（二酸化炭素）理由…石灰水が白くにごったから。また、二酸化炭素は少し水に溶けて、リトマス紙に反応して酸性を示したから。</td> </tr> </table>			考察例	気体名（酸素）理由…物が燃えるのを助けるはたらきがあるから。またリトマス紙には反応せず、においはないから。	考察例	気体名（二酸化炭素）理由…石灰水が白くにごったから。また、二酸化炭素は少し水に溶けて、リトマス紙に反応して酸性を示したから。
考察例	気体名（酸素）理由…物が燃えるのを助けるはたらきがあるから。またリトマス紙には反応せず、においはないから。					
考察例	気体名（二酸化炭素）理由…石灰水が白くにごったから。また、二酸化炭素は少し水に溶けて、リトマス紙に反応して酸性を示したから。					
<p><b>ポイント</b></p> <p>★レポートの項目の立て方や、理由を明記した考察の書き方をつかむことができるようにする。</p> <p>★考察の内容について、教師が評価を記入した後、返却し、グループ等で内容や表現について振り返る場面を設けることで、考察のポイントを確認させる。</p>						

言葉で表された特徴をもとに、動物名を判断する事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 班の代表者が、動物の描かれたカードを1枚教師から受け取る。
- ② カードをもらった代表者は、その動物の分類上の特徴を考え、一つずつ言葉で上げていく。
- ③ 班員は、その特徴からカードに描かれた動物の名前を判断し、分かった時点で発表する。
- ④ 代表者が正解と判断した時点でカードの絵を見せ、班全員で答えが正しいかどうかを確認し正解できたことを教師に報告する。  
\* 班に配るカードの枚数を増やし、班対抗で行ってもおもしろい。



**ポイント**

★必要に応じて、分類上の特徴を踏まえ ★どのような言葉を使うと特徴を伝えることができるかを十分に考えさせてから、活動に移らせる。

情報を正確に聞き取り、図に表す事例

学習活動・資料・留意事項等

- ① 一人1枚ずつ、回路を完成させるための情報カードを受け取る。
- ② 情報カードの内容を口頭で伝え合う。
- ③ 情報を正確に聞き取り、各自で回路を完成させる。  
<例>

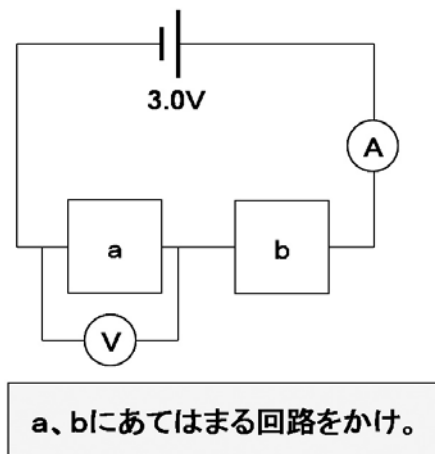
ひとりに1つカードが与えられる。  
情報は口頭でしか伝えられない。

電圧計は1.0Vである

電流計は0.3Aである

bは抵抗2つが並列である。

bの抵抗の1つには0.2Aの電流が流れる



**ポイント**

★各自がメモを取り、情報を正確に聞き取ることができるようにする。  
★必要に応じて確認をし、メモ回路をもとに回路を図に表すことができるようにする。

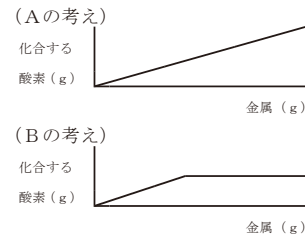
## 予想や実験結果について、グラフを使って話し合いながら考えを深める事例

## 学習活動・資料・留意事項等

- ① 金属の質量と化合する酸素の質量の間にはどのような関係があるか、小グループで予想を話し合う。  
 <話し合いの例>  
 A：金属の質量が増えると、化合する酸素も増えるんじゃないかな。  
 B：金属の量が増えても、一定の質量まできたらそれ以上は結びつかないと思う。
- ② 小グループごとに「銅の粉末を加熱する実験」と「マグネシウムを加熱する実験」のどちらかを選んで実験する。
- ③ 結果をまとめる。  
 ・銅またはマグネシウムの質量と、酸化銅または酸化マグネシウムの質量、それらから化合した酸素の質量を計算して表にまとめる。  
 ・銅またはマグネシウムの質量と化合した酸素の質量との関係をグラフに表す。
- ④ 結果のデータを基に、考察をまとめる。

## ポイント

★予想を話し合う際、自分の考えをグラフに表し、友達の考えと比較できるようにする。



★考察では、データを基にした根拠を示しながら、結論を明確に書くことが大切であることを助言する。

## 問題意識や見通しをもちながら調べた結果について話し合う事例

## 学習活動・資料・留意事項等

- ① 科学技術の進歩で環境にどのような課題が生じているか、予想を小グループで話し合った後、学級全体で予想を出し合う。  
 <予想の例>  
 ・二酸化炭素の排出→地球温暖化  
 ・薬品など→有害な廃棄物  
 ・自動車の排気ガス→大気汚染
- ② 問題意識をもった課題を小グループで話し合い、調べるテーマを決める。調べる方法について見通しをもち、調べた結果をレポートにまとめる。  
 <例>  
 テーマ  
 「雨の酸性度を調べる」  
 調べる方法  
 (1) 調査する場所を決め、雨水を集める。  
 (2) PH計で、酸性度を測る。  
 (3) 都市部や山間部、工業地帯などの測定値と比較し、考察する。  
 (4) 分かりやすいグラフを入れたレポートにまとめて、発表する。
- ③ 発表会を実施し、環境保全と科学技術の利用の在り方について意見の交換をする。


## ポイント

★小グループでの話し合いは次のような視点で行う。  
 ・どのような科学技術の進歩によって、どのような課題が生じているのか。

★今まで学習したことを生かしながら、科学的な根拠をもった調査になるよう支援する。

★レポートの書き方の例を示す。

- (例)
- (1) 目的
  - (2) 方法
  - (3) 結果
  - (4) 考察
  - (5) 感想

理科 「 全単元 」	学年	中1～3年
科学に関連した情報の内容を理解し、伝達する事例		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>		
① 学習内容と関連のある科学の話題で、興味あるものを見つける。 ② 新聞記事、雑誌の切り抜き、インターネットで調べたこと、自分で調べたものなど資料を持ってくる。 ③ 班内でペアをつくり、互いの資料を交換して読む。 ④ 資料の内容について、質問し合い理解を深める。 ⑤ 理解できたら、同じ班の他の班員にレポーターとして説明する。 「〇〇さんからの科学の話題です。これは……」 ⑥ 班員からの質問に答える。 ⑦ 班内でベストニュースを選んで、発表会や掲示物でクラスに報告する。 *単元のまとめや、長期休業の宿題などに活用できる。		<b>ポイント</b> ★次のような、効果的な説明の仕方を助言しておく。 (例) ・はじめに小見出しのような概要を話し、その後、詳しい説明をする。 ・その情報から、自分が考えたことなどを付け加える。等
		

理科 「 全単元 」	学年	中1～3年
キーワードを使って、事象等を文章で表す事例		
<b>学習活動・資料・留意事項等</b>		
◆ 3個のキーワードを使って、1文30字程度で現象や理由等を文章で説明する。 <例>		
問 題：顕微鏡でピントを合わせるとき、対物レンズを遠ざけながら合わせるのはなぜですか。 キーワード：「対物レンズ」「プレパラート」「割れる」 答 え：レンズをのぞきながらピントを合わせると、対物レンズがプレパラートにぶつかって割れるかもしれないから。		
◆ 5個のキーワードを使って、原因や予想等を文章で説明する。 <例>		
問 題：まもなく温暖前線が近づく地点で、今後の天気はどう変化すると予想されるか。 キーワード：「温暖前線」「雲」「雨」「気温」「天気」 答 え：温暖前線が近づくと、雲が増え始め、やがて雨が降ってくる。雨はだんだん強くなり、しばらく降り続ける。雨が上がった後は天気は晴れとなり、気温が上がる。		
<b>ポイント</b> ★生徒の言葉の力に応じて、キーワードの数を変えながら、様々な場面で継続的に行う。 ★さらに、学習内容に関連のある身近な例や他の実験方法、よい実験結果が得られなかった原因など、文章で答える場面を増やしていく。		



## 言葉に着目して問題を読み取り、演算決定する事例

## 学習活動・資料・留意事項等

## 問題 1

犬は、ぜんぶ なんびきいるでしょうか。

## 問題 2

てるてるぼうずを つくりました。  
あかぐみの てるてるぼうずは 8こ、  
あおぐみの てるてるぼうずは 6こ  
あります。  
あわせて なんこ ありますか。  
どちらか なんこ おおいですか。

## ここでも使える

2年「どんな計算になるのかな」  
\*たし算・ひき算・かけ算

3年「どんな計算になるのかな」  
\*たし算・ひき算  
\*かけ算・わり算

① 問題文を読み、たし算かひき算かが分かる言葉に線を引く。

② 「たしざんことば」「ひきざんことば」を手がかりとして、立式する。

\*言葉を手がかりとするが、数図ブロックなど半具体物で操作活動を行い、確かなものとする。

\*発達段階に合わせて、図なども活用する。

③ 2人組で問題を出しあったり、全体で発表したりする。

## ポイント

★「たしざんことば」「ひきざんことば」として生活の中の言葉を集め、掲示しておく。

★児童が見付けた「〇〇ことば」を増やしていくことで意欲付けとなる。

## 上下左右の関係から、表を読み取る事例

## 学習活動・資料・留意事項等

1	2	3	4	5	?	?	?	9	10
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
?	32	33	34	?	36	37	38	39	40
41	42	43	44	45	?	?	?	49	50
?	?	53	54	?	56	57	58	59	?
?	62	63	?	?	?	67	68	69	?
?	?	73	74	?	76	?	?	79	80
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	?

## ここでも使える

3年「かけ算」  
\*かけ算九九の表

6年「比例」  
\*ともなって変わる  
2つの量の表を読む

① 1～100までの表を見て、数を読んでいく。

② かくれた数を見つける。

③ 理由を言いながら、発表する。

例) ・79より1小さいので、78  
・16より10小さいので、6  
・1、11、21と1の位が1なので、31

## ポイント

★みんなで声に出して読み上げていく中で、表に書かれた数の規則性に、目が向くようにする。

★理由を言うことで、根拠を基に自分の考えを説明する力を養うとともに、数を豊かにとらえる力を養う。

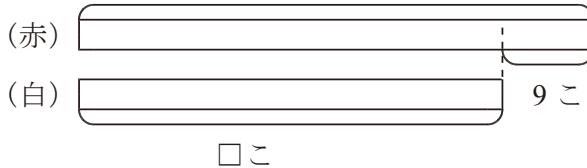
## テープ図に表して、問題を読み取る事例

## 学習活動・資料・留意事項等

問題

赤ぐみの玉は 26こ はいています。  
赤ぐみは、白ぐみより 9こ 多いそうです。  
白ぐみは、なんこ はいていますか。

26こ



## ここでも使える

各学年のテープ図・線分図

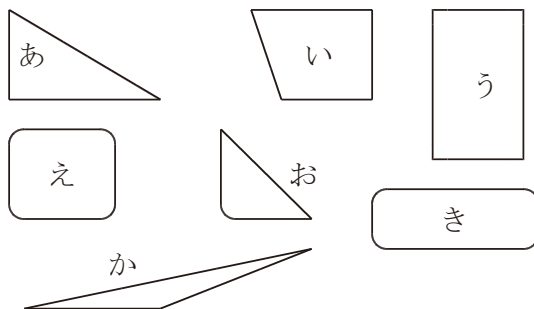
- ① 問題文を読み、大切な言葉や数字に下線を引く。
- ② 2本のテープの長さを見て、赤・白を決定する。
- ③ テープ図に数字を書き込む。
- ④ テープ図を見て、赤組の玉の多い分だけ引くと、白組の入れた数になることに気づき、立式する。

## ポイント

- ★「赤は白より○個多い」という言葉に着目させ、その数の関係をとらえ、テープ図に表すようにする。
- ★「白は赤より○個少ない」と言い換えさせ、立式のヒントにする。
- ★板書で気づきにくい児童には、本物のテープのテープ図や、ブロックや○で表すなど、より具体化させて理解を促す。

## 分類の体験活動を通して、用語の意味を確実につかむ事例

問題 下の形を仲間分けしよう



	直線	まがった線
3本	あ・か 《三角形》	お
4本	い・う 《四角形》	え・き

## ここでも使える

3年「形」\*正方形・長方形、直角三角形  
4年「三角形」\*正三角形・二等辺三角形  
5年「四角形」\*台形・平行四辺形

- ① 7つの形を2つの仲間に分ける。  
\*仲間わけの操作がしやすいように7つの形をカードにしておく。
- ② 2人組（グループ・学級全体）で、自分の分け方やその理由を説明する。
- ③ さらに、2つの仲間に分ける。
- ④ 三角形と四角形の定義を知り、仲間分けした図形に基づいて理解する。  
三角形～3本の直線でかこまれた形  
四角形～4本の直線でかこまれた形

## ポイント

- ★自分がした仲間分けの「事実」とその「理由」を説明する中で、出てきたそれぞれの仲間の特徴を確認する。
- ★定義は、必ず教科書に書かれている用語と定義を確認する。

図・式・表を使って自分の考えを表現する事例

学習活動・資料・留意事項等

問題

12 × 4 の答の見つけ方を考えよう。

A さん

12 の 4 つ分  
12+12+12+12

B さん

12 を 10 と 2 に分けて  
0000000000 00  
0000000000 00  
0000000000 00  
0000000000 00

C さん

かけ算のきまり

12 × 1 = 12  
↓ +12  
12 × 2 = 24  
↓ +12  
12 × 3 = 36  
↓ +12  
12 × 4 = □

D さん

かけ算のきまり

4 × 12 と考える

	9	10	11	12
4	36	40	44	○

- ① かけ算の性質を復習する。  
・かけ算はたし算にできる。  
・かける数が1増えると、その答はかけられる数だけ増える。
- ② 12 × 4 の答を考える。
- ③ 図・式・表などを使って自分の考えを表す。
- ④ グループで自分の考えを発表しあう。
- ⑤ それぞれの考えを発表しあい、共通点や相違点を見つけあう。

ポイント

- ★お互いの考えを発表し合うことで様々な思考の表現方法を知ることができるようにする。
- ★自分との共通点や相違点を考えさせることで、考えを深めることができるようにする。

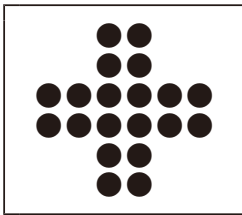
ここでも使える

5年「小数の計算」\*かけ算

自分の考えを、式や図に表す事例

学習活動・資料・留意事項等

問題



おかしが箱の中に入っています。  
求め方をいろいろ考えて式に表してみよう。

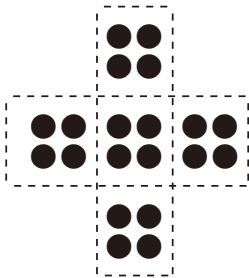
- ① おかしの数の求め方について、自分の考えを式と図に表す。

ポイント

- ★問題と同じ形のワークシートを用意し、自分の考えを書き込んで式を考えたり、自分が考えた式を図に表したりできるようにする。

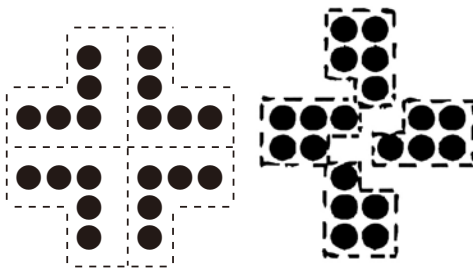
A さん

4 × 5



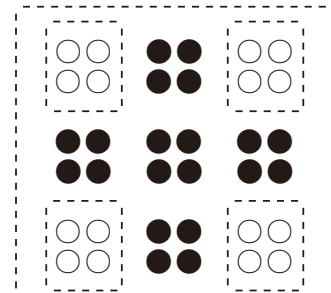
B さん・C さん

5 × 4

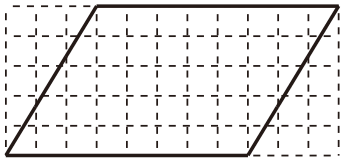


D さん

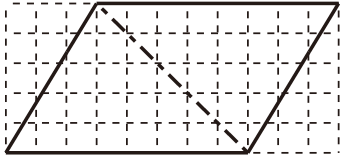
6 × 6 - 4 × 4



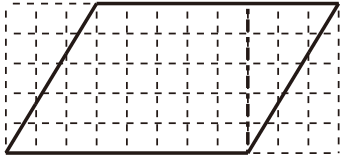
図を操作させて、自分の考えを相手に説明する事例



問題  
平行四辺形の面積を求めよう  
1マスは1cm



Aさん  
補助線を入れて  
三角形が2つ  
として求める。



Bさん  
補助線を入れて  
移動させ、長  
方形として考  
える。

**ここでも使える**  
4年「面積」 \* 四角形の複合図形  
5年「面積」 \* 三角形の面積

- ① 面積の求め方の既習事項を確認する。
- ② 図に補助線を引いたり、図を切ったりして、平行四辺形の面積の求め方の自分なりの考えを持つ。
- ③ 2人組で自分の考えを発表しあう。
- ④ 全体で発表しあう。

**ポイント**

★必要に応じて、既習の長方形や三角形の面積の求め方を使って平行四辺形の面積を求めるという視点で、支援する。

★補助線を引いたり、切って動かしたりして、既習事項と結びつけながら自分の考えを発表することができるように、拡大した発表用の図形を複数枚用意する。

★説明しにくい時は、考えた順序で説明するよう、助言する。

新聞作りを通して、学んだことを再構築して表現する事例

<例1>

算数新聞 算 月 日( ) 号 17. かなを言おう ◆イ本未済◆

直方体・立方体の体積  
1辺が1cmの立方体の体積のことを1cm<sup>3</sup>(1立方センチメートル)という。

大きな体積  
1辺が1mの立方体の体積のことを1m<sup>3</sup>(1立方メートル)という。

体積の単位の変換  
1m<sup>3</sup> = 1000dm<sup>3</sup> = 1000000cm<sup>3</sup>

かさのことを体積という。体積は1立方センチメートルあるかで表す。

体積の公式  
直方体の体積 = 縦 × 横 × 高さ  
立方体の体積 = 1辺 × 1辺 × 1辺

感想  
もうイ本未済については大丈夫になった。で、この二つの物の体積を比べると水の量に入れてふいた量の体積を比べれば、わかると思った。

- ① 学んだ内容を新聞形式にまとめる。
  - ・ その単元で学習したことを書く。
  - ・ その他の内容の工夫
    - ☆自分で発見したこと
    - ☆生活の中で〇〇に使える
    - ☆自分で作った問題
  - ・ 感想
    - ☆分かったことや気付いたこと
    - ☆おもしろかったことや楽しかったこと
    - ☆もっとやってみいたいこと

<例2>

算数新聞 算 月 日( ) 号

体積

直方体の体積を求めるときは...

立方体の体積は...

感想  
物が大きくなると、小さくても、あの公式は同じなのだから、いつでも使える！  
立方体は、大きさが70、そのまわりは楽しい!! 私はいくらでもと頑張りました。で、めでたー!!

**ポイント**

★できたものを互いに見せ合っていると、さらに表現力が付く。

★用紙は児童に負担がかからない大きさがよい。  
(八切画用紙の半分程度)

間違いの理由をあげて、分かりやすく説明する事例

《課題》

★どこが、間違っているのでしょうか。

$$(1) (-5x)^2 = -25x^2$$

$$(2) 7x - (3x - 2) = 7x - 3x - 2 \\ = 4x - 2$$

$$(3) (18x + 9) \div 3 = 6x + 9$$

$$(4) (4x - 2) \div (-2) = -2x$$

$$(5) 3x - 2(x - 4) = 3x - 2x - 8 \\ = x - 8$$

$$(6) 12 \times \frac{3x - 2}{4} = 9x - 2$$

$$(7) 9 \left( \frac{2}{3}x + 5 \right) = 6x + 15$$

《学習活動》

- ① どこが間違っているかを考え、正しい答を求める。
- ② なぜこのようなまちがいをしたのか、このようなまちがいを防ぐためには、どのように計算すれば良いかを考え、発表する。
- ③ 発表のよかった点を評価し合う。

**ポイント**

- ★グループで互いの考えを発表し合い、グループの考えをまとめて、全体で発表させる。
- ★初めの時期に、自分の考えを数学的に伝え合うという観点から評価し合うようにさせる。

表の情報を読み取り、方程式の問題作りをする事例

《課題》

★次のお店で買い物をするときのことを考えて、問題を作ろう。

シュークリーム	180円	パン	100円
ドーナツ	150円	缶ジュース	120円
おにぎり	130円	クッキー	60円
サンドイッチ	200円	ケーキ	280円

- (1) 方程式が、 $120x = 480$  となる問題を作ろう。
- (2) 方程式が、 $1000 - 130x = 220$  となる問題を作ろう。
- (3) 他にも問題を作って、みんなで解いてみよう。

《学習活動》

- (1) (2) について
  - ① 作った問題を発表する。
  - ② 問題が適切な内容かどうかを評価する。
  - ③ 答を求める。
- (3) について
  - ④ 作った問題を発表し、皆で解く。

**ポイント**

- ★問題に不明な点があれば質問し合い、相手に分かるような問題ができるようにする。
- ★生活と結び付けて、違う場面の問題作りに挑戦させてもおもしろい。

数学 「 平面図形 」	学年	中 1 年
課題文の情報をもとに、目的に応じて作図する事例		
<p>《課題》</p> <p>★A君、B君、C君の3人が遊ぶ約束をしました。待ち合わせ場所は、3人の家から等しい距離にある地点です。待ち合わせ場所を、作図して求めよう。</p> <p>・ A君の家</p> <p>・ B君の家</p> <p>・ C君の家</p>	<p>《学習活動》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3点から等しい距離にある点の意味を考える。</li> <li>② その点の求め方を考える。</li> <li>③ 垂直二等分線を引いて、交点を求める。</li> </ol> <p><b>ポイント</b></p> <p>★課題文の情報から、どのような条件を読み取ればよいかに着目させ、「3点から等しい距離」という条件を読み取らせる。</p> <p>★必要に応じて、既習の垂直二等分線を活用すると作図できることを助言する。</p>	

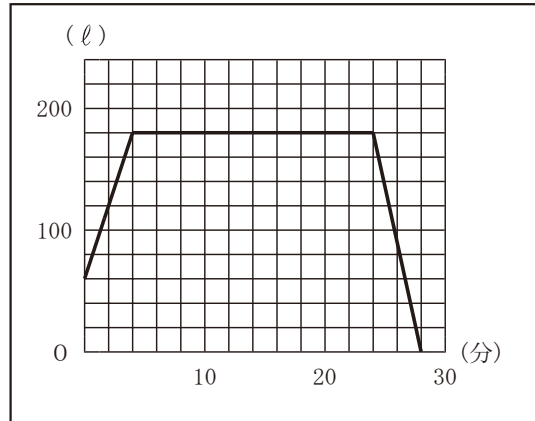
数学 「 連立方程式 」	学年	中 2 年
会話文の情報を読み取り、連立方程式を立式して問題解決をする事例		
<p>《課題》</p> <p>A君：昨日のマラソン大会どうだった？  B君：後半スピードが落ちてしまって…。  A君：距離と時間は？  B君：4.8kmを、21分かかってしまったよ。給水所までは毎分250mのペースだったんだけど、給水所からは毎分200mのペースにがた落ちで…。水を飲み過ぎたのかなあ。  A君：ちょっと待って。  （しばらく沈黙）  そうか、スタート地点から給水所までは□kmで、給水所からゴールまでは、△kmだったんだね。  B君：え、どうしてわかったの？</p> <p>★A君は、スタート地点から給水所まで、給水所からゴールまでの距離を、どのようにして求めたのでしょうか。A君に代わって、B君に説明してあげよう。</p>	<p>《学習活動》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 会話の中の情報を読み取り数量の関係を明らかにする。</li> <li>② 問題解決の方法を考え、連立方程式の利用に気付く。</li> <li>③ 連立方程式を作り、それぞれの距離を求める。</li> </ol> <p><b>ポイント</b></p> <p>★数量の関係を明らかにする際、線分図が有効なことを助言する。</p> <p>★線分図から、問題解決の方法や、何を<math>x</math>、何を<math>y</math>とおけばよいかを考えさせる。</p>	

課題文の情報をもとに、グラフを分析する事例

《課題》

★お湯がいくら入っている浴槽に、一定の割合でお湯をつぎたし、お風呂を使用の後、お湯を抜きました。お湯をつぎたし始めてからの時間と浴槽のお湯の量の関係をグラフに表すと、右のようになりました。(体を洗う際は、浴槽のお湯は使用しません。)

- ①最初に浴槽に入っていたお湯の量を求めよう。
- ②お湯を浴槽につぎたすのにかかった時間と、つぎたしたお湯の量を求めよう。
- ③お湯を抜くのにかかった時間を求めよう。
- ④お湯をつぎたすペースと、お湯を抜くペースとでは、どちらが速いか考えよう。



《学習活動》

- 与えられた情報を基に、グラフを分析し、発問に答える。

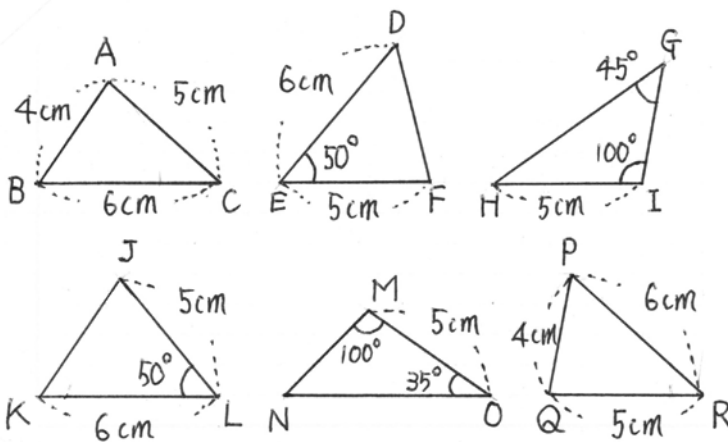
**ポイント**

- ★表の読み取り方について、次の点を理解させる。
  - ・直線の傾きが0の時は変化がない。
  - ・直線の傾きが、増減やその速さを表している。

合同な三角形を見つけ、その根拠を数学的に正しく説明する事例

《課題》

★次の中から合同な三角形を見つけ、記号≡を使って表そう。また、そのときに使った合同条件を書こう。



《学習活動》

- ① 合同な三角形を見つけ、記号≡を使って表し、その根拠となる合同条件を書く。
- ② 等しい辺や、角を発表し、合同条件が適切かどうか、対応する順番が正しいかどうかを確かめさせる。

**ポイント**

- ★既習の合同条件を復習し、論理的に合同を判断できるようにする。
- ★合同条件に沿って、数学的に説明する方法が正しく使えているか、個別に確認する。

関数の特徴を比較し、用語の意味を深く理解する事例

《課題》

★次のア～エについて、各問に答えなさい。

- ア)  $y$  は  $x$  に比例し、 $x = 2$  のとき  $y = 12$
- イ)  $y$  は  $x$  に反比例し、 $x = 2$  のとき  $y = 12$
- ウ)  $y$  は  $x$  の一次関数で、  
 $x = 4$  のとき  $y = 18$ 、 $x = 2$  のとき  $y = 12$
- エ)  $y$  は  $x$  の 2 乗に比例し、 $x = 2$  のとき  $y = 12$

- (1)  $y$  を  $x$  の式で表そう。
- (2) 表を書こう。

$x$	…-3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, …
$y$	…

- (3)  $x$  の値が 2 倍、3 倍、4 倍と変化するとき、 $y$  の値がどのように変化するかを考えよう。
- (4) グラフを書こう。
- (5)  $x$  の値が 2 から 4 まで変化するときの、変化の割合を求めよう。

《学習活動》

- ① 課題について、個人で考える。
- ② グループで互いの考えを話し合う。
- ③ 学級全体で話し合い、それぞれの関数の特徴を復習する。

**ポイント**

★ワークシートを用意し比較しやすいように配慮する。

	ア	イ	ウ	エ	オ
(1)					
(2)					
(3)					
(4)					
(5)					

表を活用して、条件や求めるものを明確にして、問題作りをする事例

《課題》

- (1) カレンダーの数の並びにある特徴を答えよう。
- (2) 上下に並んだ 2 つの数の積が 60 になるところをみつけよう。
- (3) カレンダーを使って問題をつくろう。

平成20年 1 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

《学習活動》

- ① カレンダーの数の並びの中に規則性を見つけ、特徴を発表する。
- ② (2) を二次方程式を利用して解く。
- ③ 数の並びの特徴を使って、方程式の問題をつくり、互いの問題を解き合う。

**ポイント**

★並びの特徴をもとに、次の表を埋めさせ、規則性に気付かせる。

	$x$	

★グループ内で問題を交換し、解いた後に感想を話し合ったり、印象的だった問題を皆で解いたりすると、さらに表現力が付く。





# Ⅲ 資料

平成19年5月8日に開催された「言葉の力向上講演会・シンポジウム」の概要、並びに「平成19年度言葉の力向上委員会報告書」を掲載しています。

本事例集は、これらの方向性を基に作成されています。

## 言葉の力向上講演会・シンポジウム（平成19年5月8日）

### 講演 「これからの『言葉の力』の育成」

京都橘大学 甲斐睦朗教授 9:30～12:00

#### 1 はじめに

時間をかけてたくさんものを読む、解釈しいろいろな人の説を比較し、自分の考えを作っていくようなことが、根本的に大切であると考えている。

#### 2 言葉の力という考え方

言葉は、「確かな学力」を形成するための基盤であり、生活にも不可欠である。言葉は、他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段であり、家族、友達、学校、社会と子どもをつなぐ役割を担っている。言葉は、思考力や感受性を支え、知的活動、感性・情緒、コミュニケーション能力の基盤となる。国語力の育成は、すべての教育活動を通じて重視することが求められる。

小学校の段階では、低・中学年においては、朗読、漢字の読み書き、古典の暗唱などに取り組み、高学年からは読解力の育成などを重視してはどうか。

中学校段階については、公の場での説明や討論に必要なコミュニケーション能力の育成は、国語を基礎としながらも国語以外の教科等で取り組むことが有効

（第3期教育課程審議会の審議経過報告から）

#### 3 国語教育と国語科教育－「言語力育成協力者会議」の動向

(1) 日々の言語生活、学校の生活を通して、言語力・国語力を育成する一言語力育成のための具体的な方途や道筋についても、教科等を横断した検討を集中的に行い、各教科等の具体的な改善方策を導くことが必要である。

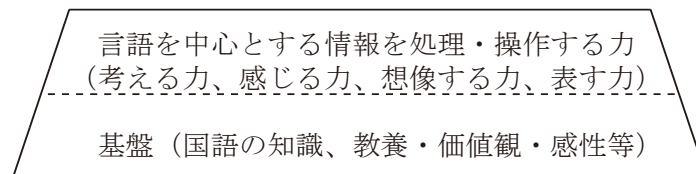
- ・国語力とは、将来を切り開くための生涯教育の一環としてとらえる。
- ・読解力は、言語力、つまり各教科で活用することを求められる力と置き換えることができる。
- ・国語科では、各教科で活用される言語力を育てるのではなくて、国語科に閉ざされた力、他に応用のきかない力を育てているという批判もある。

(2) 「初等教育資料」平成18年5～6月号に掲載された各教科が育てる「読解力」の論考・参照しながら、国語科は何をすべきか考えてほしい。

#### 4 国語科は2種の異なる目標をもつ

(1) 国語科は、他の教科等の学習をも支える言語力を育成する。

- 文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（平成16年2月）  
これからの時代に求められる国語力＝予測不能：どんな時代でも通用する国語力



基盤 (国語の知識、教養・価値観・感性等)

・幅広く、分厚く、柔軟に常に活性化したような基盤でないといけない。

言語を中心とする情報を処理・操作する力

- ・理解とは、考える、感じる、想像する（いわゆる聞くではない）
- ・表す力も、考える力等と大きく関係する。

○文化審議会答申（平成 16 年 2 月）が提案する「これからの時代に求められる国語力を身に付けるための方策について」

- ① 国語力を身に付けるための国語教育の在り方
  - ・最も基礎的な力は、常用漢字の力、漢字力  
→漢字の読み書きができることで、読書の広がりが増す。
- ② 国語力を身に付けるための読書活動の在り方
  - ・例えば、全校で週 4 日、20 分ずつの読み聞かせを行っている学校では  
→子どもが変わる。教師が変わる。
  - ・子どもが選定するのに適した蔵書数（小学校 5 千冊、中学校 1 万冊が上限）
  - ・子どもの目を引く工夫（子どもの目線に合わせた配架等）
  - ・読書に関して、子どもの話し相手、相談相手になってくれる人が必要。
  - ・教師も、総合的な学習の時間などできるだけ参加をする。
  - ・教師がしっかり読書をする。  
例：給料の 1 割本を買う。  
ベストセラー、名作、年齢に合う本に目を通す。  
それらを話題にする。教師の肉声、生の人柄に惹かれる。

(2) 国語科特有の国語力を育成する。

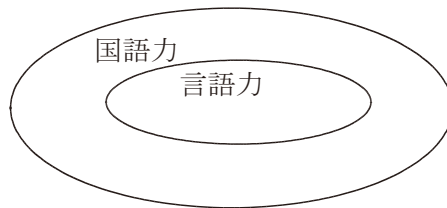
言語力＝他教科・領域にも一貫する言葉の力。しかし、国語が中核となる。

(例：メモを取る・整理する・まとめる・発表するなど)

国語力＝日本の言語文化を学習することで、発想、考え方、想像力、感覚などを身につける。漢字、語彙、人間性、情緒・感性を含めた大きな意味での力

(例：古典の朗読・暗唱、漢字・漢語等)

国語科と言語力を半ば重なる二つの円で説明すると



## 5 「OECD読解力向上プログラム」

(1) 現行学習指導要領から消失した「読解」という用語

(2) OECDのPISA調査で新しく使われ始めた「読解力」という用語

- ・PISA調査は、自分が判断しないといけない種類の問題である。
- ・日本の授業では、教師がリードし、生徒は教師の顔色を見て判断している。生徒の主体性を育てる授業が大切である。
- ・答えが複数あり、それを選んだ根拠を説明できる力を育てることが大切である。
- ・全国学力学習状況調査B問（「感じる」「考える」「表す＝考えをまとめる」問題）を解くことができる力を育てるような指導をすべきである。
- ・ワークシートの使いすぎ。ノート学習を充実させることが必要。

### <質疑応答>

質問①くらしを書いて読み合うことが指導要領から消えたのはなぜか。

②言語活動（考える・感じる・想像する）の中身（方法と内容）を教えてほしい。

③国語力を育てるためには、漢字指導が大切と受け取れたが、「話す」「書く」を複合的に指導した方がいいのか。語彙をしっかりと教えたらいいのか。

回答①生活が非常に多様になっているので、国語科で扱うのはむずかしい。家庭や地域における生活体験は必要。

②思考力の基となる質の高い語彙・言葉を徹底的に育てていく。

論理的な文、文表現等にかかわる指導が必要である。

③漢字や文法を切り離して学習させるより、「書く」「読む」中で習得していく。読書も語彙力・漢字力を育てるために有効である。

## 言葉の力向上講演会・シンポジウム（平成19年5月8日）

### シンポジウム

「岡山県における『言葉の力』向上に向けて - 各教科・領域の指導とのかかわりの中で - 」

コーディネーター	ノートルダム清心女子大学	教授	田中 宏幸
シンポジスト	京都橘大学	教授	甲斐 睦朗
	岡山大学	准教授	寺澤 孝文
	岡山市立福島小学校	校長	成本 智幸
	倉敷市立真備中学校	校長	榎崎 裕志

(12:45 ~ 15:45)

### (本日の課題)

- 1 子どもたちの言葉の力の現状と課題
- 2 育てたい言葉の力とは何か
- 3 教科においてどうやって言葉の力をつけるのか
- 4 教科間の連携
- 5 言葉の力の基盤づくり 今後の方向性

### (意見発表)

寺澤准教授

- ・教育評価では、マイクロステップ計測法のような自己効力感・達成感のある評価が必要である。
- ・言葉の種類には2種類ある。表面的な理解・思考に基づくものと深い理解・思考に基づくものである。
- ・人間は感覚情報を長期に保存できる。言葉だけでなく、感覚を伴う経験が大切である。

成本校長

- ・社会科でも、文章情報、グラフ、年表、写真資料などから情報の取り出し、言葉を使って考えるなど、言葉の力を育てる視点がある。反復練習が大切。
- ・学力調査の問題のような、根拠をもって自分の考えを書く、話すということを、すべての教科や生活の中で大切にしていかなければならない。
- ・図書館も情報センターとしての役割がある。
- ・教師自身が根拠をもって自分の考えを書くことが大切である。

榎崎校長

- ・プラスの声かけ（言葉の力）によって、子どもが実際にプラスに変わる。言葉の力には、人間関係を形成する力がある。
- ・数学の概念を実感を伴ったものにするために、生活とつながる部分を大切にする。
- ・昨年、全員に自分の考えをもとに原稿を書かせて、弁論大会を復活した。
- ・親同士のつながり、意見交換を目指し、学校便り「応援団」を発刊している。

甲斐教授

- ・総合的な学習の時間によって、国語科で学んだ力を総合的に大きな流れの中で活用し、自分の問題として取り組むことができる。
- ・一分間スピーチ（スピーチに対する質問、質問に自分の考えを表す、感想を話す）などの積み重ねで、子どもたちの自分の考えをまとめ発表する力が付いてくる。
- ・高校から、中学への提言もあってよい。
- ・教師同士チームを組んで、単元、授業の組み立て方について研究してほしい。

### (質疑応答)

質問：言葉の力を具体的にどう考えるか。

寺澤：友達の意見を聞き、しっかり子どもが考えることが大切である。深い思考のためには、言葉と体験のつながりを強めることが必要。経験が基盤にあり、言葉がある。

質問：書くことを大切に考えたいということか。

成本：書くことは思考とかわる。書くことの充実感をしっかり経験させたい。

質問：数学では物事を抽象化し、一般化することが必要。国語力とは異なる言葉の力として、記号化する力等が必要なのではないか。

榎崎：その通り。抽象化・一般化も子どもに分かりやすい言葉で伝えることが大切である。

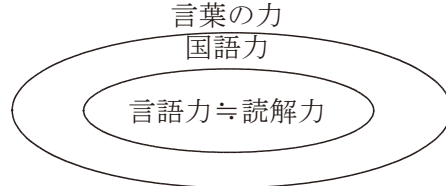
質問：言葉の力、国語力、言語力、読解力の4つの力の関係はどうなっているのか。

甲斐：言葉の力～岡山県が使っている用語。国語力と言語力を合わせ持つ。

国語力 ～日本人であるための日本語の能力。

言語力 ～学校教育の中で必要とする日本語の力。

読解力 ～社会で社会生活で求められる言語力。



質問：国語科で国語力を育成するには、古典等の他に何を上げると良いか。

甲斐：明治以降の文豪の作品、最近の文学作品、ノンフィクションなど。詩歌、俳句短歌における季語や漢語、和語なども国語力育成の材料と考えている。

質問：長文読解で、生徒に興味をもたせるのはどうすればよいか。

甲斐：小学校の教材で学習していない、やさしい教材を取り扱うとよい。読解力向上プログラムの指導用例も参考にしてほしい。

質問：漢字には音訓があり、同時に教えるのは難しいがどうすればよいか。

甲斐：多くの音をもつ漢字などは、回数を分けて教えればよい。

質問：「考える力」には、「感じる」「想像する」なども含まれるのではないか。

甲斐：広く解釈すると「考える」の中に「感じる」「想像する」などを含む。狭く解釈すると、「感じる」「考える」「想像する」となる。

質問：明日からどうすればよいか、具体的に教えてほしい。

田中：言いたいことが相手に伝わったという体験や書く必要性のある場の設定、似た体験をしているが感じていることはみんな違うという実感をもつことが必要である。書き方として、現在→過去→未来の順で書くなど手順を教えることも大切である。

### (まとめ)

#### ○ 檜崎校長

- ・電話のかけ方など、教え込むことをためらわず、積極的にしないといけない。
- ・相手がプラスに受け止める、元気がもらえる言葉が大切である。
- ・電話やメールより直接会って伝えた方がよい。相手の表情など文字以外のものがある。
- ・相手との人間関係が基盤となっている。

#### ○ 成本校長

- ・学校便り、学級通信に教育のねらい、子どもの育ちを掲載し、保護者にも伝える。配慮は必要だが、子どもの名前も出して良いのではと思う。
- ・公開授業の後、教師にコメントを書いて返している。一生懸命見て、言葉に書いて伝えていく姿勢を教師として保ちたいと思っている。

#### ○ 寺澤准教授

- ・感覚的情報を長い間、人間は保存する。そこから実体験と言葉を結びつける発想につながる。
- ・勉強は蓄積すると、飛躍的に伸びるときがくる。繰り返したり、続けたりすることが大切である。

#### ○ 甲斐教授

- ・学力調査の結果や問題の傾向を教師同士で検討してほしい。
- ・豊かなコミュニケーション能力の育成のため「書くこと」を大切にしてほしい。
- ・手紙は他者との対話であり、日記・作文は自己との対話である。

#### (本日のキーワード)

- \* 生涯学習を見据えた言葉の力の育成
- \* 生きて働く場の中で育てる
- \* 体験を増やすとともに、体験と言葉を結びつける
- \* 言葉と人間関係
- \* 語彙、読書、作文指導
- \* 地域・家庭とのつながり

## 言葉の力向上委員会報告書

### はじめに

子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、様々な思いや考えをもつ他者と対話したり、豊かな言語文化を体験したりする機会が乏しくなった。そのために、子どもたちの言葉の力が低下し、言葉で伝える内容が貧弱なものとなり、言葉に関する感性や技能、知識などが育ちにくくなっていると言われている。

また、平成18年度学習到達状況調査の結果、岡山県においては、理解力や表現力、思考力に課題があり、「書く」「説明する」など言葉を用いた学習を充実することが指導の改善のポイントだということが明らかとなった。

こうした状況を鑑みるならば、理解力や表現力、思考力を育て、よりよい人間関係を築くための「言葉の力」向上に向けた取組を総合的に進めていくことが喫緊の課題であると言える。

本報告書は、このような趣旨から、岡山県における「言葉の力」向上に向けた学校教育における取組について検討を行い、「言葉の力」を向上させていくための基本的な考え方と推進方策を取りまとめたものである。

### 1 基本的な考え方

#### (1) 「言葉の力」の必要性

本報告書で述べる「言葉の力」とは、「言葉を読みとる力」「言葉を活用する力」「言葉でつなぐ力」と定義する。

言葉は、「確かな学力」を形成するための基盤であり、社会生活においても不可欠なものである。言葉はまた、他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段であり、家族、友達、学校、社会と子どもをつなぐ役割を担っている。言葉はさらに、認識力や思考力を支え、知的活動の基盤となるものである。しかも、このように重要な役割を担っている言葉は、単独で育つものではなく、他者とのかかわり合いの中でお互いに影響し合って育っていくものである。

これらのことから、「言葉の力」は、全ての教育活動や生活を通じて重視して育成していくことが求められる。

#### (2) 「言葉の力」にかかわる課題

子どもの「言葉の力」の育成にかかわって、以下の諸点に改善すべき課題が見られる。

- |                 |
|-----------------|
| ① 「言葉を読みとる力」の育成 |
| ② 「言葉を活用する力」の育成 |
| ③ 「言葉でつなぐ力」の育成  |
| ④ 「言葉をめぐる環境」の育成 |

##### ① 「言葉を読みとる力」にかかわる具体的な課題

- ・豊かな語彙をもち、文脈に応じて使いこなすこと。
- ・文章構成や論理展開を踏まえて、内容を理解すること。
- ・文章、式、グラフ、地図等の多様な資料を活用し、読みとった情報を基に考えをまとめること。

##### ② 「言葉を活用する力」にかかわる具体的な課題

- ・各教科における用語を使って説明すること。
- ・目的や意図に応じて、自分の考えを書くこと。
- ・様々な資料を活用して、自分の考えを書いたり、意見交換したりすること。

- ③ 「言葉でつなぐ力」にかかわる具体的な課題
  - ・言葉を使って自己表現や他者理解をして、豊かな人間関係を築くこと。
  - ・意見の違う人と積極的に議論して、協同的に問題解決をすること。
- ④ 「言葉をめぐる環境」にかかわる具体的な課題
  - ・自然や社会等にかかわる豊かな体験をし、体験に基づいた言葉の獲得をすること。
  - ・他者と対話したり、豊かな言語文化に触れたりする体験をすること。

### (3) 岡山県における「言葉の力」の5つの目標

これらの課題を解決するために、「言葉の知識」を増やすとともに、「教養、価値観、感性」等を豊かに育てることを前提として、以下の5つの目標を実現する学習指導を積極的に推進する。5つの目標は、学校生活全体において培うことを基盤としつつ、各教科・領域の特性に応じて培うことが大切である。(P 5 参照)

- (1) 語彙を豊かにし、的確に使いこなす力を育てる
- (2) 理解・評価しながら、聞いたり読んだりする力を育てる
- (3) 目的や状況に応じて、考えを筋道立てて話したり書いたりする力を育てる
- (4) 互いに尊重し合いながら、交流する力を育てる
- (5) 本や新聞など多様なテキストに親しませ、考え方や感じ方を豊かにする

## 2 5つの目標の達成を目指す指導の充実

### (1) 語彙を豊かにし、的確に使いこなす力を育てる

論理や情緒に関する語彙を豊かに身に付け、的確に使いこなすことは、「言葉の力」の基盤であり、思考力を高めたり、情緒を豊かにしたりすることにつながるものである。

#### 【指導改善の方向】

- ・実生活の中で、読書や遊びを通じて語彙を充実させる。
- ・各教科等で習得する学習語彙を整理し、まとめや話し合いに取り入れる。
- ・学習や生活の様々な場面で辞書などを活用する。
- ・文型を活用したり、段落相互の関係に着目させたりして、論理を展開できるようにする。

### (2) 理解・評価しながら聞いたり読んだりする力を育てる

情報や資料について、目的意識をもって知識・経験と結びつけて分析・評価したり、発達段階に応じて比較・考察や批判的検討を加えたりすることが重要である。

#### 【指導改善の方向】

- ・基本的な概念の理解を確実にする。
- ・式、グラフ、地図情報、文章等の情報の意味を解釈し、説明する。
- ・様々な具体的な事象から概念を導き出したり、具体的事象に当てはめて説明したりする。
- ・「事実と意見の区別」「判断と根拠」「原因と結果」「比較・対照」という観点から聞いたり読んだりする。

### (3) 目的や状況に応じて、自分の考えを筋道立てて話したり書いたりする力を育てる

課題意識をもって学習する中で、自分の考えを明確にもたせ、目的や状況に応じて、筋道立てて話したり書いたりする機会を十分に確保することが必要である。



#### 【指導改善の方向】

- ・学習の様々な場面で、自分の意見を書く活動を取り入れる。
- ・記録文、説明文、生活文、レポートなどを書く機会を実態に応じて多様に設定する。
- ・目的や条件に合わせて、必要な資料等を使いながら客観的に論証する活動を取り入れる。
- ・事実と考えを書き分けることや、書いたものを分析することなどを通じて、自分の考えを吟味する。

### (4) 互いに尊重し合いながら、交流する力を育てる

よりよい人間関係を築くためには、日常のコミュニケーションにおいて、互いに尊重し合いながら、言葉を使って自己表現や他者理解をする態度を育成していくことが重要である。

授業では、自らの考えや集団の考えを発展させて行くために、全ての子どもがコミュニケーションに参加し、互いの考えを深めていく活動が求められる。

#### 【指導改善の方向】

- ・相手の発言を受け止め、的確に返すなど、「聞く力」を育てる指導を重視する。
- ・異なる考え方を相互に取り入れ深めていくような、ペアや小グループ、学級内での話し合いをする。
- ・意見の違う人と積極的に議論して、協同的に問題解決をする態度を育成することや、意見の対立が生じたとき、その対立を乗り越えて問題解決をする仕方を身に付けさせる。

### (5) 本や新聞など多様なテキストに親しませ、考え方や感じ方を豊かにする

読書活動については、国語科をはじめとして、各教科・領域にも位置付けるなど、学校生活全体を通じて積極的に推進する工夫が大切である。

幼児児童生徒の自主性を尊重しつつ、継続した読書指導を行っていくことが重要である。

#### 【指導改善の方向】

- ・読み聞かせや、異年齢での読み合いなど、読書に親しみを感じる工夫をする。
- ・朝の読書、日常生活の中での読書など、幅広く継続的な取組を行う。
- ・1冊の本をしっかり読み合って議論をしたり、複数の本を比較しながら読むなど、多様な読書経験ができるようにする。
- ・日常生活の中で、新聞等を読んで自分の意見を話したり書いたりする。

## 3 「言葉の力」育成の留意事項

「言葉の力」を育成するには、次に示す観点に留意しながら、更なる推進を図る必要がある。

- |                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 発達の段階に応じた指導の充実</li><li>(2) 教科を横断した指導の充実</li><li>(3) 言語をめぐる環境の充実</li><li>(4) 組織的推進体制の確立</li></ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### (1) 発達の段階に応じた指導の充実

幼児期から小・中学校へと発達段階が上がるにつれて、具体と抽象、感覚と論理、事実と意見、基礎と応用などについて、認識可能なレベルや実践できる水準が変化してくる。例えば、言葉の発達については、幼児期は言葉を獲得する時期、小学校低学年は言葉の世界を広げる時期、小学校中学年は言葉の力を確かなものとする時期、小学校高学年は言葉の力を豊かなものとする時期、中学校は言葉の力をいっそう確かで豊かなものとする時期と位置付けることができる。それに応じて、教育内容及び方法について検討する必要がある。(P6参照)

同時に、個々の幼児児童生徒の発達の実態や経験の違いに応じた配慮を行う必要がある。

## (2) 教科を横断した指導の充実

言葉は、学習の対象であると同時に、学習を行うための重要な手段である。学習で用いる言葉を精査し、国語科を中核としつつ、全ての教科等での言葉の運用を通じて、論理的思考力をはじめとした種々の能力を育成していくことが重要である。また、「言葉の力」向上の取組では、実際に必要性のある場の設定が必要である。こうした面からも教科を横断した指導を充実していくことが求められる。

その際、5つの目標を独立した指導としてのみ考えるのではなく、「言葉の力」向上の取組全体を見通しながら、必要に応じて組み合わせて指導していくことも有効である。

そして、全ての授業の中で、言葉を使って学びあうことの喜びを感じさせていきたい。また、各教科等の特質を踏まえて取り組むことが重要である。(P 7 参照)

## (3) 言語をめぐる環境の充実

「言葉の力」は、教育課程外の活動や家庭・地域における生活において育てられる部分も大きいことから、「幼児期の言語体験」の充実、「言語環境」の整備、「言語関係の場」の豊かな設定、「読書活動」の推進などの必要がある。例えば以下のような視点が考えられる。

- ・学校図書館や学級文庫の充実を図り、日常的に活用させる。
- ・教職員、幼児児童生徒の言葉遣いを、授業中だけでなく日常も含めて見直す。
- ・言語環境を意図的に構成し、言語感覚を豊かにする。
- ・体験をしっかりさせるとともに、体験に基づいた言葉の獲得をさせる。
- ・多く読ませて、多く書かせる。
- ・語り聞かせや読み聞かせなどによって、言葉の魅力を実感させる。
- ・聞く態度をきちんと身に付けさせていく。
- ・中学校の授業で、対話を十分取り入れた指導を展開する。
- ・教師が〇〇を積極的に育てる視点をもつ。

## (4) 組織的推進体制の確立

これまで述べてきた推進方策は、教職員が個別に取り組むのではなく、学校園全体で推進していくことで、「言葉の力」向上にかかわるいっそう豊かな育ちが期待できる。また、「言葉の力」は、家庭や地域における言語環境の影響力も大きいことから、家庭や地域と連携した言葉育ての取組を推進していく必要がある。そこで、学校園全体で、次のような組織的推進体制を確立していくことが有効と考えられる。

- ・幼児児童生徒や家庭、教師の言葉の状況について実態調査をし、課題等を調べる。
- ・共通理解を踏まえた組織的な取組にしていく。
- ・教育課程を編成する際の重要事項として「言葉の力」育成を掲げるように働きかける。
- ・校園内研修の一つのテーマ、観点として位置付ける。
- ・中学校は教科、小学校は学年などで、問題点を明確にし評価していく研究を進める。
- ・保護者会や学校便りを通じて、言葉に対する関心を高める。

## 4 その他

この報告書を踏まえて、県教育委員会が実践事例集を作成し、基本的な考え方や効果的な事例を具体的に示すことが有効であると考えられる。

言葉の力向上委員会 委員名簿

京 都 橋 大 学 文 学 部	教 授	甲 斐 睦 朗
ノートルダム清心女子大学文学部	教 授	田 中 宏 幸
岡 山 大 学 教 育 学 部	准 教 授	住 野 好 久
山陽新聞社編集局地域活動部	部 長	赤 田 貞 治
岡 山 市 立 高 島 中 学 校	校 長	小 坂 田 実
新 見 市 立 豊 永 小 学 校	校 長	田 中 由 貴 子
岡 山 県 立 図 書 館	総括副参事	磯 野 千 恵

言葉の力向上委員会作業部会 委員名簿

倉敷市立大高小学校	教 諭	竹 井 倫 子
岡 山 市 立 御 南 小 学 校	教 諭	野 崎 尚 子
早 島 町 立 早 島 小 学 校	教 諭	平 松 幸
岡山市立岡山後楽館中学校	教 諭	服 部 由 利 香
岡 山 市 立 御 野 小 学 校	司 書	高 嶋 計 江
倉敷市立菅生小学校	教 諭	佐 野 薫
岡 山 市 立 操 山 中 学 校	教 諭	廣 瀬 三 枝 子
吉備中央町立吉備高原小学校	教 諭	竹 内 充 子
岡 山 市 立 操 南 中 学 校	教 諭	佐 藤 俊 行
井 原 市 立 稲 倉 小 学 校	教 諭	田 井 徳 彦
岡 山 市 立 旭 東 中 学 校	教 諭	藤 井 洋 子
岡 山 市 立 西 大 寺 中 学 校	教 諭	草 加 充 康
岡山県総合教育センター	指 導 主 事	大 滝 一 登
岡山県総合教育センター	指 導 主 事	久 山 将 弘
岡山県総合教育センター	指 導 主 事	杉 山 理 文
岡山県総合教育センター	指 導 主 事	山 崎 光 洋
岡山県総合教育センター	指 導 主 事	小 寺 邦 彦

なお、岡山県教育庁指導課が編集にあたった。

---

# 言葉の力

## 学校園全体で取り組む事例集

発行：平成20年3月

岡山県教育庁指導課

住所：〒700-8570 岡山市内山下2丁目4番6号

電話：086-226-7584

FAX：086-224-3035

ホームページ：[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=146](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=146)

---